

科目名	現代社会学入門	科目名 (英文)	Introduction to contemporary sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樫田 美雄, 岩井 八郎, 落合 知子, 加戸 友佳子, 小池 高史, 竹中 祐二, 中澤 芽衣, 平山 洋介, 藤井 和佐, 堀田 裕子, 山本 圭三, 好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1001a0		

授業概要・目的	本授業は、受講生が「自分の日常の出来事が社会学での話題に結びついていること」「社会学での重要タームが日常のさまざまな場面を説明できること」などについての「気づき」を体験する、ということの基本コンセプトにする。「知識を定着させる」ことを主眼とする高校までの社会科とは異なり、社会学では知識や視点を得た後それを他の場面に応用したり、知識を活かして未知の現象を解明したりすることに1つの主眼がある。そのため、上記のような「気づき」は社会学の面白さそのものでもあり、社会学的な営為を進める原動力にもなり得るものとなるのである。授業では「日常と他者」「教育と逸脱」「都市と移動・定着」「エイジングと地域」といったテーマに沿って、我々の生活のさまざまな側面をオムニバスの取り扱う。授業の中では教員からの話題提供の後、ディスカッションや報告などを含めた多様なアクティブ・ラーニング形式を取り入れたかたちで学びを進める。こうした作業を通して、受講生が多方面にわたるテーマについて上記のような「気づき」を得て、後の4年間の学びに向けた基本姿勢を確立することが、本授業の狙いである。
到達目標	①社会学での議論が、自分たちの身近な問題をも説明できることがあると分かることができる。 ②身近な身近な出来事が、社会学における問題に結びついていることに気づくことができる。 ③社会のさまざまな現象について、多様に考えることの意義を理解できる。 ④社会学における基本的な概念を理解し、具体的に当てはめて説明できる。
授業方法と留意点	教員による講義の形式と共に、ディスカッションやグループワークなど、社会学的なアクティブシンキングが受講生ごとに達成されるよう多様な方法を実施する。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。
科目学習の効果 (資格)	本講義は、「現代社会の諸問題」と並び、現代社会学部での4年間の学びの最も基礎になる科目である。本講義を通して、社会学の入門過程に必須のものとしての、態度変容がなされるのならば、1回生後期からの学習が有意義なものになるだろう。具体的には、授業で取り扱われた社会学の発想になじみつつ、自らが興味を持ったテーマに関してレポートを執筆することで、社会に関して多様に考える知的な基礎体力が身につく効果が得られることだろう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の目的と授業の方針、担当者の紹介	事後：授業資料をもとに内容を学習
	2	日常と他者 1	・日常性にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	3	日常と他者 2	他者性にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	4	日常と他者 3	相互性にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	5	日常と他者 4	まとめのディスカッションとアウトプット	事前：アウトプット案を作成 事後：授業資料をもとに内容を学習
	6	教育と逸脱 1	・教育にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	7	教育と逸脱 2	・逸脱行動にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	8	教育と逸脱 3	まとめのディスカッションとアウトプット	事前：アウトプット案を作成 事後：授業資料をもとに内容を学習
	9	都市と移動・定着 1	・都市にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	10	都市と移動・定着 2	・移動・定住にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	11	都市と移動・定着 3	まとめのディスカッションとアウトプット	事前：アウトプット案を作成 事後：授業資料をもとに内容を学習
	12	エイジングと地域 1	・都市の高齢化にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	13	エイジングと地域 2	・農山漁村の高齢化にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	14	エイジングと地域 3	まとめのディスカッションとアウトプット	事前：アウトプット案を作成 事後：授業資料をもとに内容を学習
	15	まとめ	講義のまとめ・今後に向けて	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習

関連科目	「現代社会の諸問題」、現代社会学部のすべての専門基礎科目
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「今、ここ」から考える社会学	好井 裕明	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一橋桐子<76>の犯罪日記	原田 ひ香	徳間書店
	2	Iの悲劇	米澤 穂信	文藝春秋

	3	たんぼぼ団地のひみつ	重松 清	新潮社
評価方法 (基準)	日常のアウトプット (40%)、期末レポート課題 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	摂南大学・現代社会学部へようこそ。必修の2つの「オムニバス授業 (現代社会の諸問題、と、現代社会学入門) は、それぞれ、月曜日1限と火曜日1限に設定されています。まずは、起きて学校に来よう。そして、社会学を学ぼう。(火曜日の3限には1年生のゼミナールが開講されています。こちらにも出ましょう)			
担当者の 研究室等	3号館3階には、各担当の先生方の研究室があります。わからなければ、『現代社会学入門』の世話人教員の榎田の研究室へ。			
備考				

科目名	現代社会の諸問題	科目名 (英文)	Issues in Contemporary Society
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 慎一, 稲生 勝, 上野山 裕士, 江口 怜, 加戸 友佳子, 後和 美朝, 須藤 遙子, 竹端 佑介, 田中 晶子, 谷めぐみ, 中澤 芽衣, 松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1002a0		

授業概要・目的	現代社会は、さまざまな解決すべき諸問題に直面している。 本講義ではこれを、①グローバル (地球的) で、しかも同時にローカル (地域的) に立ち現れている諸問題 (気候危機と現代世界、戦争とメディア、地域社会と「生きづらさ」)、②大学生にとって身近な生活上の諸問題 (学校と教育、家族と心理、コミュニティと情報)、そして③一人ひとりの人間の身体や心と社会をつなぐ諸問題 (健康と保健・衛生、スポーツと社会、心身とコミュニケーション) という3つの領域で考察する。 現代社会におけるさまざまな諸問題に関する基礎知識を学ぶとともに、社会の構造やその変動、および、個々人の日常生活における解決課題を相互に結びつけて捉える「社会学的想像力」を身につける。
到達目標	①現代社会が直面している諸問題についての基礎知識を得ることができる。 ②現代社会の構造的な諸問題を、個々人の日常生活のレベルに降りた「自分ごと」として認識することができる。 ③個々人の日常生活・身体・心理で起きている諸問題を、現代社会の構造や変動と関連させて考察することができる。 ④これらの基礎知識や認識・考察を、今後の社会の主体的創造・再編について考えるために応用できるようになる。 ⑤幅広い現代社会の諸問題の中で、受講生各自が自身の関心・問題意識を明確にし、今後の学びの方向性・領域について考察することができる。
授業方法と留意点	授業の一部は教員による講義の形式とするが、事前課題をふまえた反転授業、および、受講者相互によるディスカッション、ブレインライティング、ヤーニングサークル、プレゼンテーション、ワークシート作成など、主体的な学びを重視する。 教科書は指定しないが、各時間の授業内容に即した参考書・参考文献を指示する。授業内容は主にパワーポイントで提示し、適宜、プリント・ワークシート等も配布する。 授業内で出された疑問・質問等に対しては、各授業内で対応するとともに、3つの領域それぞれで総括的に回答・対応する機会をもつ。
科目学習の効果 (資格)	本講義は、「現代社会学入門」と並び、現代社会学部での4年間の学びの最も基礎になる科目である。本講義を通して、幅広い現代社会の諸問題について基礎知識を得るとともに、受講生各自が自らの関心・問題意識を明確にし、今後の学びの方向性・領域について考察することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	I. 現代社会の諸問題とは何か ①本講義の課題と方法	現代社会の諸問題についての総論、および、多種多様な社会領域の研究の意義・面白さ・魅力を概説する。また本講義の目的・到達目標、今後の進め方・授業方法などを明示する。	事前：シラバスの理解 事後：授業内で提示する課題への回答
2	I. 現代社会の諸問題とは何か ②私(学生)が考える「現代社会の諸問題」	受講者が考える「現代社会の諸問題」について、特徴・傾向を共有・考察する。ヤーニングサークルを実施する予定。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
3	II. グローカルな現代社会の諸問題 ①気候危機と現代世界	深刻さを増す気候危機について、現代世界の政治・経済・科学技術の動向をふまえて考察し、社会や行動のあるべき姿を考える。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
4	II. グローカルな現代社会の諸問題 ②戦争とメディア	戦争時のメディア報道は、戦争のあり方・行方・世論に大きな影響をもたらす。本講では、戦争での SNS を含むメディアの役割や影響について考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
5	II. グローカルな現代社会の諸問題 ③地域社会と「生きづらさ」	地域には、価値観と境遇の多様化に起因する様々な「生きづらさ」が存在する。これを社会で解消していくための方法、一人ひとりができることを、地域福祉の観点から考える。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
6	II. グローカルな現代社会の諸問題 ④ニュースを多角的視点で読む	グローバルな現代社会の諸問題について、教員によるニュース解説をふまえ、受講生相互のディスカッション、プレゼンテーションを行う。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
7	III. 身近な現代社会の諸問題 ①学校と教育	学校システムは今、多くの課題を抱えており、学校批判や学校改革が様々な議論されている。本講では「学校」とはそもそも何かを歴史的に振り返りながら、現在の「学校」をどのように考えればよいかを議論する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
8	III. 身近な現代社会の諸問題 ②家族と心理	家族という集団の特徴、家族に関する事項、家族を通して浮かび上がる諸問題を心理学の視点から考える。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
9	III. 身近な現代社会の諸問題 ③コミュニティと情報	学生にとって身近なサードスペース (居場所) は、地域コミュニティの人の繋がりの希薄化、情報化社会におけるオンラインコミュニティの誕生により、大きく変化しつつある。本講では、より良いサードスペースのあり方を考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
10	III. 身近な現代社会の諸問題 ④学校・家族・コミュニティを多角的に考える	学校・家族・コミュニティという身近な社会の問題について、受講生相互のディスカッションを行う。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
11	IV. 身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ①健康と保健・衛生	生涯のライフステージにはそれぞれに特有の健康課題がある。本講では、それらの発症要因について考え、現代社会における我が国の保健・衛生活動について議論する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	
12	IV. 身体と心をめぐる現代社会の諸問題	現代社会におけるスポーツの社会的意義や価値、役割について考察する。ま	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答	

		②スポーツと社会	た、スポーツをめぐる諸問題を多角的に検討し、変化する社会や生活との関連で、今後の望ましいスポーツのあり方を考える。	
	13	IV. 身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ③心身とコミュニケーション	現代において、我々は多様なストレスを抱えている。私たちを取り巻く“外界”との関わりによって生じる心身のストレスと自己との対話について考え、議論する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
	14	IV. 身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ④健康・スポーツ・心理を複眼的に考察する	身体と心をめぐる現代社会の諸問題について、受講生相互のディスカッションならびにプレゼンテーションを行う。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
	15	V. 総括：未来社会の創造に向けて	現代社会の諸問題について、受講者による総括的なプレゼンテーション、ディスカッションを行う。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
関連科目	「現代社会学入門」、現代社会学部のすべての専門基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の提出物(事前・事後課題)(60%)、多様な形式でのアクティブラーニングへの主体的参加貢献(20%)、レポート(20%)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	浅野慎一の研究室			
備考				

科目名	社会学説史	科目名 (英文)	History of Sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1003a0		

授業概要・目的	近代社会を捉えるものの方にはどのようなものがあるのだろうか。社会学ではそれぞれが生きた時代状況を反映した理論の蓄積がある。本授業では、カール・マルクスから始め、エミール・デュルケーム、マックス・ヴェーバー、ゲオルグ・ジンメル、シカゴ社会学、アーバン・エスノグラフィ、G.H. ミード、R.K. マートン、T. パーソンズ、E. ゴフマン、A. シュッツ、H. ガーフィンケルを中心として、彼らが創造した理論や概念をわかりやすく説明する。それらは社会を捉える基礎であり、社会学を考える基礎と言える。「資本」「労働」「価値」「合理性」「行為」「構造」「関係性」「自己」「共在」「日常生活世界」「人々の方法」という概念と社会の見方を理解し、自分自身の問題関心に活用できる知として受講生各自が習得することを目的とする。
到達目標	①近代社会のありようと社会学の知を理解することができる。 ②過去の内容や理論が現代社会を理解するうえで有効であることを確認することができる。 ③過去の内容や理論を参照しながら、受講生各自が自らの問題関心を洗練させることができる。 ④受講生各自の問題関心に活用できる知として社会学理論と概念を習得することができる。
授業方法と留意点	基本は講義形式で行います。必要な事項は適宜、板書します。さらに適宜、講義内容に関連するワークを授業中に実施します。全体の講義のなかで、5回、小課題を課す予定です。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	近代社会の成立と社会学の始まり	産業革命後、近代社会がいかに成立したのかを説明し、社会学が近代社会とそこで生きる私たちの自己認識の学として成立したことを説明する。	事前：教科書1第1章を読んでおく。 事後：講義内容を整理し、再度教科書1の第1章を読みなおす。
2	資本と労働、剰余価値と疎外：カール・マルクスの社会学	現代社会を捉える基本概念である「資本」と「労働」そして「価値」をめぐる、カール・マルクスの社会学を概説する。	事前：「労働」とはどのような営みなのかを考えておく。 事後：教科書1第2章を読む。	
3	構造主義と社会的事実：エミール・デュルケームの社会学	「構造」からいかに社会を考えることができるのか。「社会的事実」という重要な概念も含め、『自殺論』という名著を中心にエミール・デュルケームの社会学を概説する。	事前：教科書1第3章を読む。 事後：講義内容を整理し、教科書1第3章を再度読み直す。	
4	合理化と『プロ倫』：マックス・ヴェーバーの社会学1	社会学の巨人であるマックス・ヴェーバーの社会学1。「呪術からの解放」と合理化という問題。『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の意味や意義を説明する。	事前：前回の講義内容を復習しておく。 事後：講義内容を整理し、教科書1第4章(83-98頁)を読む。	
5	支配の3類型と官僚制、社会的行為：マックス・ヴェーバーの社会学2	マックス・ヴェーバーの社会学2：近代社会を捉える重要な道具として「支配の3類型」「官僚制」「社会的行為」の考え方を説明する。	事前：前回の講義内容を復習しておく。 事後：講義内容を整理し、教科書1第4章(98-106頁)を読む。	
6	形式社会学と疎外：ゲオルグ・ジンメルの社会学	もう一人の巨人であるゲオルグ・ジンメルの社会学。社会や人間関係の形式、「人間的疎外」など現代社会分析に通じる重要な社会学を説明する。	事前：ヴェーバーの社会学を復習しておく。 事後：教科書1第5章を読む。	
7	社会問題から社会学へ：シカゴ社会学	ヨーロッパからアメリカへ。ヨーロッパから移民した人々が開拓したアメリカ。そこで生まれたシカゴ社会学を概説する。	事前：ジンメルの社会学を復習しておく。 事後：教科書1第6章(155-171頁)を読む。	
8	社会調査の基礎：アーバン・エスノグラフィ	現在の社会調査(質的・量的)の基礎であるシカゴ社会学のアーバン・エスノグラフィの意味と意義を概説する。	事前：初期のシカゴ社会学を復習しておく。 事後：講義内容を整理し、教科書1第6章(171-179頁)を読む。	
9	社会的自己論：G.H. ミードの社会学	G.H. ミードの社会学。個人のアイデンティティとは何か。社会に対する個人のありようを捉える基本である「社会的自己論」を説明する。	事前：前回の講義内容を復習しておく。 事後：講義内容を整理し、教科書1第6章(179-186頁)を読む。	
10	機能主義理論：R.K. マートンの社会学	社会学の基本的な説明概念である「機能」。人類学と社会学の機能主義を説明し、R.K. マートンの機能主義の整理を概説する。	事前：教科書1第7章(218-226頁)を読む。 事後：講義内容を整理し、教科書1第7章(218-226頁)を復習し理解する。	
11	構造機能主義と均衡：T. パーソンズの社会学	構造-機能主義理論の始祖、T. パーソンズの社会学。AGIL 図式、社会システム論、パターン変数など説明し、社会の「均衡」とは何かを考える。	事前：前回の講義内容を復習しておく。 事後：教科書1第7章(187-217頁)を読む。	
12	相互行為秩序と共在：E. ゴフマンの社会学	「他者とともに在ること」をテーマとした E. ゴフマンの社会学。対面的相互行為、印象操作、演劇論的自己、相互行為秩序など他者と自己の関係を捉える考え方を説明する。	事前：パーソンズの社会学を復習しておく。 事後：講義内容を整理し、復習しておく。	
13	日常生活世界の発見：A. シュッツの社会学	従来の社会学が前提としてきた「日常生活世界」「常識的世界」それ自体を社会学の分析対象とする A. シュッツの現象学的社会学。「日常生活世界論」「多元的現実」などを説明する。	事前：ゴフマンの社会学を復習しておく。 事後：講義内容を整理し、復習しておく。	
14	人々の方法・人々の社会学：エスノメソドロジー	日常さまざまな場面で私たちはどのように現実をつくりあげているのだろうか	事前：シュッツの「日常生活世界論」を復習しておく。	

			か。「実践的社会学者」としての私たちの姿を微細に読み解くエスノメソドロジー。その基本を説明する。	事後：エスノメソドロジーとは何かを講義内容をもとに今一度理解しておく。
15	現代社会を捉える 6 つの視点(まとめ)：「行為」「構造」「関係性」「自己」「日常生活世界」「人々の方法」	社会学の巨人たちが創造してきたさまざまな理論や概念、分析装置。それらを「今、ここ」から社会を考えるために必要な6つの視点でまとめ直す。		事前：エスノメソドロジーとは何かを復習しておく。 事後：教科書2第1章を読み、しっかりと理解する。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会学の歴史 I	奥村 隆	有斐閣
	2	「今、ここ」から考える社会学	好井 裕明	筑摩書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の小課題レポート(800~1000字)5回(50%)と定期試験(50%)で評価し、60%以上を合格とします。			
学生への メッセージ	これから4年間学ぶ社会学とは何か。先人が考え出した考え方や思いを理解することで、学問としての社会学をまずは理解してほしいと思います。そしてそれは単に学問的な知識ではなく、各自が社会で生きていくうえで社会や自分そして他者を批判的に捉え直す「生きられた道具」としても役立つことをできるだけわかりやすくお伝えしたいと思っています。大学の授業とはこんなものだというのを味わってほしいと思います。			
担当者の 研究室等	3号館3階・好井研究室			
備考				

科目名	社会心理学	科目名 (英文)	Social Psychology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1004a0		

授業概要・目的	社会心理学は、私たちが暮らす社会の中で、人と人で行われるやりとりの法則や生じやすい問題、集団や社会の中での個人の行動について、心理学的観点から明らかにすることを目的としている。幅広い社会心理学の分野の中から本科目では、社会的認知、社会的影響、対人コミュニケーション、集団の中での個人の行動について基礎的なトピックスを取り上げ、概説する。本科目を履修することにより、社会心理学で扱われる事象についての基本的知識を得ること、日常生活における自分や他者の行動について社会心理学的な視点から理解することをめざす。
到達目標	① 社会心理学の基本的知識や考え方を理解することができる。 ② 日常生活における自分の行動や人とのやりとりを、社会心理学的な視点から理解し、説明できる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイントによって行う。授業内容の理解を深めるため、適宜受講生が相互に考えや意見を共有できる機会を持つ。また、理解の定着を促すため、ミニクイズや小テストを実施する。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	社会心理学とは何か	ガイダンスと授業計画・授業方法、評価基準の説明、社会心理学の概要と研究方法	事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認
2	印象形成①	対人認知を規定する要因、初頭効果、中心特性等に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
3	印象形成②	ステレオタイプや偏見の影響、責任帰属等に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
4	自己認知・自己評価	自己スキーマや自己評価の維持に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
5	社会的比較・自己呈示	社会的比較や自己呈示に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
6	攻撃行動	メディアと攻撃行動、個人差に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
7	援助行動	援助行動の規定要因、傍観者効果等に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
8	同調と少数派の影響①	同調の規定要因に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
9	同調と少数派の影響②	少数派の影響、服従の心理に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
10	説得コミュニケーション①	態度形成と説得に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
11	説得コミュニケーション②	要請と受諾に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
12	うわさと流言	うわさと流言の規定要因、都市伝説やSNSに関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
13	集団意思決定①	社会的手抜きやリスクシフト等に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
14	集団意思決定②	リーダーシップを規定する要因に関する知見の概説	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認
15	まとめ	授業のまとめ	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の確認

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「心のクセ」に気づくには -社会心理学から考える	村山綾	筑摩書房
2	まんがでわかる社会心理学	北村英哉	カンゼン
3	すばらしきアカデミックワールド	越智啓太	北大路書房

評価方法 (基準)	授業時のミニクイズ 45%, 複数回の課題及び小テスト 55%
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階・田中研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	環境社会学	科目名 (英文)	Environmental and Social Studies
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1005a0		

授業概要・目的
気候危機、生物多様性の喪失、酸性雨、プラスチックごみ問題、森林破壊など、人類の存続が危ぶまれる環境問題について、これらを現代社会の問題として考える。
まず、その本質がよく現れている公害は、過去のものでなく、現在進行中であるのだが、公害をもたらした社会の構造を把握するとともに、それに対する反対運動も見て、基本的な理解を図る。
そのうえで、地球規模となった環境破壊を、やはり、社会の構造の問題としてみていくとともに、それらの解決を求める社会運動の在り方を考える。

到達目標
公害をもたらす社会の構造を理解する。
公害反対運動の意義を理解する。
公害と地球環境問題の連続性を理解する。
それらをめぐる運動の成果と、グリーンウォッシュなどに抵抗する社会勢力を認識する。

授業方法と留意点
キャンパスツアーを実施したいが、天候、観察対象の自然の状態などによって時期は前後する。
講義は、映像を用いたい。
ブレインライティングを取り入れたい。
授業内で出された疑問・質問に対しては、各授業内で対応するとともに、数回に一度、総括的に回答・対応する機会をもつ。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方、ブレインライティングのやり方	事後学習；ブレインライティングのチェック
2	水俣病	熊本水俣病、新潟水俣病、第3水俣病の原因、認定基準、未認定患者、潜在患者問題など	事前学習；ノーモア水俣裁判などを調べる
3	キャンパスツアー	キャンパス周辺の自然観察、外来生物の調査など	事後学習；外来生物調査
4	イタイイタイ病	イタイイタイ病の原因、認定基準、未認定患者、潜在患者問題など	事後学習；ブレインライティングのチェック
5	四日市ぜんそく	四日市ぜんそくの原因、認定基準、未認定患者、潜在患者問題など	事後学習；ブレインライティングのチェック
6	公害反対運動	裁判、住民運動、革新自治体の成立など	事後学習；ブレインライティングのチェック レポート作成
7	気候危機①	被害状況、自然科学的な仕組み、正のフィードバック	事前学習；映像などの視聴
8	気候危機②	国際的な交渉過程 化石賞など	事後学習；ブレインライティングのチェック
9	気候危機③	気候危機に取り組む国際的、日本国内の運動	事後学習；ブレインライティングのチェック
10	生物多様性の喪失①	現状と問題点	事後学習；生物多様性センターの見学？
11	生物多様性の喪失②	国際的な取り組み、アメリカの保全条約への未加盟問題、遺伝子組み換え生物の逸出問題	事後学習；ブレインライティングのチェック
12	工業的農業による自然破壊	気候危機との関わり 食料自給率の低下 途上国の農地開発による森林破壊	事後学習；ブレインライティングのチェック
13	自然農法、有機農業	農業問題、食の安全	事後学習；ブレインライティングのチェック
14	森林破壊	熱帯雨林の破壊、日本における森林破壊	事後学習；植物園の見学？
15	まとめ	今日の公害問題、基地公害など	事後学習；期末レポート

関連科目
自然と科学の社会学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グレットさんの訴えと水害列島日本	岩佐 茂ほか	学習の友社
2	原発汚染水はどこへ	岩佐 茂ほか	学習の友社
3	環境リテラシー	稲生 勝ほか	リベラ出版

評価方法 (基準)
ブレインライティング 30%
中間レポート 30%
期末レポート 40%

学生へのメッセージ
新任で未確認のことも多く、また、学生の理解度なども考慮し、変更もありうる。

担当者の研究室等
3号館3階・稲生研究室

備考

科目名	都市計画論	科目名 (英文)	Urban Planning
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1006a0		

授業概要・目的	都市計画の分野では、経済・金融のグローバル化、産業の脱工業化、公共政策の市場重視への転換、人口・家族構造の変容、リスク社会の形成、市民社会・住民コミュニティの台頭など、前世紀末からの社会・経済・政治・イデオロギーの大規模な変化のもとで、先進諸国の多くに共通して、とくに“都市再生”のあり方が論点となってきました。この都市再生に関して、メガプロジェクトの推進、安全・安心の追求、タワーマンションの増大、人びとのライフコースの変化、老朽住宅地の改善、住民参加の街づくりなど、幅広い素材をとりあげ、誰が、誰のために、何のために、どうやって都市をつりかえようとしているのか、それは何を意味しているのか、といった問いを立て、検討します。
到達目標	①都市都市計画の概要について知識を得ることができます。 ②グローバル・エイジの都市再生について、その論理と手法の知識を得ることができます。 ③都市再生の多様なプロジェクトについて、幅広い知見を得ることができます。 ④都市を調べ、立論するグループワークの経験を得ることができます。
授業方法と留意点	この授業は、おもに講義とグループワークから構成されます。授業の多くで、学生諸氏は、(1) 短い講義を聴いた上で、(2) グループワークに取り組み、(3) グループごとに、持ち回りのリーダーが中心となってミニレポートを作成・提出する、という手順で学習していきます。なお、受講生の数、教室の形状などによって、授業の進め方と内容に変更がありえますこと、申し添えます。課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設けます。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	都市再生について	この回のみ、すべての時間を使って講義をします。都市再生の展開がどのような論理にもとづき、どのような状況を生みだしているのかを述べます。	事前：資料通読 事後：講義内容の復習
3	ホット/コールドスポット	不動産投資が進む「熱い」エリアと脱投資の「冷たい」エリアに都市が分裂するメカニズムと実態を分析します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
4	安全・安心または監視	都市再生の重要課題となった安全・安心ないし監視のための政策と技術を分析します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
5	増大するタワーマンション	タワーマンション増大のメカニズムと実態・課題を調べます。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
6	公園再生	民間投資による公園再生をどう理解・評価するのかを考察します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
7	若者のライフコース	社会経済変化のなかで都市に住む若い人たちのライフコースがどう分岐したのかを分析します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
8	女性のライフコース	都市のジェンダー化のもとで女性のライフコースがどう分岐したのかを分析します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
9	貧困とセーフティネット	都市貧困の原因と実態を考察し、セーフティネット政策のあり方を評価します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
10	人間像の発明	都市再生において新たな人間像を構築しようとする政策を検討します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
11	もう一つの都市再生	住民参加、ストック利用、小規模改善などのボトムアップ型の都市再生を調べます。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
12	古い住宅地をどうするか	既成市街地、オールドニュータウンなど	事前：資料通読

			の高経年住宅地の再生のあり方を検討します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
	13	空き家をどうするか	空き家増大のメカニズムと実態を調べ、それへの政策対応を評価します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
	14	大災害からの住宅復興	大災害からの住まいの再生について、実態と課題を検討します。講義の後に、グループごとにミニレポートのテーマを検討し、調べる事項、まとめ方などを議論します。	事前：資料通読 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成
	15	まとめ	未定（授業の進み方をみて検討します）	事前：ここまで提出したグループ・ミニレポート全体の復習 事後：授業全体の復習
関連科目	都市住宅論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生活の視点でとく 都市計画	薬袋奈美子ほか	彰国社
	2	「仮住まい」と戦後日本	平山洋介	青土社
	3			
評価方法 (基準)	グループ・ミニレポート 100%			
学生への メッセージ	グループワーク中心の授業を通じて、問いの立て方、何をどう調べるか、受講生同士の議論、ミニレポートのまとめ方などを工夫する力を身につけ、都市計画の面白さを知っていただければ、と願っています。			
担当者の 研究室等	3号館3階・平山研究室			
備考				

科目名	メディア社会学	科目名 (英文)	Media Sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1007a0		

授業概要・目的	本講義は、マス・メディアの歴史や理論、近年のインターネット状況について学ぶことが目的である。また、メディアが人間行動に与える影響についても考察していく。
到達目標	この授業は以下の目標を達成することを目指す。 ①マスコミュニケーションの歴史を理解することができる。 ②マスコミュニケーションの概念とモデルを理解することができる。 ③マスコミュニケーションが文化に与える影響について理解することができる。 ④マスコミュニケーションとニューメディアに関する理論を理解することができる。 ⑤メディアの経済とガバナンスについて理解することができる。 ⑥グローバルなコミュニケーションについて理解することができる。 ⑦マスメディアの組織について理解することができる。 ⑧メディア文化について理解することができる。 ⑨マスメディアの内容について理解することができる。 ⑩マスコミュニケーションの効果について理解することができる。

授業方法と留意点	本講義は、マス・メディアを中心とする基礎的なメディア理論を扱うため、講義形式が主となる。アクティヴ・ラーニングとしては、毎回決められたグループによる「今週のニュース発表」を行う（全員必須）。なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。
----------	--

科目学習の成果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、メディア、コミュニケーション、情報とは	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』1-1、1-3を熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
2	マスコミュニケーションとは	マスコミ4媒体、大衆（マス）、インターネットとの比較	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』1-4、1-5、3-5（1）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
3	近代社会の誕生	都市化、市民（ブルジョア）的公共圏、コーヒーハウス	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-1、3-2熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
4	新聞	グーテンベルクの活版印刷、民主化、ジャーナリズム	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-3（2）、3-4（1）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
5	出版	日本における出版の歴史	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-3（1）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
6	ラジオ	電波、場所感の喪失、国民化	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-3（3）、3-4（2）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
7	テレビ	「三種の神器」、衛星放送、テレ・ポリティクス	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-3（4）、3-4（3）、3-5（2）、3-6熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
8	写真、映画、メディア・イベント	複製技術時代、ハリウッド、擬似イベント	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』6-6（2）（3）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
9	マス・コミュニケーションの効果研究（1）	弾丸理論、プロパガンダ、世論	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』2-2（4）、4-2、4-3熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
10	マス・コミュニケーションの効果研究（2）	議題設定機能、沈黙の螺旋理論、オピニオン・リーダー	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』4-4、5-3熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
11	マス・コミュニケーションの効果研究（3）	能動的オーディエンス、カルチュラル・スタディーズ	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』4-5（3）、5-5（2）（3）（4）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
12	デジタル・デバイド	世代格差、地域格差、国家間格差	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』8-2（3）（4）、8-5 事後：授業内で提示する課題への回答
13	インターネット	WWW、地球村、SNS	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』4-6、6-3（4）、6-7（2）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
14	ファクトチェック	フェイクニュース、「いいね!」、AI	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』7-1、7-2、8-4熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
15	まとめ	フィルターバブル、集合的記憶	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』9-1、9-6熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答

関連科目	広報メディア論
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	コミュニケーション研究 第5版:社会の中のメディア	大石 裕
2	2			

	3			
参考書	番号	書名	著者名	出版社名
	1	現代メディア史 新版 (岩波テキストボックス)	佐藤 卓己	岩波書店
	2	よくわかるメディア・スタディーズ[第2版]	伊藤 守	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 (基準)	事前・事後課題 (30%) 授業参加度 (20%) 定期試験 (手書きノートや授業で指示した資料等の持ち込み可) (50%)			
学生への メッセージ	理論をふまえて批判的にメディアを分析できるようにしましょう！			
担当者の 研究室等	3号館3階・須藤研究室			
備考				

科目名	文化社会学	科目名 (英文)	cultural sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1008a0		

授業概要・目的	文化社会学は、社会学の一部であると同時に全体でもある。既存の文化を分析対象とするとき、それは「文芸社会学」や「演劇社会学」や「映画社会学」や「音楽社会学」等の諸・連字符社会学の集合体として、社会学の一部である。しかし、「文化現象として扱えるすべてのもの」を分析対象とするとき、それは社会学のフロンティアを切り開く活動そのものであり、「人々の世界認識」を扱う点で、社会学全体であるとも言えよう。本講義では、「現代社会学部の文化社会学」を講じる。すなわち、前者の狭義の文化社会学から入って後者の広義の文化社会学までの展望を内在的に呈示してみせる。そうやって「社会的思考の発展を体験しつつ、社会学が、人々を説明する社会学から、人々から学ぶ社会学に自己革新している現況」を実感してもらおう。具体的には、諸君の生活経験のあり方そのものが現代文化の実相である、ということを知ってもらいたい。これが本講義の目標である。
到達目標	① 文化社会学の下位領域である小説や伝記や評論を扱う「文芸社会学」での議論の仕方と概要を説明できるようになる。 ② 文化社会学の下位領域である漫才や音楽やミュージカルやオペラを扱う「舞台芸術社会学」での議論の仕方と概要を説明できるようになる。 ③ 文化社会学の下位領域である写真やアニメや映画を扱う「映像社会学」での議論の仕方と概要を説明できるようになる。 ④ 広義の文化社会学が、推論実行機械としての人間の行為全般を扱うものであることを、例示しながら説明できるようになる。 ⑤ 授業内で創作発表をする学生は、自らの創作活動が文化活動であるとともに、社会的活動でもあるということを多面的に理解できるようになる。 ⑥ 創作活動に対する簡単な評論ができるようになる。
授業方法と留意点	本講義は、部分的反転学習の形式でおこなう。文化体験なくして文化社会学を実践することはできないからだ。まず授業の前半では、作品の呈示と分析の両方を行う。しかし、授業期間の中盤以降では、学生各自が、自力で「文化作品/文化現象」を鑑賞/体験すること、と、その鑑賞/体験を授業内で級友にプレゼンすることが重要となる。授業期間末においては、グループ・ワークを活用して、作品を作るか、作品鑑賞をするか、いずれにしても、文化に参与させる地点にまで諸君を促すことが、本授業の方法となる。課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。
科目学習の効果 (資格)	本講義は社会学の分野としての「文化社会学」について学ぶ科目であるとともに、「社会現象を文化現象として研究する」という「社会学方法論」の授業でもある。したがって、「文化社会学」の領域的知識が身につくとともに、「社会学」の方法 (あるいは、視角=パースペクティブ=も身につく科目になっている。結果的に、1年前期配当科目にふさわしく、1年後期以降の社会学の学習の基盤となる科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文化社会学概論	文化社会学は、社会学の一部であると同時に全体でもある。 (※『現代文化を学ぶ人のために』&『<当事者宣言>の社会学』 ※今後の授業の進め方の解説もする。	事前：シラバスの理解 (何が課題となっている授業なのか、考えてくる) 事後：<当事者宣言>に相当するものを社会の中から探す
2	文芸社会学 1	「走れメロス」と「山月記」の「裏の物語」は裏なのか？ (出口智之 2021in 渡部他『国語をめぐる冒険』岩波書店)	事前：「走れメロス」と「山月記」を読む 事後：学習課題の学習	
3	文芸社会学 2	『羅生門メソッド』という発想と「人々から学ぶ生活社会学」 (※黒澤明『羅生門』、オスカー・ルイス、『大杉栄自伝』)	事前：映画『羅生門』をみる (推奨) 事後：学習課題の学習	
4	文芸社会学 3	「社会を説明する社会学」と「社会から学ぶ社会学」の対比。 (近森高明「タグづけされる世界と「くくり」の緩やかな秩序」)	事前：ここまでの授業過程を総括してこよう 事後：学習課題の学習	
5	小括	各自の「文学体験」を語り合おう。 各人の「創作体験」を語り合おう。 「社会を表象するものとしての文化」と「文化によって創られる社会」の相互反映性を語り合おう。	事前：各自の文学体験/創作体験を纏め直してこよう 事後：学習課題の学習	
6	舞台芸術社会学 1	吃音の可能性を拓く (言い難そうにする効果としての真实性) (※井上ひさし『日本人のへそ』、吃音と東北弁の類同性)	事前：言いにくそうにする意味について考えてくる 事後：とにかく「舞台」を見に行く。繁昌亭でもいいし、吉本系でもいいし、宝塚歌劇でもいいし、オペラでもいいがどれかには行く。	
7	舞台芸術社会学 2	落語と漫才の社会学。誰が誰を笑っているのか。再帰性問題。 (※アンジャッシュ『障子をへだてて』における聴衆の位置)	事前：落語はなぜ1人の演者なのに対話に聞こえるのか考えてくる 事後：とにかく「舞台」を見に行く。繁昌亭でもいいし、吉本でもいいし、宝塚歌劇でもいいし、オペラでもいいがどれかには行く。	
8	映像社会学 1	故実皮膜の彼方、あるいは、映画としての人生。 (※是枝裕和 1998『ワンダフルライフ』における嘘と願望)	事前：『ワンダフルライフ』(119分、アマゾンプライムにあり)の事前視聴を強く推奨する 事後：真実と嘘をテーマとした諸映画作品の複数の視聴を強く推奨する (たとえば『ブレードランナー』)	
9	映像社会学 2	写真を読む。ダブル・コンティンジェンシー (二重の条件依存性) 問題の実践的解決。 (※中塚朋子他 2010「写真鑑賞場面における相互行為分析」)	事前：15年以上の前に撮影された写真を探して、何が読み取れるか考えてくる (教室に持参することを推奨)。自分に創作体験がある学生は教員に何分でプレゼンテーションが可能か申し出る準備をしてこよう 事後：学習課題の学習	
10	文化社会学の現在	ファン参加型文化としての『マトリックス』と『コミケ』。創作体験のある学生による作品のプレゼンテーション (※ジェンキンス『コンヴァージェンス・カルチャー』)	事前：自分の「推し」について、いつごろからか、なぜなのか、考えてくる。創作体験のある学生は、プレゼンテーションの準備をしてこよう 事後：学習課題の学習	
11	読み物としての社会 1	LGBTQI の多様化を、他者理解の様式変容として読み解く。	事前：「パンセクシュアル (全性愛)」「アセクシュアル」「トランスヴェスタイト」について調べてこよう	

			(※石田仁 2019 はじめて学ぶ LGBT 基礎からトレンドまで)	る 事後：学習課題の学習
	12	読み物としての社会 2	オリ・パラの歴史を、クラス分けの支配の強化史と読み解く。 (※「東京 2020 オリパラ競技大会から考える人権社会学」)	事前：パラリンピックの歴史について調べてくる 事後：学習課題の学習
	13	読み物としての社会 3	診察/診断コミュニケーションを相互配慮の実践として読む。 (※ヘリテージ&メイナード『診療場面のコミュニケーション』、クリスチャン・ヒース、オンラインコメント)	事前：患者の目をみて話さない医師の行動の適否について考えてくる 事後：学習課題の学習
	14	社会を読む実践 1	街歩きをしよう。NHK『プラタモリ』と『路上観察学入門』。あるいは『座席取りの社会学』 (※新之介『地形散歩のすすめ』での自然変化の人間物語化)	事前：電車の座席に座る人が入れ替わるメカニズムを観察してみよう。その観察結果を、作品＝映像、文芸、イラスト等々ジャンルは自由＝にまとめて報告できるようまとめてみよう。 事後：学友のプレゼンテーション結果に感想を書こう。
	15	社会を読む実践 2	日常を刺激的にする境界横断的の学問としての文化社会学。 (※木村朗子ほか編『世界文学としての<震災後文学>』)	事前：これまでの学習と社会学の関係について考えてこよう 事後：定期試験の復習
関連科目	「現代社会学入門」(1年前期)、「日常生活世界論」(2年後期)、「ビデオ・エスノグラフィー」(3年前期)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	<当事者宣言>の社会学 - 言葉とカテゴリー -	樫田美雄・小川伸彦 (編)	東信堂
	2	全訂新版 現代文化を学ぶ人のために	井上俊 (編)	世界思想社
	3	慈悲のポリティクス	奥村隆	岩波書店
評価方法 (基準)	授業理解度把握の定期試験 (40%) と複数回の小テスト (60%、プレゼンテーションを含む、但し加点法) で評価し、60%以上で合格とする			
学生へのメッセージ	世界は意味に満ちあふれている。そのことに気づくところから「文化社会学」は始まるし、じつは「社会学」も始まるのである。したがって、この「社会学」というものの実践形態と、文芸評論や映画評論の実践形態はたいへん似てくることになる。ということは、次のようなやり方で、あなたの「社会学」を始動できる、ということだ。まず、自分の「推し」にかんする「ディープな評論」を読んで「社会的に」考えることをしよう。具体的には、当該の「評論」が成り立つ仕組みを考えよう。どんな推論が「評論」の背後にあるのか、そして、その「推論」がどのように妥当なものとしてあつかわれているのか、考えよう。ついで、「推し」ではないけれども、関心の持てる範囲の「文化現象」について「ディープな評論」を読んで、同じように考えよう。そうすれば、そこで取られている身振り (過去や他事例との比較の仕方) や、論理操作のやり方 (説得力の持たせ方) はほぼそのまま、社会学の身振りや論理操作のやり方なので、あなたは、「(文化)社会学」の学習の入り口に立ったといえるだろう。とにかくやってみよう。うまくいかなかったら、担当教員に報告して助言をもらおう (こそとと自学自習するなら、エスノメソドロジーという用語をしらべて考えよう)。			
担当者の研究室等	3号館3階の樫田研究室			
備考	10回目授業と14回目授業については、学生同士の「プレゼンテーション」が充実したものになるように「50人教室」を6室ほど予約する予定。 (具体的には、創作体験のある学生を、動画映像作品の教室、静止画映像作品の教室、文芸作品の教室、コミックの教室、舞台作品の教室、に分けて、交代交代でプレゼンテーションをしてもらう。ミニ文化祭のような企画を考えている)。また、毎回の授業終了後に、チームで感想を書いてもらう予定 (同時に、質問や相談も受け付ける)。授業において創作発表する場合には、資材や機材 (撮影機材等) を援助できる可能性もあるので、教員に相談すること。授業外への発表 (HP等) の仲介もできる可能性があるため、そのような希望がある場合は、教員に相談すること。			

科目名	日本社会変動史	科目名 (英文)	History of Japanese Social Change
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1009a0		

授業概要・目的	<p>本講は、「日本/日本人」を主な対象として、「国家・国民・民族 (nation)」の歴史・現状、そして未来を考える。20世紀半ば、人類は帝国主義・植民地支配を克服し、ほとんどの国・地域で「国民主権/民族解放」を達成した。これはもちろん、人類社会の大きな進歩ではある。</p> <p>しかし、その後も人類は、さまざまな困難に直面し続けている。地球規模の自然環境破壊や経済格差、国境を越えた難民・移民の移動、政治的独裁や民族紛争、排他的ナショナリズムや民族差別、国家が引き起こす戦争などである。多くの「国民/民族」の生活も、貧困や格差、差別やいじめ、人間関係の悩みなど、「生きづらさ」を抱え続けている。世界は、「国民主権/民族解放」の達成だけでは解決できない諸課題に満ちている。「国家・国民・民族 (nation)」がもつ意義と限界とは何か。人類は、その限界を克服した新たな未来社会を実現できるのか。本講は、このことを「日本/日本人」に即して考える。</p>
到達目標	<p>①「日本/日本人」という「国家・国民・民族 (nation)」の歴史的な形成過程、現代の特徴、未来の展望について、基礎的な知識を身につけることができる。</p> <p>②現代日本の社会構造や日常生活を、歴史的な社会変動の一環として広い視野から認識することができる。</p> <p>③日本社会を形成し、歴史的に大きく変動させてきた人々の主体性と創造力を理解することができる。</p> <p>④これらの基礎知識・認識・理解を、今後の日本社会の創造・再編について考えるために応用できるようになる。</p> <p>⑤「日本/日本人」と、それ以外の多様な「国家・国民・民族」との共生の道筋について考えることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業の一部は教員による講義の形式とするが、事前課題をふまえた反転授業、および、受講者相互によるディスカッション、ワークシート作成など、主体的な学びを重視する。</p> <p>教科書は指定せず、各時間の授業内容に即した参考論文・記事等を紹介する。授業内容は主にパワーポイントで提示し、適宜、プリント・ワークシート等も配布する。</p> <p>授業内で出された疑問・質問に対しては、各授業内で対応するとともに、教回に一度、総括的に回答・対応する機会をもつ。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>本講は、「日本/日本人」の歴史的な形成過程、および、現代の特徴について考察する。したがって、現代日本のさまざまな社会的領域 (学校教育、家族、企業、地域、福祉、政治など) に関する他の授業科目の学修に際しても、それらを通底する「日本/日本人」に固有の特徴を、より深く理解できるようになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「日本人」とはだれか?	「私は何人ですか?」 「暗黙のナショナリストとしての私たち」 「ネイション (国家・国民・民族) は、いつ生まれ、いつまで続くのか?」 「基本的な人権と国民主権の矛盾」	事前: シラバスの理解 事後: 授業内で提示する課題への回答
2	「単一民族神話」の幻想と現実	「二つの『単一民族神話』」 「国籍・移民制度にみる日本国」 「日本における外国人労働者」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
3	二つの「マージナルパーソン (周縁人)」	「在日韓国朝鮮人にみる日本国・日本人」 「中国残留日本人にみる日本国・日本人」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
4	旧石器時代・縄文時代の「日本・日本人」は存在したか?	「ホモサピエンスの誕生と『日本列島』への流入」 「『日本列島』におけるホモサピエンスの生活」 「『日本列島』における社会の諸特質」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
5	「日本列島」における国家の誕生	「水稲・農耕革命の衝撃」 「『日本列島』における国家形成の特徴」 「『倭人』とはだれか?」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
6	「日本国/日本人」の誕生	「東アジア世界の激動と日本国の誕生」 「日本国と天皇の独自性」 「律令制としての日本国の矛盾と崩壊」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
7	「日本国/日本人」の多元化と分裂・流動化	「荘園-権門体制としての日本国」 「東アジア世界における荘園-権門体制」 「権門体制としての日本国の矛盾と崩壊」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
8	天下統一と鎮国	「世界システムと『天下統一』」 「黄金の国・ジパングの終焉と幕藩体制」 「市場経済の発展と『日本国』の衰退」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
9	帝国主義世界システムと「日本国/日本人」の構築	「黒船開国と近代国家としての日本」 「国民国家の形成: 天皇と国民」 「『日本国民』化への抵抗」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
10	大日本帝国と臣民たち	「帝国主義・植民地支配」 「臣民とその成熟」 「大東亜に開かれた『日本民族』」 「大日本帝国の崩壊」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
11	敗戦と東西冷戦下の「単一民族神話」	「侵略戦争・植民地支配の反省とその限界」 「アメリカの世界戦略と日本」 「高度経済成長と『単一民族神話』の構築」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答
12	「単一民族神話」の「日本国/日本人」	「戦後日本人の『平和』と『民主主義』」 「マイノリティの排除・同化の強制」 「学校・企業・地域社会にみる『単一民族神話』」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答

	13	グローバリゼーションと「日本国／日本人」	「高度経済成長の破綻と『国際化』」 「多民族社会・日本の光と影」 「学校・企業・地域社会にみる『構造改革』」	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答																
	14	「失われた30年」と「日本国／日本人」の散逸	「米中の世界戦略と日本」 「多文化共生・統合・包摂の欺瞞・破綻」 「遺伝子操作・AIの衝撃」	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答																
	15	「日本／日本人」の未来を考える	「我々はどこからきたのか?」 「我々とは誰なのか?」 「我々はどこへ行くのか?」	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答																
関連科目	社会構造変動史																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>日本社会の歴史（上中下）</td> <td>網野善彦</td> <td>岩波新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単一民族神話の起源</td> <td>小熊英二</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>異国の父母</td> <td>浅野慎一・とう岩</td> <td>岩波書店</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本社会の歴史（上中下）	網野善彦	岩波新書	2	単一民族神話の起源	小熊英二	新曜社	3	異国の父母	浅野慎一・とう岩	岩波書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	日本社会の歴史（上中下）	網野善彦	岩波新書																	
2	単一民族神話の起源	小熊英二	新曜社																	
3	異国の父母	浅野慎一・とう岩	岩波書店																	
評価方法（基準）	毎回の提出物（事前・事後課題）（60%）、アクティブラーニングへの主体的参加貢献（20%）、レポート（20%）																			
学生へのメッセージ	本講は歴史（日本史）的要素を多く含みますが、受講に際して、高校までの日本史・世界史等の知識は必要ありません。それらも含め、基礎から講義します。また本講は、歴史を「暗記物」ではなく、現代社会の成り立ちと未来の理解に資する知として学びます。																			
担当者の研究室等	3号館3階・浅野研究室																			
備考																				

科目名	自我と関係の社会学	科目名 (英文)	Sociology of Self and Relationships
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1010a0		

授業概要・目的	私たちはさまざまな具体的な関係のなかで、他者やモノとの相互行為を通じて社会とつながると同時に、自我を形成していく。本授業では、相互行為論の考え方を軸に、関係のなかで生じる社会化と自我の形成、アイデンティティをめぐる問題、地位-役割の働きについて学び、自我と関係についての理解を深める。また、日常生活における出来事や行為を関係のなかでまなぐ視点も学習していく。差別と排除、逸脱、孤独と孤立といった諸問題や、日常生活の一部となったインターネットにおける関係について、そこでおこわれている相互行為を事例とともに考えていく。これらの学びによって、自己を理解するということは関係を理解することであり他者を理解することである、という視点を獲得することが目的である。
到達目標	①自我の成り立ちについての知識と考え方を得ることができる。 ②他者との関係の中で形成される人間の性質や行為に関する知識と考え方を得ることができる。 ③社会問題の要因を関係の在り方からまなぐための知識と考え方を得ることができる。 ④これらの知識と考え方をもち、日常生活で生じる諸問題に気づき、それについて関係の観点から自分自身で考え説明することができる。
授業方法と留意点	授業は、基本的には事前学習に基づく講義形式でおこなう。講義では、テキスト兼ノートとしての「配布資料」を活用する。理解を深めるために、個人で課題に取り組んだり、グループディスカッションをおこなったりする。 事前・事後課題として、内容を読んでくる、もしくは、用語の意味や社会事象について調べてくる「事前シート」と、授業の理解度を自己確認するための「事後シート」を課す。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	社会化と自我の形成 (1) 人「間」になるということ	社会学における社会化と自我の考え方について、その意義と問題点を理解する。 キーワード: 自他未分、鏡に映った自己、ホモ・ソシオロジクス	事前: 事前シートの閲読 事後: 事後シートへの取り組み
3	社会化と自我の形成 (2) 自我形成過程	自我形成過程と、そこでの他者、自己の身体、モノの働きについて理解する。 キーワード: ゲーム期/プレイ期、主我 (I)/客我 (me)、問題的状况	事前: 事前シートの閲読 事後: 事後シートへの取り組み
4	社会化と自我の形成 (3) 近代的自我	「我思うゆえに我あり」における「我」などを例に、自己についての考え方自体の社会性を理解する。 キーワード: 独我論、近代的自我、ワレ-ソレ関係/ワレ-汝関係	事前: 事前シートの閲読 事後: 事後シートへの取り組み
5	地位-役割・シンボル・相互行為 (1) 社会と集団のなかの自我	社会や集団のなかの自己の位置づけと自我との関連性について理解する。 キーワード: 地位-役割、役割葛藤、役割距離	事前: 事前シートの閲読 事後: 事後シートへの取り組み
6	地位-役割・シンボル・相互行為 (2) ドラマトウルギー	日常生活を演劇 (ドラマ) になぞらえて考える社会学的手法について学ぶ。 キーワード: 演劇理論 (ドラマトウルギー)、表局域/裏局域、自己呈示、印象操作	事前: 事前シートの閲読 事後: 事後シートへの取り組み
7	地位-役割・シンボル・相互行為 (3) 発話とジェスチャーの意義	相互行為における言語や身振りの働き、および、自己について物語ることの意義を理解する。 キーワード: 発話、ジェスチャー、意味シンボル、自己物語論	事前: 事前シートの閲読 事後: 事後シートへの取り組み
8	関係の中の行為 (1) 社会的行為	何気なくおこなう行為や感情のあり方に含まれる社会性について理解する。 キーワード: 行動/行為、動機、手段、目的	事前: 事前シートの閲読 事後: 事後シートへの取り組み
9	関係の中の行為 (2) 権力と支配	さまざまなかたちで関係や行為のなかに入り込む権力 (power) についての考え方を学ぶ。 キーワード: 支配/服従、象徴的暴力、パノプティコン	事前: 事前シートの閲読 事後: 事後シートへの取り組み

	10	関係の中の行為 (3) 群れとしての行為・行動	見ず知らずの人が含まれることもある、複数人との関係性のなかでの行為・行動について考える。 キーワード：集合体／集団、集合行動、意図せざる帰結	事前：事前シートの閲読 事後：事後シートへの取り組み																
	11	人間関係の諸問題 (1) 差別と排除	差別と排除のメカニズムを理解するとともに、社会的マイノリティにとっての自我の問題を考える。 キーワード：マイノリティ／マジョリティ、差別と排除、内集団／外集団、ジェンダー	事前：事前シートの閲読 事後：事後シートへの取り組み																
	12	人間関係の諸問題 (2) つくられる逸脱現象	逸脱現象に関するさまざまな考え方をたどるとともに、逸脱がつくられる過程を学び、レッテルを貼られる人びとの生きづらさを考える。 キーワード：予言の自己成就、ラベリング、スティグマ、通過作業(パッシング)、LGBTQ	事前：事前シートの閲読 事後：事後シートへの取り組み																
	13	人間関係の諸問題 (3) 連帯の変容と孤独・孤立	社会環境の変化に伴う人間関係および自我への影響、とりわけ現代の孤独と孤立をもたらす問題について考える。 キーワード：孤独／孤立、引きこもり、自殺	事前：事前シートの閲読 事後：事後シートへの取り組み																
	14	人間関係の諸問題 (4) インターネット上の関係性と自我	インターネットなどのメディアを介した人間関係とそこでの自我のあり方について考える。 キーワード：メディア、対面／非対面、状況の定義、リアリティ	事前：事前シートの閲読 事後：事後シートへの取り組み																
	15	まとめ —自己理解と他者理解のために—	※講義内容のまとめと質疑応答 自己理解の意義について振り返り、他者理解について「共感」の観点から考える。 キーワード：自己理解、他者理解、共感	事前：事前シートの閲読、質問事項の整理 事後：事後シートへの取り組み																
関連科目	身体とコミュニケーション																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マイノリティ問題から考える社会学・入門—差別をこえるために</td> <td>西原和久・杉本学 (編)</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自己と他者の社会学</td> <td>井上俊・船津衛 (編)</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マイノリティ問題から考える社会学・入門—差別をこえるために	西原和久・杉本学 (編)	有斐閣	2	自己と他者の社会学	井上俊・船津衛 (編)	有斐閣	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	マイノリティ問題から考える社会学・入門—差別をこえるために	西原和久・杉本学 (編)	有斐閣																	
2	自己と他者の社会学	井上俊・船津衛 (編)	有斐閣																	
3																				
評価方法 (基準)	授業への取り組み (20%)、授業内課題 (20%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生へのメッセージ	自己について考えることは、関係や他者について考えることとつながっています。そして、自己・関係・他者について考えるためには、おのずと哲学や心理学などの知見も必要となります。でも、他分野の知見も採り入れながら考えていくのは、社会学という学問の特徴であり、強みでもあるのです。本講義を通じて、社会的な考え方の基礎をしっかりと身につけつつ、多角的な視点を獲得していきましょう。																			
担当者の研究室等	3号館3階・堀田研究室																			
備考																				

科目名	スポーツ社会学	科目名 (英文)	Sport Sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1011a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツはそれ自体を楽しむだけでなく、他の様々な社会的事象に影響を与えている。例えば、オリンピック一つをみても本来はスポーツの祭典として始まったが、現代では開催国の経済的影響を強く受けるだけでなく、政治や人権問題等の様々な要因が関わりながら開催されている。また、スポーツや運動は本来自身が行うものであったが、メディアの発展により「観る」スポーツが生まれ、最近ではゲームの中で行われる「eスポーツ」の各種大会が開催されている。本講義では、遊びや運動、スポーツと人間との関わりについて解説するとともに、現代社会におけるスポーツと社会的事象との関わりについて理解を深める。
到達目標	①遊び・運動・スポーツに関する基礎的知識を得ることができる。 ②スポーツの歴史的発展に関する知識を得ることができる。 ③現代社会におけるスポーツの役割、価値について理解することができる。 ④スポーツに関連する事象を社会的な観点から多角的に議論することができるようになる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。授業内で出された疑問・質問に対しては、各授業内で対応するとともに、数回に一度、総括的に回答・対応する機会をもつ。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スポーツ社会学とは	ガイダンスと授業計画・授業方法・評価方法についての説明、スポーツ社会学の概要を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
2	遊び・運動・スポーツ	ヒトの発育発達と運動機能の獲得過程から、ヒトと遊び・運動・スポーツとの関わりについて考える。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
3	余暇と運動・スポーツ	わが国の世代別にみた余暇の過ごし方から、人々の運動やスポーツの関わり方について考える。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
4	わが国のスポーツ施策	わが国のスポーツ施策の変遷、スポーツ庁設置の経緯と役割からスポーツ施策について考える。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
5	わが国のスポーツ振興	スポーツ基本計画、スポーツ基本法の考えをもとに、わが国のスポーツ振興の在り方について議論する。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
6	プロスポーツとアマチュアスポーツ (1)	わが国のプロスポーツとアマチュアスポーツの違いや関わり方について議論する。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
7	プロスポーツとアマチュアスポーツ (2)	わが国のプロスポーツとアマチュアスポーツの今日的課題について議論する。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
8	スポーツと学校体育	小学校から高等学校までの体育科の学習指導要領の目的と内容から生涯スポーツを見据えた学校体育の役割について議論する。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
9	オリンピックと世界選手権	オリンピックや各種スポーツの世界選手権の成り立ちから、今日の世界規模の大会の在り方について議論する。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
10	スポーツとメディア	各種スポーツ大会を事例にしてスポーツとメディアの関わり方について議論する。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
11	スポーツと商業主義	各種スポーツ大会を事例にしてスポーツ大会の開催に関わる経費やスポンサーの関わり方について議論する。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
12	わが国の地域スポーツ	少年野球やゲートボールなどにみるわが国の地域スポーツの今日的課題について考える。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
13	スポーツの社会問題と社会的機能	スポーツに関わる今日的な社会問題から、スポーツの社会的機能について議論する。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
14	eスポーツを考える	eスポーツが生まれた歴史的背景から、eスポーツに今日的課題やその在り方について議論する。	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み
15	わが国のスポーツの在り方	本講義のまとめ	事前：事前配布資料を読み、課題に取り組む 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み

関連科目	地域スポーツ論、生涯スポーツ論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レジャー白書	日本生産性本部	生産性出版
	2	スポーツ白書 2020	笹川スポーツ財団	日経印刷

	3	スポーツ社会学研究	日本スポーツ社会学会	創文企画
評価方法 (基準)	受講態度 (10%)、事前・事後の課題への取組み (90%)			
学生への メッセージ	本講義では毎授業の事前・事後の課題への取組みによって評価しますので、課題は必ず提出するようにしてください。			
担当者の 研究室等	3号館3階・後和研究室			
備考				

科目名	地域福祉論	科目名 (英文)	Community Welfare
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1012a0		

授業概要・目的	地域に存在するさまざまな生きづらさを地域で暮らす、活動する、働く人びとの手で解決するための手法を地域福祉の概念から検討する。本講義では、地域福祉および地域の課題解決に関する諸理論とともに、地域福祉の実践事例を紹介する。また、それらの理論と実践の知見を踏まえ、受講者自身が身近な地域に存在する生きづらさとその解消方法について考える機会を設ける。これらの学びを通じて、受講生は、地域福祉について理解するとともに、自分なりの地域との向き合い方を明確にすることが期待される。
到達目標	①地域福祉の概念について、その基本を理解し、説明することができる。 ②地域が抱える課題を解決するための方法について、自分なりに説明することができる。 ③地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。 ④これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、思考、態度を身につける。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書などによる講義と、教員と学生、学生間の活発な対話に基づき、授業を実施する。 また、少人数でのプレゼンテーション、フィードバック、ふりかえりを積極的に取り入れ、学生は、これらの学びの機会に主体的に参画することが求められる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本における地方分権と地域福祉の主流化	日本における地方分権および社会福祉の進展について概観し、地域福祉の主流化にいたるプロセスを理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
3	地域福祉の基本的理解	地域福祉の定義やステップ、キーワードなどを紹介し、地域福祉の基本を理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
4	福祉コミュニティ論と自治型地域福祉論	地域福祉研究の視座を、福祉コミュニティ論 (岡村重夫) および自治型地域福祉論 (右田紀久恵) を中心に紹介する	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
5	地域福祉の《基本理念》	地域に存在する多様性について理解し、それらに向き合うための基本的理念について考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
6	地域福祉の《出発点》	地域が抱える多様な課題のなかから、優先して取り組むべき課題を発見し、それを共有するための方法を考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
7	地域福祉の《主体》	地域が抱える課題を誰が解決するのか、個々の主体の資質や主体間の関係性に着目して考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
8	地域福祉の《手法》	地域が抱える課題の解決について、その具体的な方法とその過程に存在する意思決定のあり方を中心に考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
9	地域福祉の《目標》	課題解決を通じて目指す地域のすがたについて、内発的發展論、地域共生社会などのキーワードを手掛かりに考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
10	地域福祉の実践事例①	日本における地域福祉の実践事例を紹介し、地域福祉についての理解を深める	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
11	地域福祉の実践事例②	外国における地域福祉の実践事例を紹介し、地域福祉についての理解を深める	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
12	地域における多様な生きづらさと向き合う	地域における多様な生きづらさを理解するために、高齢者福祉、障害者福祉、子ども家庭福祉の視点を紹介する	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
13	地域の課題解決/魅力磨きプロジェクト	ワークシートを用いて地域の課題解決 (魅力磨き) の具体的な手法を考える	事前：ワークの準備 事後：講義のふりかえり
14	地域の担い手として大学生にできること	地域福祉を推進していくために大学生という立場でなにができるかを考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
15	地域共生社会の実現にむけて	本講義の内容をふりかえるとともに、よりよい地域のために私たちにできることを考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり

関連科目	観光地域福祉論
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新装版 地域福祉論	岡村重夫	光生館
	2	自治型地域福祉の理論	右田紀久恵	ミネルヴァ書房
	3			

評価方法 (基準)	期末レポート (40%) とワーク成果物 (15%)、毎回の小レポート (45%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	みなさんの身近な地域について考え、できることに取り組むきっかけとなれば幸いです。
担当者の研究室等	3号館3階 上野山研究室
備考	

科目名	地域社会学	科目名 (英文)	Regional and Community Studies
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1013a0		

授業概要・目的	「地域社会」は、私たちにとって当たり前のものだろうか。公園を掃除する人、子どもたちを横断歩道で見守る人、お祭りの準備をする人。その人たちは、何故それを行っているのだろうか。それは何を意味するのだろうか。自明であると思われるようなことがらをあらためて考えるためのひとつの方法として社会学はある。普段は考えることのないような地域社会や地方社会に目を向け、多角的にアプローチするために地域社会学における概念や方法論、理論を学び新たな認識の視座を獲得する。
到達目標	①抽象と具体との往復的思考ができる。 ②地域社会という対象/方法論の意味・意義を把握する。 ③地域社会学の基本的概念・理論についての知識を獲得する。 ④地域社会をめぐる現象や問題について説明することができる。
授業方法と留意点	授業は、大きく2種類のフレームによって進行する。 〔フレーム1〕教科書における指定した項目に関する事前学習、教員側からの問いかけとそれに対する学生の発言内容を深める形での講義、講義テーマに関する問いを考えてくる事後学習。 〔フレーム2〕各テーマにおいて事後学習で考えた問いの中から1つを選び、探索した根拠資料に基づいて問いの答えを考えてくる事前学習、授業におけるグループディスカッションと発表、教員からのフィードバックコメント、フィードバックコメントを踏まえ、さらに根拠資料を探索する事後学習。 *各回において、モバイルPCなど、ネット接続可能な機器の持参が望ましい。 *なお受講者数に応じて、若干の授業方法の変更があるかもしれないことを承知しておいてほしい。
科目学習の効果 (資格)	地域社会とかかわる職業 (公務員、NPO 法人職員、一般企業の CSR 担当等のほか、たいていの職業は地域社会と関係します) において、当然知っておくべき事象・考え方の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地域を社会学で考える	・ガイダンス：シラバス内容の詳細な説明 ・講義キーワード：「考える」とは、資料探索	事前：シラバスの確認 事後：教科書に書かれている項目を確認・「はじめに」を読む
2	1.1 地域とは何か	(フレーム1) ・講義キーワード：町内会、NPO、地域、社会、コミュニティ	事前：教科書 pp.88-89 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
3	1.2 コミュニティとは何か	(フレーム1) ・講義キーワード：世代、WEB コミュニティ・ネットコミュニティ、バーチャルコミュニティ、地域コミュニティ、共同体	事前：教科書 pp.89-91 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
4	1.3 地域とコミュニティで考える	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：根拠資料の探索
5	2.1 行政によるコミュニティづくり	(フレーム1) ・講義キーワード：高度経済成長、都市化、過疎・過密、離農・離村、兼業農家、ライフスタイル、昼夜間人口差、ベッドタウン	事前：教科書 pp.91-92 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
6	2.2 コミュニティとアソシエーション	(フレーム1) ・講義キーワード：地域コミュニティ、サブ・コミュニティ、地域住民組織、地域資源	事前：教科書 pp.92-94 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
7	2.3 日本におけるコミュニティを考える	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：根拠資料の探索
8	3.1 町内会の範疇	(フレーム1) ・講義キーワード：政治的支持調達、利益誘導、地縁組織、連合町内会、まちづくり協議会・コミュニティ協議会、地区公民館	事前：教科書 pp.94-95 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
9	3.2 町内会の役割と特徴	(フレーム1) ・講義キーワード：自治、寄り合い、共同管理、行政末端機構	事前：教科書 pp.95-96 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
10	3.3 町内会の課題	(フレーム1) ・講義キーワード：協働、パートナーシップ、男女共同参画	事前：教科書 pp.96-97 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
11	3.4 町内会を考える	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：根拠資料の探索
12	4.1 平成の大合併	(フレーム1) ・講義キーワード：地方分権、地域間格差、テーマ型コミュニティ、エリア型コミュニティ、フォーラム型組織、「新しい公共」宣言	事前：教科書 pp.97-99 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
13	4.2 限界集落化する中山間地域	(フレーム1) ・講義キーワード：高齢化、条件不利地域、字・区、共有財産、移住者、I ターン・J ターン・U ターン	事前：教科書 pp.99-100 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出

	14	4.3 ソーシャルキャピタル	(フレーム1) ・講義キーワード:定住者、二地域居住、 関係人口、ネットワーク、弱い紐帯	事前:教科書 pp.100-101 を読み、用語の意味・定 義を調べてくる 事後:問いの導出
	15	4.4 地域社会をめぐる問題 とその背景	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前:根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後:根拠資料の探索・これまでの事後課題の振り 返り
関連科目	「考える」にあたって材料は多いほどよい。すべての科目が関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会学と社会システム	(一社)日本ソーシャルワーク教 育学校連盟編	中央法規出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況(発言内容、ディスカッションへの貢献、発表内容)(30%)と課題への取組み状況(30%)、定期試験(40%)による総合評 価とする。			
学生への メッセージ	教科書は、当該授業の関連部分のみならず、社会学全般に関する理解を深める内容となっている。4年間、活用してほしい。			
担当者の 研究室等	3号館3階・藤井研究室			
備考				

科目名	産業労働社会学	科目名 (英文)	Sociology of Labor and Industry
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1014a0		

授業概要・目的	本科目では、産業や労働に関する現象について社会学的分析視点に基づいた講義がおこなわれる。基礎科目として、産業・労働分野における古典的研究などが紹介されるとともに、労働に関わる基本的な制度や構造、人びとの働き方の現状といった話題が取り上げられる。また若者、ジェンダーといった個別のトピックについて、その領域での重要事項についても取り上げられる。こうした内容を通して受講生が産業・労働分野における基礎事項を理解すること、今日の労働世界の実情・問題とその背景について社会学的な観点で把握できるようになることが、本講義のねらいである。
到達目標	①産業・労働分野の古典的研究が説明できる。 ②労働にかかわる諸制度について理解している。 ③働き方の多様なさまや、若者・ジェンダーに関連する労働の現状について説明できる。
授業方法と留意点	授業は、(1) 資料に基づく講義形式、(2) 講義内容に関連する受講生相互のディスカッション、(3) 映像等を含む教材を用いた学習と学習内容の発表と教員からのフィードバック、といった種々の方法を織り交ぜて実施される。
科目学習の効果 (資格)	産業・労働分野の社会学的知識の獲得、自身の働くイメージの形成

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	仕事・労働・職業のとらえ方	事前：シラバスの理解 事後：資料を基にした復習
2	古典的研究の視座 1	社会分業論	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
3	古典的研究の視座 2	人間関係論・科学的管理法	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
4	労働に関わる諸制度 1	日本的雇用慣行	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
5	労働に関わる諸制度 1	労使関係	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
6	労働に関わる諸制度 2	賃金、昇進・異動	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
7	働き方のありよう 1	学歴とキャリア	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
8	働き方のありよう 2	転職・失業・起業	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
9	働き方のありよう 3	非正規雇用	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
10	若者と労働 1	就職活動	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
11	若者と労働 2	若年層の就業実態	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
12	労働とジェンダー1	性別職域分離	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
13	労働とジェンダー2	格差の実情	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
14	資料からみる労働の世界	労働世界の現実をみる	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
15	まとめ	働くことを社会学する視点	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習

関連科目 仕事とくらしの社会学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 受講態度 (10%)、課題・試験等 (90%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ やや難しい議論もありますが、興味のある学生にはぜひ受講してもらいたいと思っています。

担当者の研究室等 3号館3階・山本研究室

備考

科目名	情報社会論	科目名 (英文)	Introduction to Information Society
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1015a0		

授業概要・目的

情報社会におけるネットメディアの普及の中で起きた人々のコミュニケーションやライフスタイルの変化の歴史について学び、これからの情報社会の展望とそこで生活する市民にとって必要なメディア情報リテラシー（特にITやメディアを活用して社会の様々なコミュニティの人達とパブリックコミュニケーションを行う能力）と、それを活用した防災・関係人口の拡大といった地域社会の課題解決、そして持続可能な地域社会のデザインについて考察する。

そのためネットメディアの発展の歴史やそれを活用したコミュニケーションの仕組みの変遷、そして東日本大震災をきっかけとした新たな展開について理解した上で、コロナ以降の将来の方向について展望することが必要で、本講義では記録映像を利用して概説するとともに、今日、全国各地で展開している様々な取り組み（防災システムの構築、オープンデータの活用、コミュニティアーカイブの構築等）について、個別の事例研究を通して理解を深めることを目的とする。

到達目標

① ネットメディアの誕生から今日までの大まかな歴史について理解することができる。
 ② ネットメディアが普及する中で起きた人々のコミュニケーションやライフスタイルの変化について理解することができる。
 ③ これからの社会に必要なメディア情報リテラシーについて考え、身に付けることができる。
 ④ 東日本大震災をきっかけに顕在化した地域社会の課題（防災、関係人口の拡大等）の解決に向けて、ITやメディアを活用して全国各地でどのような取り組みが行われているのか、個別の事例研究をもとに理解を深めることができる。
 ⑤ これからのコロナ以降の地域社会におけるITやメディアを活用した課題解決のための様々な取り組みについて、将来の方向を展望し、その中で学生個人が自らの関わり方について考える。

授業方法と留意点

必要に応じてテキストに目を通して事前学習をもらった上、配布資料、プレゼン資料の投影、記録映像の上映と解説によって行う。授業内容についての理解を確認するため、毎回、授業の終わりにリアクションペーパーにコメントを書いてもらい、教員側でフィードバックするため、必要に応じて翌週にコメントする。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	市民参加型のネットメディアの誕生	授業全体の内容についてのガイダンス パソコン通信からインターネットへの移行と匿名電子掲示板、インターネット新聞、ブログ、SNSの登場の歴史	事前：シラバスで授業内容の確認 事後：授業の中で指示
2	ネットメディアが担った新たな役割	地方自治への市民参加、ジャーナリズムへの市民参加（当事者ジャーナリズムの誕生）	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
3	ブロードバンドが実現した映像配信	CATVへの影響、市民による映像祭・上映会からネットや放送番組（パブリックアクセス）での配信への移行	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
4	ネット上での市民映像の普及と作り手の裾野拡大	NPO/NGOによる映像制作、学校教育での映像制作	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
5	東日本大震災での被災地からの情報発信	ネット、CATV、エリア放送が果たした役割	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
6	被災地の外から東日本大震災を伝えた市民メディア	東日本大震災を伝えたブロガー、市民映像	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
7	学生による東日本大震災の被災地での市民メディア活動	「学生による被災地支援のための市民メディアプロジェクト」の取り組み	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
8	東日本大震災後の被災地における情報発信を振り返った課題	大規模災害時の地域メディア支援、新たな防災システム構築	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
9	ネットのOTTサービスと競合するCATVの向かう方向	業界再編と地域密着志向、インフラビジネスからコンテンツビジネスへの回帰	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
10	SNS全盛期における自治体広報と市民メディア活動の現状	シティプロモーション、商店街等の地域コミュニティからの発信	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
11	地域の情報環境整備	官民連携による地域情報化（地域のコミュニケーションデザイン）、オープンデータの活用	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
12	地域の情報を発信する地域情報サイトの動向と展望	地域の外に地域の魅力を伝えるサイト、地域の中で必要な生活情報を伝えるサイト、地域ジャーナリズムを目指すニュースサイト	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
13	地域の記録と記憶の継承に向けたコミュニティアーカイブの構築	地域に眠る写真や映像のデジタルアーカイブ化、東日本大震災の被災地での震災アーカイブ構築	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
14	防災と関係人口拡大に向けて	コロナ以降の市民、自治体による地域メディア、地域アーカイブを活用した情報発信	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示
15	持続可能な地域社会のデザインに向けて	将来に向けた地域からの情報発信と交流の場づくりの課題の整理	事前：前回の授業の中で指示 事後：授業の中で指示

関連科目 地域メディア論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域でつくる・地域をつくる メディアとアーカイブ	松本恭幸 (編)	大月書店
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	令和のローカルメディア 防災・関係人口拡大に向けた課題	松本恭幸、佐藤和文、佐藤博昭	あけび書房
	2	コミュニティメディアの新展開 東日本大震災で果たした役割をめぐって	松本恭幸	学文社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験で評価(90%)するとともに、毎回の授業の最後にも書いてもらうリアクションペーパーのコメントで加点(10%)する。			
学生への メッセージ	将来、IT関係やメディア関係の業界、自治体の広報部門で仕事したい学生、ITやメディアを活用した地域づくり活動に関心のある学生に、必要な知識をレクチャーする。			
担当者の 研究室等	3号館3階・松本研究室			
備考				

科目名	社会調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Social Research
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1024a0		

授業概要・目的	本授業は、社会調査全般に関する基本事項について学習するものである。授業では社会調査の意義やその歴史、および調査倫理についての解説とともに、さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究についての解説も行われる。 これらの内容をおとして、受講生は、種々の調査におけるデータの収集から分析までのプロセス、その特徴と相違点について理解し、社会調査の全体的な知識と倫理観を身につける。こうした過程を経て、調査する側として必要となる基本事項とともに、社会で氾濫するデータに翻弄されないための調査リテラシーの土台を獲得することが本授業のねらいである。
到達目標	① さまざまな社会調査の特徴とその違いを理解している。 ② 調査の実例、歴史について理解している。 ③ 学術的調査を実施する際に配慮すべき倫理的事項について理解している。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格取得の要件に関する科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画・授業方法・評価方法の説明、社会調査の概要	事前：シラパスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習
2	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
3	社会調査の歴史	社会調査はいつから行われ、どう発展してきたか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
4	社会調査の種類 (1)	公的統計、世論調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
5	社会調査の種類 (2)	学術調査、国際比較調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
6	調査倫理	調査を行う際の心得、ラポールなど	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
7	量的調査と質的調査	量的調査と質的調査の違いについて	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
8	公的統計	公的統計データを用いた研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
9	量的調査 (1)	質問紙調査の概要、統計学との関係	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
10	量的調査 (2)	質問紙調査の方法	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
11	量的調査 (3)	質問紙調査を用いた諸研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
12	質的調査 (1)	聞き取り調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
13	質的調査 (2)	インタビュー調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
14	質的調査 (3)	ドキュメント分析の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習

関連科目 社会調査入門、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業時に別途、指示する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇	法律文化社
2				
3				

評価方法 (基準) 受講態度 (10%)、小テストおよび課題 (90%)

学生へのメッセージ 本授業は、卒業要件に必須の科目となる。また、社会調査士資格にも関連する。

担当者の研究室等 3号館3階・後和研究室

備考 Aクラス (後和) : jf0unyx Bクラス (竹端) : io3xadq Cクラス (竹中) : k8g9z52

科目名	社会調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Social Research
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1024a0		

授業概要・目的	本授業は、社会調査全般に関する基本事項について学習するものである。授業では社会調査の意義やその歴史、および調査倫理についての解説とともに、さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究についての解説も行われる。 これらの内容をおとして、受講生は、種々の調査におけるデータの収集から分析までのプロセス、その特徴と相違点について理解し、社会調査の全体的な知識と倫理観を身につける。こうした過程を経て、調査する側として必要となる基本事項とともに、社会で氾濫するデータに翻弄されないための調査リテラシーの土台を獲得することが本授業のねらいである。
到達目標	① さまざまな社会調査の特徴とその違いを理解している。 ② 調査の実例、歴史について理解している。 ③ 学術的調査を実施する際に配慮すべき倫理的事項について理解している。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格取得の要件に関する科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画・授業方法・評価方法の説明、社会調査の概要	事前：シラパスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習
2	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
3	社会調査の歴史	社会調査はいつから行われ、どう発展してきたか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
4	社会調査の種類 (1)	公的統計、世論調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
5	社会調査の種類 (2)	学術調査、国際比較調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
6	調査倫理	調査を行う際の心得、ラポールなど	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
7	量的調査と質的調査	量的調査と質的調査の違いについて	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
8	公的統計	公的統計データを用いた研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
9	量的調査 (1)	質問紙調査の概要、統計学との関係	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
10	量的調査 (2)	質問紙調査の方法	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
11	量的調査 (3)	質問紙調査を用いた諸研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
12	質的調査 (1)	聞き取り調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
13	質的調査 (2)	インタビュー調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
14	質的調査 (3)	ドキュメント分析の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習

関連科目 社会調査入門、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業時に別途、指示する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇	法律文化社
	2			
	3			

評価方法 (基準) 受講態度 (10%)、小テストおよび課題 (90%)

学生へのメッセージ 本授業は、卒業要件に必須の科目となる。また、社会調査士資格にも関連する。

担当者の研究室等 3号館3階・後和研究室

備考 Aクラス (後和) : jf0unyx Bクラス (竹端) : io3xadq Cクラス (竹中) : k8g9z52

科目名	社会調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Social Research
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1024a0		

授業概要・目的	本授業は、社会調査全般に関する基本事項について学習するものである。授業では社会調査の意義やその歴史、および調査倫理についての解説とともに、さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究についての解説も行われる。 これらの内容をおとして、受講生は、種々の調査におけるデータの収集から分析までのプロセス、その特徴と相違点について理解し、社会調査の全体的な知識と倫理観を身につける。こうした過程を経て、調査する側として必要となる基本事項とともに、社会で氾濫するデータに翻弄されないための調査リテラシーの土台を獲得することが本授業のねらいである。
到達目標	① さまざまな社会調査の特徴とその違いを理解している。 ② 調査の実例、歴史について理解している。 ③ 学術的調査を実施する際に配慮すべき倫理的事項について理解している。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格取得の要件に関する科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画・授業方法・評価方法の説明、社会調査の概要	事前：シラパスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習
2	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
3	社会調査の歴史	社会調査はいつから行われ、どう発展してきたか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
4	社会調査の種類 (1)	公的統計、世論調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
5	社会調査の種類 (2)	学術調査、国際比較調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
6	調査倫理	調査を行う際の心得、ラポールなど	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
7	量的調査と質的調査	量的調査と質的調査の違いについて	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
8	公的統計	公的統計データを用いた研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
9	量的調査 (1)	質問紙調査の概要、統計学との関係	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
10	量的調査 (2)	質問紙調査の方法	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
11	量的調査 (3)	質問紙調査を用いた諸研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
12	質的調査 (1)	聞き取り調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
13	質的調査 (2)	インタビュー調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
14	質的調査 (3)	ドキュメント分析の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習

関連科目 社会調査入門、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業時に別途、指示する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇	法律文化社
2				
3				

評価方法 (基準) 受講態度 (10%)、小テストおよび課題 (90%)

学生へのメッセージ 本授業は、卒業要件に必須の科目となる。また、社会調査士資格にも関連する。

担当者の研究室等 3号館3階・後和研究室

備考 Aクラス (後和) : jf0unyx Bクラス (竹端) : io3xadq Cクラス (竹中) : k8g9z52

科目名	社会調査法	科目名 (英文)	Social Research Method
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1025a0		

授業概要・目的	<p>ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。</p> <p>この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。</p> <p>調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 学術的社会調査の流れを理解している。</p> <p>② 標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。</p> <p>③ 質問紙調査の設計に伴う諸問題について説明できる。</p> <p>④ サンプリングの諸方法の特徴と違いについて説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。教科書は、授業時に別途、指示する。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>社会調査士資格</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の目的</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会調査のプロセス</td> <td>学術的調査の全体的な流れ</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>調査を始める (1)</td> <td>問いと仮説の設定、概念の明確化</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>調査を始める (2)</td> <td>調査方法の種類</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>調査票を作成する (1)</td> <td>ワーディング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>調査票を作成する (2)</td> <td>回答選択肢の作成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>調査票を作成する (3)</td> <td>調査票全体の構成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>調査の実施 (1)</td> <td>調査票の配布と回収の方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>調査の実施 (2)</td> <td>全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>調査の実施 (3)</td> <td>サンプリングの方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>データの作成 (1)</td> <td>コードブックの作成と入力作業</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>データの作成 (2)</td> <td>コーディング・エディティング・データクリーニング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>データ分析の基礎 (1)</td> <td>度数分布、代表値</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>データ分析の基礎 (2)</td> <td>変数間の関係の分析</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>結果の報告</td> <td>報告書作成に関する注意事項</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習	2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
関連科目	<p>社会調査入門、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門・社会調査法 [第 4 版]</td> <td>轟亮、杉野勇、平沢和司編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>受講態度 (10%)、課題及びテスト (90%)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>本授業は、社会調査士資格に関連する科目となる。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>3号館 3階・竹端研究室</p>																																																																		
備考																																																																			

科目名	社会調査法	科目名 (英文)	Social Research Method
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1025a0		

授業概要・目的	<p>ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。</p> <p>この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。</p> <p>調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 学術的社会調査の流れを理解している。</p> <p>② 標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。</p> <p>③ 質問紙調査の設計に伴う諸問題について説明できる。</p> <p>④ サンプリングの諸方法の特徴と違いについて説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。教科書は、授業時に別途、指示する。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>社会調査士資格</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の目的</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会調査のプロセス</td> <td>学術的調査の全体的な流れ</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>調査を始める (1)</td> <td>問いと仮説の設定、概念の明確化</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>調査を始める (2)</td> <td>調査方法の種類</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>調査票を作成する (1)</td> <td>ワーディング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>調査票を作成する (2)</td> <td>回答選択肢の作成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>調査票を作成する (3)</td> <td>調査票全体の構成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>調査の実施 (1)</td> <td>調査票の配布と回収の方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>調査の実施 (2)</td> <td>全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>調査の実施 (3)</td> <td>サンプリングの方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>データの作成 (1)</td> <td>コードブックの作成と入力作業</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>データの作成 (2)</td> <td>コーディング・エディティング・データクリーニング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>データ分析の基礎 (1)</td> <td>度数分布、代表値</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>データ分析の基礎 (2)</td> <td>変数間の関係の分析</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>結果の報告</td> <td>報告書作成に関する注意事項</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習	2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
関連科目	<p>社会調査入門、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門・社会調査法 [第 4 版]</td> <td>轟亮、杉野勇、平沢和司編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>受講態度 (10%)、課題及びテスト (90%)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>本授業は、社会調査士資格に関連する科目となる。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>3号館3階・竹端研究室</p>																																																																		
備考																																																																			

科目名	社会調査法	科目名 (英文)	Social Research Method
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1025a0		

授業概要・目的	<p>ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。</p> <p>この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。</p> <p>調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 学術的社会調査の流れを理解している。</p> <p>② 標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。</p> <p>③ 質問紙調査の設計に伴う諸問題について説明できる。</p> <p>④ サンプリングの諸方法の特徴と違いについて説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。教科書は、授業時に別途、指示する。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>社会調査士資格</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の目的</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会調査のプロセス</td> <td>学術的調査の全体的な流れ</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>調査を始める (1)</td> <td>問いと仮説の設定、概念の明確化</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>調査を始める (2)</td> <td>調査方法の種類</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>調査票を作成する (1)</td> <td>ワーディング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>調査票を作成する (2)</td> <td>回答選択肢の作成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>調査票を作成する (3)</td> <td>調査票全体の構成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>調査の実施 (1)</td> <td>調査票の配布と回収の方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>調査の実施 (2)</td> <td>全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>調査の実施 (3)</td> <td>サンプリングの方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>データの作成 (1)</td> <td>コードブックの作成と入力作業</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>データの作成 (2)</td> <td>コーディング・エディティング・データクリーニング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>データ分析の基礎 (1)</td> <td>度数分布、代表値</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>データ分析の基礎 (2)</td> <td>変数間の関係の分析</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>結果の報告</td> <td>報告書作成に関する注意事項</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習	2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
関連科目	<p>社会調査入門、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門・社会調査法 [第 4 版]</td> <td>轟亮、杉野勇、平沢和司編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>受講態度 (10%)、課題及びテスト (90%)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>本授業は、社会調査士資格に関連する科目となる。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>3号館3階・竹端研究室</p>																																																																		
備考																																																																			

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1026a0		

授業概要・目的	この授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には、単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法（クロス表、平均値の差、相関係数など）、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。 以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることのできる能力を身につけることが目標である。
到達目標	① 単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図、平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、自ら作成・算出できる。 ② 相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、実践できる。 ③ 因果関係と相関関係の違い、疑似相関について理解している。 ④ 公的統計データを自分で入手し、必要に応じて加工して提示できる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、グループワークも適宜実施する。教科書・参考書は、授業内で、適宜指示する。なお、課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、統計学とはどのような学問か	事前：シラバスの理解 事後：授業資料を基に内容を学習
2	データの集計 (1)	度数分布、ヒストグラム、平均値、中央値、最頻値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
3	データの集計 (2)	分散、標準偏差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
4	データの集計 (3)	標準化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
5	実践 (1)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
6	統計資料の整理 (1)	公的統計の探し方、読み方	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
7	統計資料の整理 (2)	公的統計の加工・グラフ化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
8	統計資料の整理 (3)	公的統計を用いた分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
9	変数間関係の確認 (1)	クロス集計	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
10	変数間関係の確認 (2)	平均の差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
11	変数間関係の確認 (3)	相関関係について、相関係数の算出	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
12	変数間関係の確認 (4)	相関関係と因果関係	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
13	変数間関係の確認 (5)	疑似相関	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
14	実践 (2)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習

関連科目 社会調査入門, 社会調査法,

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加態度 10%, 課題及びテスト 90%

学生へのメッセージ 本授業は、社会調査士資格に関連する科目となる。

担当者の研究室等 3号館3階・田中研究室

備考

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1026a0		

授業概要・目的	この授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には、単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法（クロス表、平均値の差、相関係数など）、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。 以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることのできる能力を身につけることが目標である。
到達目標	① 単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図、平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、自ら作成・算出できる。 ② 相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、実践できる。 ③ 因果関係と相関関係の違い、疑似相関について理解している。 ④ 公的統計データを自分で入手し、必要に応じて加工して提示できる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、グループワークも適宜実施する。教科書・参考書は、授業内で、適宜指示する。なお、課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、統計学とはどのような学問か	事前：シラパスの理解 事後：授業資料を基に内容を学習
2	データの集計 (1)	度数分布、ヒストグラム、平均値、中央値、最頻値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
3	データの集計 (2)	分散、標準偏差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
4	データの集計 (3)	標準化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
5	実践 (1)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
6	統計資料の整理 (1)	公的統計の探し方、読み方	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
7	統計資料の整理 (2)	公的統計の加工・グラフ化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
8	統計資料の整理 (3)	公的統計を用いた分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
9	変数間関係の確認 (1)	クロス集計	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
10	変数間関係の確認 (2)	平均の差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
11	変数間関係の確認 (3)	相関関係について、相関係数の算出	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
12	変数間関係の確認 (4)	相関関係と因果関係	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
13	変数間関係の確認 (5)	疑似相関	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
14	実践 (2)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習

関連科目 社会調査入門, 社会調査法,

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加態度 10%, 課題及びテスト 90%

学生へのメッセージ 本授業は、社会調査士資格に関連する科目となる。

担当者の研究室等備考 3号館3階・田中研究室

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1026a0		

授業概要・目的	この授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には、単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法（クロス表、平均値の差、相関係数など）、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。 以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることのできる能力を身につけることが目標である。
到達目標	① 単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図、平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、自ら作成・算出できる。 ② 相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、実践できる。 ③ 因果関係と相関関係の違い、疑似相関について理解している。 ④ 公的統計データを自分で入手し、必要に応じて加工して提示できる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、グループワークも適宜実施する。教科書・参考書は、授業内で、適宜指示する。なお、課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、統計学とはどのような学問か	事前：シラパスの理解 事後：授業資料を基に内容を学習
2	データの集計 (1)	度数分布、ヒストグラム、平均値、中央値、最頻値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
3	データの集計 (2)	分散、標準偏差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
4	データの集計 (3)	標準化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
5	実践 (1)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
6	統計資料の整理 (1)	公的統計の探し方、読み方	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
7	統計資料の整理 (2)	公的統計の加工・グラフ化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
8	統計資料の整理 (3)	公的統計を用いた分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
9	変数間関係の確認 (1)	クロス集計	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
10	変数間関係の確認 (2)	平均の差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
11	変数間関係の確認 (3)	相関関係について、相関係数の算出	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
12	変数間関係の確認 (4)	相関関係と因果関係	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
13	変数間関係の確認 (5)	疑似相関	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
14	実践 (2)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習

関連科目 社会調査入門, 社会調査法,

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加態度 10%, 課題及びテスト 90%

学生へのメッセージ 本授業は、社会調査士資格に関連する科目となる。

担当者の研究室等備考 3号館3階・田中研究室

科目名	FAL 入門	科目名 (英文)	Introduction to Field-based Active Learning
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後和 美朝, 上野山 裕士, 落合 知子, 加戸 友佳子, 竹中 祐二, 谷 めぐみ, 中澤 芽衣
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1034a0		

授業概要・目的	フィールド型アクティブラーニング(FAL)の入門科目として、地域や企業など、さまざまなフィールドの現状と課題、またフィールドにおける活動に取り組むにあたっての心構えと具体的な手法を実践的に学ぶ。講義では、個人(パーソナルプロジェクト)およびグループ(グループプロジェクト)の立場で身のまわりの生活を見つめ直し、課題の抽出、アクションプランの作成および実践に取り組み、その学びを整理、発表する。これらの学びを通じて、受講生は、社会的実践(ソーシャルプロジェクト)に「じぶんごと」として取り組むにあたっての知識、技能、思考、態度を身につけることが期待される。
到達目標	①フィールド(地域、企業など)での活動を行うにあたっての基本的な知識、技能、思考、態度を身につける。 ②個人およびグループで取り組む課題を発見し、それを表現することができる。 ③課題に対する確かなアクションプランを作成し、それを実践することができる。 ④経験から得た学びを整理し、それを他者に的確に伝えることができる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書などによる講義と、教員と学生、学生間の活発な対話に基づき、授業を実施する。また、グループワーク、プレゼンテーション、フィードバック、ふりかえりを積極的に取り入れ、学生は、これらの学びの機会に主体的に参画することが求められる。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	フィールドと向き合う、フィールドで活動する	オリエンテーション・授業計画および授業方法の説明・フィールドで活動するにあたっての基本的な態度について学ぶ	事前：シラバスの確認 事後：講義のふりかえり
	2	フィールドとの関わり方	フィールドにおける活動に関する文献を講読し、グループで対話を行う	事前：文献の講読 事後：講義のふりかえり
	3	社会のいまとその担い手	さまざまなフィールドの現状と課題について紹介するとともに、大学生に取り組めることを考える	事前：事前資料の確認 事後：講義のふりかえり
	4	パーソナルプロジェクト①：課題さがし	身のまわりの生活から、「個人で取り組める課題」を考え、文章化する・成果物を教室内で共有する	事前：事前資料の確認 事後：講義のふりかえり
	5	パーソナルプロジェクト②：アクションプランづくり	「個人で取り組める課題」を具体的なアクションプランに落とし込む・成果物を教室内で共有する	事前：前回成果物の確認 事後：プランの実践
	6	パーソナルプロジェクト③：中間ふりかえり	アクションプランを一定期間実践した学び(成果や課題、展望について)を共有し、フィードバックを受ける	事前：プランの実践 事後：プランの実践
	7	パーソナルプロジェクト④：実践報告会、ふりかえり	パーソナル・プロジェクトに取り組んだ学び(成果や課題、展望について)を報告し、実践をふりかえる	事前：プランの実践 事後：講義のふりかえり
	8	グループプロジェクト①：課題さがし	身のまわりの生活から、「グループで取り組める課題」を考え、文章化する・成果物を教室内で共有する	事前：事前資料の確認 事後：講義のふりかえり
	9	グループプロジェクト②：アクションプランづくり	「グループで取り組める課題」を具体的なアクションプランに落とし込む・成果物を教室内で共有する	事前：前回成果物の確認 事後：プランの実践
	10	グループプロジェクト③：中間ふりかえり	アクションプランを一定期間実践した学び(成果や課題、展望について)を共有し、フィードバックを受ける	事前：プランの実践 事後：プランの実践
	11	グループプロジェクト④：知見の整理、対話	アクションプランを実践した知見をグループ内での対話を通じて整理する	事前：プランの実践 事後：講義のふりかえり
	12	グループプロジェクト⑤：ポスター作成	アクションプランを実践した知見を踏まえて、グループでポスターを作成する	事前：ポスター作成の準備 事後：講義のふりかえり
	13	グループプロジェクト⑥：最終報告会の準備	作成したポスターの内容を踏まえて、最終報告会の準備をグループで行う	事前：ポスターの確認 事後：最終報告会の準備
	14	グループプロジェクト⑦：最終報告会	グループプロジェクトに取り組んだ学び(成果や課題、展望について)を報告し、実践をふりかえる	事前：最終報告会の準備 事後：講義のふりかえり
	15	講義全体のふりかえり：ソーシャルプロジェクトに向けて	講義での学びをふりかえるとともに教室全体で共有する・ソーシャルプロジェクトに向けた意思表明を行う	事前：講義のふりかえり 事後：今後についての検討

関連科目 FAL 実践、FAL 演習 I、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末レポート (30%) と個人/グループ成果物 (40%)、毎回の小レポート (30%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	FAL に取り組む第一歩として、楽しく学びましょう！
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	

科目名	FAL 実践	科目名 (英文)	Practice for Field-based Active Learning
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樫田 美雄, 上野山 裕士, 江口 怜, 加戸 友佳子, 中澤 芽衣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1035a0		

授業概要・目的
 フィールド型アクティブラーニング (FAL) の実践科目として、地域社会の現場で活躍する主体との交流を通じた「提案力」および「修正力」の獲得を目指す。講義では、企業、地方公共団体、公益法人など、地域社会の現場で活躍する人びとから、社会（地域）が抱える課題について話題提供を受けたのち、①課題の発見、②アクションプランづくり、③プレゼンテーション、④話題提供者からのフィードバック、⑤フィードバックを踏まえたプランの修正、⑥プレゼンテーションとフィードバック、⑦グループワークに対するふりかえり、を各グループ2つのテーマ（課題）について実施する。これらの学びを通じて、受講生は、社会的な課題を「じぶんど」として理解するとともに、その解決策を立案、適宜修正し、実践していくために必要な知識、技能、思考、態度を身につけることが期待される。

到達目標
 ①提示された資料から課題を的確に把握し、その解決方法をアクションプランとして立案することができる
 ②フィードバック、コメントの内容を踏まえてアクションプランを的確に修正することができる
 ③共有された目標の達成に向けた協働のなかで自らの役割を発見し、その実践に主体的に取り組むことができる
 ④ディスカッション、プレゼンテーションなどの機会に、自らの意見を他者に的確に伝えることができる

授業方法と留意点
 グループワークを中心に授業を実施する。その過程では、傾聴および他者の意見を尊重する態度、また自らの意見を的確に他者に伝えるなど、積極的、主体的な参画を求める。また、企業、地方公共団体、公益法人など、地域社会の現場で活躍する学外者と交流する機会の多い授業となるため、受講にあたっては、社会人としての基本的な態度、マナーを身につけておくことが必要となる。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	〈テーマ1〉社会が抱える課題について理解する	企業、地方公共団体、公益法人による社会（地域）が抱える課題についての講義	事前：事前資料の確認	事後：講義のふりかえり
2	〈テーマ1〉グループでアクションプランづくり①	グループでテーマを選定し、課題解決に向けたアクションプランづくりに取り組む	事前：事前資料の確認	事後：アクションプランづくりのための情報収集
3	〈テーマ1〉グループでアクションプランづくり②	課題解決に向けたアクションプランを完成させる	事前：アクションプランの内容精査	事後：プレゼンテーションの準備
4	〈テーマ1〉中間プレゼンテーション	アクションプランについて中間プレゼンテーションを行う	事前：プレゼンテーションの準備	事後：講義のふりかえり
5	〈テーマ1〉連携先からのフィードバック	プレゼンテーションに関して企業、地方公共団体、公益法人からフィードバックを受ける	事前：プレゼンテーションの準備	事後：講義のふりかえり
6	〈テーマ1〉アクションプランを修正する	企業、地方公共団体、公益法人からのフィードバックを踏まえてアクションプランを修正する	事前：事前資料の確認	事後：プレゼンテーションの準備
7	〈テーマ1〉最終プレゼンテーションとフィードバック	修正したアクションプランについてプレゼンテーションを行い、企業、地方公共団体、公益法人からフィードバックを受ける	事前：プレゼンテーションの準備	事後：講義のふりかえり
8	中間ふりかえり	アクションプランづくりのプロセスをふりかえり、自らの取り組み方や態度について内省する	事前：事前資料の確認	事後：講義のふりかえり
9	〈テーマ2〉社会が抱える課題について理解する	企業、地方公共団体、公益法人による社会（地域）が抱える課題についての講義	事前：事前資料の確認	事後：講義のふりかえり
10	〈テーマ2〉グループでアクションプランづくり①	グループでテーマを選定し、課題解決に向けたアクションプランづくりに取り組む	事前：事前資料の確認	事後：アクションプランづくりのための情報収集
11	〈テーマ2〉グループでアクションプランづくり②	課題解決に向けたアクションプランを完成させる	事前：アクションプランの内容精査	事後：プレゼンテーションの準備
12	〈テーマ2〉中間プレゼンテーション	アクションプランについて中間プレゼンテーションを行う	事前：プレゼンテーションの準備	事後：講義のふりかえり
13	〈テーマ2〉連携先からのフィードバック	プレゼンテーションに関して企業、地方公共団体、公益法人からフィードバックを受ける	事前：プレゼンテーションの準備	事後：講義のふりかえり
14	〈テーマ2〉アクションプランを修正する	企業、地方公共団体、公益法人からのフィードバックを踏まえてアクションプランを修正する	事前：事前資料の確認	事後：プレゼンテーションの準備
15	〈テーマ2〉最終プレゼンテーションとフィードバック	修正したアクションプランについてプレゼンテーションを行い、企業、地方公共団体、公益法人からフィードバックを受ける	事前：プレゼンテーションの準備	事後：講義のふりかえり

関連科目 FAL 入門、FAL 演習 I、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループ成果物 (40%)、グループプレゼンテーション (40%)、期末レポート (20%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 慎一, 稲生 勝, 岩井 八郎, 上野山 裕士, 江口 怜, 落合 知子, 櫻田 美雄, 加戸 友佳子, 小池 高史, 後和 美朝, 須藤 遙子, 竹中 祐二, 竹端 佑介, 田中 晶子, 谷 めぐみ, 中澤 芽衣, 平山 洋介, 藤井 和佐, 堀田 裕子, 松本 恭幸, 山本 圭三, 好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的
 おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。

到達目標
 ①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を記述することができる
 ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ
 ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる
 ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる
 ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる

授業方法と留意点
 それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	活動記録シート(個人) 40%、中間報告会(グループ;成果物) 10%、最終報告会(グループ;成果物およびルーブリック評価) 20%、プロジェクトへの貢献度合い(プロジェクト参加学生によるピア評価) 15%、活動ふりかえりシート(個人) 15%で評価を行う。 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室			
備考				

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。そこでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。そこでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。そこでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	落合 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。そこでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。そこでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。そこでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	江口 怜
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。そこでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷 めぐみ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前：テキストを読んでおく 事後：資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	<p>「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。</p> <p>こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。</p>
到達目標	<p>①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。</p> <p>②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。</p>
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前：テキストを読んでおく 事後：資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前：テキストを読んでおく 事後：資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前：テキストを読んでおく 事後：資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前：テキストを読んでおく 事後：資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前：テキストを読んでおく 事後：資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	落合 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前：テキストを読んでおく 事後：資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前：テキストを読んでおく 事後：資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	江口 怜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷 めぐみ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前：テキストを読んでおく 事後：資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前：資料を読んでおく 事後：授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前：報告の準備 事後：授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	

科目名	日本の歴史	科目名 (英文)	Japanese History
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 康司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU1301a1		

授業概要・目的	歴史学とは、過去の諸事象を研究する学問である。物事を長期的な視野からみるという姿勢を持つことや、現在とは異なる政治・社会・文化等を知ることは、現代社会を見つめ直す際に重要な手段となる。 そのなかで、本授業では、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 古代から近現代まで、毎回テーマを設定し、講義を行う。 随時、最新の研究成果を紹介するとともに、歴史学的手法や考え方についても紹介する。
到達目標	本授業を通じて日本の歴史に関する正しい知識を得るとともに、歴史学的な考え方について理解できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	授業ごとにプリントを配付する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	古代 1 : 古代国家の形成	農耕社会の成立から、ヤマト政権の誕生、律令国家の形成までを学びます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
3	古代 2 : 摂関政治から院政へ	摂関政治や院政について学びます。また、仏教や新たな文化の発達についても説明します。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
4	古代 3 : 武士の登場	武士の誕生と貴族社会の関係について学びます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
5	中世 1 : 武家政権の成立と展開	武家政権である平氏政権や鎌倉幕府について学びます。特に、鎌倉幕府の成立過程について説明を加えます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
6	中世 2 : 元寇から南北朝内乱へ	鎌倉幕府の制度や承久の乱、元寇について学び、鎌倉幕府滅亡の要因について考えます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
7	中世 3 : 室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立や、南北朝の動乱について学びます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
8	中世 4 : 戦国時代へ	戦国大名の登場から天下統一までの動向を学びます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
9	近世 1 : 江戸幕府の成立と展開	江戸幕府の成立過程や制度、対外政策について学びます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
10	近世 2 : 江戸幕府の動揺	幕藩体制や江戸幕府の諸政策・改革について学びます。また、江戸時代の村についても説明をします。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
11	近世 3 : 江戸幕府の終焉	倒幕運動の広まりや、江戸幕府の対外政策・開港について学びます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
12	近現代 1 : 明治政府の成立と近代国家への歩み	明治政府の諸政策を学び、近代国家への歩みについて考えます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
13	近現代 2 : 日清・日露戦争と日本	日清・日露戦争や国際関係、当時の日本政治について学びます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
14	近現代 3 : 第二次世界大戦	第二次世界大戦と日本の関わりについて学びます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。
15	近現代 4 : 戦後日本と現代社会	敗戦後の復興と現代社会への繋がりについて学びます。	予習 : 高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 60 分)。 復習 : レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 60 分)。

関連科目	
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業ごとのコメントペーパー 30% 期末レポート 70%</p> <p>コメントペーパーでは、授業の内容を理解しているかを評価する。 期末レポートでは、授業全体を通じて日本の歴史の流れを理解した上で、自らの興味・関心に基づいてレポート作成ができるかを評価する。</p>																
学生への メッセージ	積極的に学ぶ意欲を持つ学生の受講を希望します。																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	世界の歴史	科目名 (英文)	World History
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU1302a1		

授業概要・目的	講義するのは、歴史から見たヨーロッパ論です。なお歴史 (の学び) とは、年代や事件の、単なる暗記ではありません (もちろん知識は、ないより、あった方がいいですが)。本質的には、昔を知ることで、今を知る。つまり異文化理解です (異文化理解≠自文化理解)。大学は、知性や教養を磨くには、このうえなくすばらしい場。ただ、それも自分しだい。せっかく受講するのなら、単位以上の何かを手に入れてほしいと思います。
到達目標	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。
授業方法と留意点	教科書は使わない。プリントを配布し、パワーポイントを使って講義する。単位を取る方法は2つ。第1は、こつこつ授業に出てノートを取り (プリントにメモして)、毎回のレスポンス・ペーパーで点数を稼ぐ方法。第2は、一発勝負の、レポートにすべてを賭ける方法。(この授業では出席を取らないから) 第2の方法にも可能性はある、が、全15回の授業内容に匹敵するレポートの材料を集めるには、それなりの本を何冊も、自分で読まなければならない (なお、ネットからのコピペは、やめたほうがいい。大学教員にはすぐに見抜かれるし、カンニング扱いで得点は0点、下手すれば学期の全単位剥奪... 危険きわまりない)。つまらない結論だが、第1の方法が、もっとも簡単かつ安全だろう。王道とは、そんなものである。急がば回れ。Festina lente (ゆっくり急げ)。
科目学習の効果 (資格)	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解 / 手で食べる文化は劣っている? / 知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	2	歴史を学ぶにあたって	なぜ昔は恋愛結婚がめずらしかったのか? / 乳幼児のおよそ半分が死んでしまう / 戦争と出産は命がけの仕事	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	3	歴史を学ぶにあたって	政略結婚にも親心 / 就活や通勤がない世界 / 家は職場、家族はチーム	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	4	歴史を学ぶにあたって	結婚は仕事 / 恋愛結婚させるのは「言語道断、残忍な親」 / Love is blind (恋は盲目)	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	5	歴史を学ぶにあたって	「長靴をはいた猫」は結婚できない男の夢 / 男尊女卑になる社会構造 / それでも、勝ち負けはつきりした結婚 (または人生) などない	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	6	3つの源流	ローマの遺産+ゲルマン人+キリスト教=ヨーロッパ (文明・文化) / 例えば洋食 (ヨーロッパ的食文化) / パンとワインはローマから	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	7	3つの源流	大量の肉食 (とビール) はゲルマンから / 大量の肉食は必ずしも「豊かさ」に由来しない / ローマとゲルマンを仲立ちしたキリスト教	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	8	3つの源流	移民・難民と混血・文化融合がヨーロッパを生んだ / 宗教は、ものの考え方、生活習慣に関わる / キリスト教と共に広がったパンとワイン	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	9	ローマの遺産	偉大な文明のお手本 / 文明の三点セット、都市・文字・国家 / ローマがヨーロッパに町づくりを教えた	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	10	ローマの遺産	話す言語は20以上もあるが、書く文字はただ1つ / ローマがヨーロッパに読み書きを教えた / 政治的にはバラバラなヨーロッパが、文化的にはひとつであり続けてきた秘密	プリントの読み返しと先読み
	11	ローマの遺産	ローマがヨーロッパに国づくりを教えた / 独裁者も民主国家もローマを引き合いに出す / それでも、ローマだけがヨーロッパをつくったのではない	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	12	ゲルマン人	素朴な文化の源 / 例えば洋服 (ヨーロッパ的服飾文化) / 洋服 (西洋服) の原点は西洋 (ヨーロッパ) にあらず	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	13	ゲルマン人	イギリスもフランスもゲルマン人が建てた国 / 王侯貴族が受け継ぐゲルマンの戦士の文化 / それでも、ゲルマン人だけがヨーロッパをつくったのではない	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	14	キリスト教	ローマとゲルマンの仲立ち、もしくはヨーロッパをプロデュース / 魚料理・たまご料理・洋菓子を発展させたキリスト教 / 書物 (または文字) の宗教キリスト教	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
	15	キリスト教	欧米の個人名 (パーソナル・ネーム) は、ほとんどキリスト教から / 日曜を休日にしたのはキリスト教 / 政教分離や教会離れが進んだ今も	プリントの読み返し / レスポンス・ペーパー
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レスポンス・ペーパー (50%)、レポート (50%)。レポートは授業内容から出題 (だから、授業のプリントとノートがあれば書ける問題で、あらかじめ文献を読む必要はない)。授業に出ているだけでは1点も付けない (出席点はない) が、やる気がある人には最大限チャンスを与える (この点は、これまでの受講生にも定評がある)。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GS01310a1		

授業概要・目的	この授業では、現代社会学部の学生諸君が学ぶのにふさわしい「法学入門」の講義として、「日本法制史上の女性と人権」というテーマの講義を開講する。従来の日本史や日本法制史では、各時代において女性がどのように活躍しどう生きてきたのか、ということあまり顧みられることがなかった。しかし、近年、女性史の持つ意味合いは強まっており、女性史を語らずして法制史を語ることは不可能となっている。そこでこの講義では、受講者諸君が、なるべく歴史的・法制史的事実に基づいて、古代から近現代に至るまでの日本女性史の概要を学びとることを目的とする。それによって現代の日本社会が持つ特徴を深く理解して行くことも、この授業の目的となる。もちろん問題は日本社会にとどまる物ではなくて、常に中国や朝鮮は当然のこと、ヨーロッパやインドの社会にまで波及していく。
到達目標	長い日本史の中でも、中国・欧米諸国からの影響や日本社会内部での変化等によって、女性たちの歴史自体が多様な変遷を遂げてきた。この授業を通じて受講者には、それらの姿を、事実に即して確実に学び、かつ、その特徴を自ら詳しく解説できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	現在の所、通常の対面形式の授業を想定しているが、情勢により、授業形態を変更する可能性もある。また、法制史系の授業なので高校時代に日本史を選択していた受講者はやや有利になる可能性が高いが、日本史をあまりよく知らない受講者にも、わかりやすく講じたい。
科目学習の効果 (資格)	日本史の教科書などではあまり言及されることのない重要な歴史事実を学ぶことによって、真の法制史像が受講者各自の心の内に形成されるはずである。特に将来教職系の進路を目指す学生には大きく役立つと思われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法制史・女性史・社会史の位置づけ	教員の自己紹介：政治史・軍事史のみを歴史と見なす古い歴史観からの脱却：女性史、社会史分野の開拓とその注意点	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
2	古代日本における女性	呪術的な側面を有していた卑弥呼を初めとする古代の女性支配者のあり方を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
3	女帝の時代	律令制と女帝の輩出状況を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
4	平安期の女性文学者①	女性貴族層の日本語による作家活動の内実を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
5	平安期の女性文学者②	中国、朝鮮、日本における言語・文字の違い、またそれに伴う文化の相違を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
6	中世の女性史	北条政子、日野富子ら武家社会で活躍した女性たちの生き様を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
7	室町末期・戦国期における女性商人の活躍と人権問題	社会の混乱期に出現した女性商人たちの活躍と、女性の社会進出問題を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
8	近世の女性史①	社会・身分の固定化と儒教理念による女性の社会進出阻害問題を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
9	近世の女性史②	女性受刑者の犯した犯罪から江戸期の社会を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
10	近代の女性史①	明治憲法治下と日本国憲法治下での女性像や人権の問題を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
11	近代の女性史②	明治期以降に、債務契約によってシベリアや東南アジアへと「身売り」されていたいわゆる「唐行きさん」の歴史を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
12	近代の女性史③	「唐行きさん」の歴史を学ぶことによって、近代日本を支えた女性たちの実像を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
13	近代の女性史④	下田歌子、河原操子ら、明治期に活躍した女性たちの実像を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
14	近代の女性史⑤	津田梅子、平塚らいてうなど、女子教育と女性解放運動に貢献した人々の生き様を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習
15	戦後の女性史	戦後、アメリカ合衆国から学び取って進展してきた日本女性とその人権問題を学ぶ	講義ノートの読み返し

関連科目	「日本法制史」「法と社会」「東洋法制史」
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本女性史	脇田晴子他	吉川弘文館
	2	サンダカン八番娼館	山崎朋子	文春文庫
	3	中国女性史入門	関西中国女性史研究会	人文書院

評価方法 (基準)	定期試験のみによる。ただし当然のことながら、出席していないと試験で良い点数を取ることはほぼ不可能である。
-----------	--

学生へのメッセージ	難しく考えないで、気軽に参加してほしい。
-----------	----------------------

担当者の研究室等	11号館10階 萩原守教授室
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GS01311a1		

授業概要・目的
憲法は、国の「かたち」と「はたらき」についての基本的な原理・ルールを定めたものです。これらの原理・ルールを大きく分けると、統治の仕組みに関するものと人権に関するものがあります。

この授業では、これらの重要な原理・ルールを解説し、私たちの社会における身近なトピックや問題にあてはめて考えるきっかけを提供します。また、実際に裁判で争われた事件も参照して、それについて裁判所がどのように判断したのかも検討していきます。

到達目標
この授業を通じて学生には、次の3点を達成することが期待されます。

- (1) 憲法の原理やルールの基本的事項を理解し、分かりやすく説明できる。
- (2) 具体的な事件について、裁判所が下した判断を踏まえた基礎的な検討ができる。
- (3) 社会における様々なトピックに存在する憲法上の問題を発見できる。

授業方法と留意点
・反転授業
予め事前資料に目を通し、基礎知識を身に着けた上で授業に臨んでください。授業ではこれらの基礎知識を問う問題と、発展的な課題を扱います。

・授業資料
レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください (授業中の配布はありません)。

・その他
授業中は、質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り、皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することを望んでいます。

科目学習の効果 (資格)
公務員試験ほか、資格試験各種で問われる憲法の基本的知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・イントロダクション	授業方法の説明 憲法とはなにか (Unit 0) * () 内は教科書該当箇所。	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
2	憲法の意義	・形式的意味の憲法と実質的身の憲法、立憲主義 (Unit 1)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
3	統治機構総論	・権力分立 (Unit 2) ・国民主権 (Unit 3)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
4	国会	国会の地位と役割、組織 (Unit 6, 7)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
5	内閣	内閣の地位と役割、組織 (Unit 8)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
6	裁判所	裁判所の地位と役割、組織 (Unit 9, 10)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
7	基本的人権各論 (1)	職業選択の自由と規制、公共の福祉 (Unit 21, 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
8	基本的人権各論 (2)	プライバシー権と防犯カメラ (Unit 28, 29)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
9	基本的人権総論	人権の歴史、権利能力 (享有主体性)、人権の分類 (Unit 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
10	基本的人権各論 (3)	表現の自由の意義、二重の基準、名誉毀損 (Unit 17, 18)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
11	基本的人権各論 (4)	集会・結社の自由、公の施設、パブリック・フォーラム (Unit 20)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
12	基本的人権各論 (5)	信教の自由と政教分離原則 (Unit 16, 17)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。

	13	基本的人権各論 (6)	思想良心の自由, 日の丸・君が代訴訟 (Unit 1 4)	時間)。 事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理, 要約する (2 時間)。																
	14	基本的人権各論 (7)	生存権, 生活保護, 受給者の自動車利用 (Unit 2 4)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理, 要約する (2 時間)。																
	15	平等原則	平等原則の意義, 合理的な区別, 差別 (Unit 2 7)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理, 要約する (2 時間)。																
関連科目	行政法、民法、刑法など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>一歩先への憲法入門 [第2版]</td> <td>片桐直人ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	一歩先への憲法入門 [第2版]	片桐直人ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	一歩先への憲法入門 [第2版]	片桐直人ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>START UP 憲法判例 50 [第2版]</td> <td>上田健介・尾形健・片桐直人</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>授業中に適宜指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	START UP 憲法判例 50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣	2	授業中に適宜指示します。			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	START UP 憲法判例 50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣																	
2	授業中に適宜指示します。																			
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価対象: 第5回, 第10回, 第15回の習熟度確認の演習課題のみ。 ・成績内訳: <ul style="list-style-type: none"> 第5回: 30% 第10回: 35% 第15回: 35% ・実施方法: <ul style="list-style-type: none"> ・Forms によるオンラインで実施する。 ・毎回出される復習課題から 80%, 新規問題 20% ・論述式の問題を出題する場合は, 事前に問題を提示する。 																			
学生へのメッセージ	<p>法学を勉強したことない人も受講を歓迎します。 この授業は, 憲法の条文, 原理や解釈がなぜそうなっているのか, という点を分かりやすく説明することを心がけています。 また, 社会のさまざまな事柄を憲法に基づいて考えられるような工夫に努めていきます。</p>																			
担当者の研究室等備考	11 号館 9 階 笹木講師室																			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 1	5 文型	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
2	Unit 2	動詞 (1)	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
3	Unit 3	動詞 (2)	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
4	Unit 4	時制	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
5	Unit 5	能動態と受動態	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
6	Unit 6	助動詞	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
7	中間試験 Unit 7	Unit 1 ~ Unit 6 不定詞	試験準備
8	Unit 7 Unit 8	不定詞 分詞	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
9	Unit 8	分詞	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
10	Unit 9	動名詞	別途課題
11	Unit 9	動名詞	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
12	Unit 10	仮定法	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
13	Unit 11	名詞 (1)	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
14	Unit 12	名詞 (1)	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
15	授業内期末試験	Unit 1 ~ 12	試験準備

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Upward English	木村 正俊	開文社出版株式会社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ... 20% 授業内中間試験... 30% 授業内期末... 30% 小テスト... 20%
-----------	--

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	近 大志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 日本文化・観光地を題材とした平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・自己紹介 ・授業の紹介(進め方, 評価方法など) ・課題の提示	Follow orientation instructions.
2	Lesson 1. An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!	・Reading ・演習	Follow instructions as provided in class.
3	Lesson 1. An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
4	Lesson 8. Omi Province and Its Military History	・小テスト① ・Reading	Follow instructions as provided in class.
5	Lesson 8. Omi Province and Its Military History	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
6	Lesson 9. The Deer in Nara	・小テスト② ・Reading	Follow instructions as provided in class.
7	Lesson 9. The Deer in Nara	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
8	Lesson 10. Kyoto Station	・小テスト③ ・Reading	Follow assessment instructions
9	Lesson 10. Kyoto Station	・演習 ・グループワーク	Follow assessment instructions.
10	Lesson 11. Let's Explore Osaka	・小テスト④ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
11	Lesson 11. Let's Explore Osaka	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
12	Lesson 12. Port City Kobe	・小テスト⑤ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
13	Lesson 12. Port City Kobe	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
14	Lesson 1. (revisitation)	・小テスト⑥ ・グループワーク	Follow assessment instructions.
15	Lesson 1, 8-12	・グループワーク ・授業の振り返り	Follow assessment instructions.

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おもてなしの観光英語 (Hospitality English)	木戸美幸 著/ Carolyn Wright 著 / 河原俊昭 著/ 徳地慎二 著	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題(EnglishCentral) ... 20% 小テスト ... 30% 授業課題 ... 50%
----------	--

学生へのメッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	リスニング スピーキング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
2	スモールトーク	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
3	be 動詞 話しかける/自己紹介する	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
4	クラブ活動	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
5	一般動詞 (現在形) 人を誘う/別れ際の挨拶	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
6	専攻科目	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
7	一般動詞 (過去形) 人を紹介する/驚きを示す	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
8	日本の事象・休日	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
9	未来形 予定を述べる/説明する	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
10	アルバイト	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
11	進行形 詳細を尋ねる/理由を述べる	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
12	カフェテリア	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
13	受動態 意向を尋ねる/好みを述べる	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
14	イベント企画	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
15	現在完了形 経験を尋ねる/提案する まとめと復習テスト	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	指定箇所を音読、または暗記する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	音読で学ぶ基礎英語<<キャンパス編>> Let's Read Aloud & Learn English: On Campus	角山 照彦 / Simon Capper	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単 語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 ...40% 復習テスト...40%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑦⑧
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 原則として、出席率 80%以上(12 回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く)授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします(単位が取得できる見込みはありません)。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 語彙	授業内容・評価方法についての説明 次回の単語テストの語彙解説 チャプター1 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
2	UNIT2 語彙	単語テスト1 次回の単語テストの語彙解説 チャプター2 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
3	UNIT3 語彙	単語テスト2 次回の単語テストの語彙解説 チャプター3 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
4	UNIT4 語彙	単語テスト3 次回の単語テストの語彙解説 チャプター4 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
5	チェックテスト第一回	第一回チェックテスト(単語テスト含む) 問題の解答・解説 次の単語テストの語彙解説	テキスト予習 テスト対策勉強(1 時間以上)
6	UNIT5 語彙	単語テスト4 次回の単語テストの語彙解説 チャプター5 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
7	UNIT6 語彙	単語テスト5 次回の単語テストの語彙解説 チャプター6 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
8	UNIT7 語彙	単語テスト6 次回の単語テストの語彙解説 チャプター7 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
9	UNIT8 語彙	単語テスト7 次回の単語テストの語彙解説 チャプター8 作業プリント	テキスト予習 テスト対策勉強(1 時間以上)
10	チェックテスト第二回	第二回チェックテスト(単語テスト含む) 問題の解答・解説 次回の単語テストの語彙解説	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
11	UNIT9 語彙	単語テスト8 次回の単語テストの語彙解説 チャプター9 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
12	UNIT10 語彙	単語テスト9 次回の単語テストの語彙解説 チャプター10 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
13	UNIT11 語彙	単語テスト10 チャプター11 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
14	UNIT12 語彙	単語テスト11 チャプター12 作業プリント	テキスト予習 単語テスト対象の単語 (1 時間)
15	チェックテスト第三回	第三回チェックテスト 問題の解答・解説	期末試験に向けて自学自習をすること

			回の単語テストの語彙解説	(1時間以上)
関連科目	他の英語全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touring Japan in English	Toshiyuki Sakabe ほか	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK -Revised Edition-	Nishiya Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	なかなか日本の文化を英語で説明することは難しいのですが、「なるほどこう言えばいいのか」がたくさん発見できると思います。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室) 木曜日午前中			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑨⑩
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	近 大志
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 日本文化・観光地を題材とした平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・自己紹介 ・授業の紹介(進め方, 評価方法など) ・課題の提示	Follow orientation instructions.
	2	Unit1. Learning Japanese from Scratch and My Love for Japanese Culture	・Reading	Follow instructions as provided in class.
	3	Unit1. Learning Japanese from Scratch and My Love for Japanese Culture	・演習	Follow instructions as provided in class.
	4	Unit2. Manga 101 - Basic Walk-through of the Manga World	・小テスト① ・Reading	Follow instructions as provided in class.
	5	Unit2. Manga 101 - Basic Walk-through of the Manga World	・演習	Follow instructions as provided in class.
	6	Unit.3 Kawaii - Japan's "Soft Power"	・小テスト② ・Reading	Follow instructions as provided in class.
	7	Unit.3 Kawaii - Japan's "Soft Power"	・演習 ・フィードバック	Follow instructions as provided in class.
	8	Unit4. About Anime and Censorship	・小テスト③ ・Reading	Follow assessment instructions
	9	Unit4. About Anime and Censorship	・Reading ・演習	Follow assessment instructions.
	10	Unit7. Japan's Most Dangerous Game - Rock, Paper, Scissors	・小テスト④ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
	11	Unit7. Japan's Most Dangerous Game - Rock, Paper, Scissors	・演習	Follow instructions as provided in class.
	12	Unit8. Japanese Comedy - What's So Funny?	・小テスト⑤ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
	13	Unit8. Japanese Comedy - What's So Funny?	・演習	Follow instructions as provided in class.
	14	Unit11. Fukubukuro / Lucky Bags - Shibuya 109	・小テスト⑥ ・グループワーク	Follow assessment instructions.
15	Unit11. Fukubukuro / Lucky Bags - Shibuya 109	・演習 ・授業の振り返り ・最終課題の提示	Follow assessment instructions.	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポップカルチャーで日本を表現する	内田 均 編著/ 永田喜文 編著/ 伊藤由起子 編著/ 菅野智城 編著	三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20%
------	---------------------------------

(基準)	小テスト ... 30% 授業課題 ... 50%
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	リスニング スピーキング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
2	スモールトーク	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
3	be 動詞 話しかける/自己紹介する	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
4	クラブ活動	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
5	一般動詞 (現在形) 人を誘う/別れ際の挨拶	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
6	専攻科目	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
7	一般動詞 (過去形) 人を紹介する/驚きを示す	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
8	日本の事象・休日	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
9	未来形 予定を述べる/説明する	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
10	アルバイト	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
11	進行形 詳細を尋ねる/理由を述べる	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
12	カフェテリア	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
13	受動態 意向を尋ねる/好みを述べる	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	テキストの指定されたページの語彙、リスニング問題に解答する。
14	イベント企画	語彙の確認 リスニング スピーキング	テキストの指定されたページのリーディング、ライティング問題に解答する。 指定箇所を音読、または暗記する。
15	現在完了形 経験を尋ねる/提案する まとめと復習テスト	音読、または暗記発表 リーディング ライティング	指定箇所を音読、または暗記する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	音読で学ぶ基礎英語<キャンパス編> Let's Read Aloud & Learn English: On Campus	角山 照彦 / Simon Capper	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単 語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 ...40% 復習テスト...40%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	前期内容の確認	前期試験の復習
2	Unit 13	代名詞	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
3	Unit 14	冠詞	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
4	Unit 15	形容詞・副詞	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
5	Unit 16	数詞・数量表現	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
6	Unit 17	比較	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
7	授業内中間試験 Unit 19	Unit 13 ~ Unit 17 前置詞	試験準備
8	Unit 20	接続詞	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
9	Unit 18	関係詞	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
10	Unit 18	関係詞	別途課題
11	Unit 21	譲歩	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
12	Unit 22	否定	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
13	Unit 23	同格、倒置、省略	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
14	Unit 24	無生物主語構文	文法事項の確認をおこないA, B, Cの問題に取り組む
15	授業内期末試験	Unit 13 ~ 24	試験準備

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Upward English	木村 正俊	開文社出版株式会社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題(EnglishCentral) ... 20% 授業内中間試験... 30% 授業内期末... 30% 小テスト... 20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近 大志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 日本文化・サブカルチャーを題材とした平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・自己紹介 ・授業の紹介(進め方, 評価方法など) ・課題の提示	Follow orientation instructions.
	2	Unit1. Learning Japanese from Scratch and My Love for Japanese Culture	・Reading	Follow instructions as provided in class.
	3	Unit1. Learning Japanese from Scratch and My Love for Japanese Culture	・演習	Follow instructions as provided in class.
	4	Unit2. Manga 101 - Basic Walk-through of the Manga World	・小テスト① ・Reading	Follow instructions as provided in class.
	5	Unit2. Manga 101 - Basic Walk-through of the Manga World	・演習	Follow instructions as provided in class.
	6	Unit.3 Kawaii - Japan's "Soft Power"	・小テスト② ・Reading	Follow instructions as provided in class.
	7	Unit.3 Kawaii - Japan's "Soft Power"	・演習 ・フィードバック	Follow instructions as provided in class.
	8	Unit4. About Anime and Censorship	・小テスト③ ・Reading	Follow assessment instructions
	9	Unit4. About Anime and Censorship	・Reading ・演習	Follow assessment instructions.
	10	Unit7. Japan's Most Dangerous Game - Rock, Paper, Scissors	・小テスト④ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
	11	Unit7. Japan's Most Dangerous Game - Rock, Paper, Scissors	・演習	Follow instructions as provided in class.
	12	Unit8. Japanese Comedy - What's So Funny?	・小テスト⑤ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
	13	Unit8. Japanese Comedy - What's So Funny?	・演習	Follow instructions as provided in class.
	14	Unit11. Fukubukuro / Lucky Bags - Shibuya 109	・小テスト⑥ ・グループワーク	Follow assessment instructions.
15	Unit11. Fukubukuro / Lucky Bags - Shibuya 109	・演習 ・授業の振り返り ・最終課題の提示	Follow assessment instructions.	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポップカルチャーで日本を表現する	内田 均 編著/ 永田喜文 編著/ 伊藤由起子 編著/ 菅野智城 編著	三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20%
------	---------------------------------

(基準)	小テスト ... 30% 授業課題 ... 50%
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	道案内	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	2	助動詞 道順を尋ねる/感謝する	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	3	プレゼン準備	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	4	不定詞 問題点を述べる/依頼する	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	5	生活費	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	6	関係詞 理由を述べる/理解を示す	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	7	語学研修	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	8	形容詞・副詞 意見を尋ねる/励ます	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	9	試験勉強	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	10	接続詞・前置詞 近況を尋ねる/確信を示す	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	11	期末試験	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	12	動名詞 賛同する/不安を示す	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	13	長期休暇	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	14	分詞 相槌を打つ/予定を尋ねる	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	15	アルバイト(接客) 復習テスト	リスニング スピーキング リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定された語彙問題、リスニング問題、リーディング、ライティング課題に解答する。音読、または暗記発表の準備

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	音読で学ぶ基礎英語<キャンパス編> Let's Read Aloud & Learn English: On Campus	角山 照彦 / Simon Capper	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20%			

(基準)	TOEIC Bridge ...10% 授業への参加、貢献 ...30% 復習テスト...40%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 原則として、出席率80%以上(12回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く)授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします(単位が取得できる見込みはありません)。
----------	--

科目学習の効果(資格)	TOEIC/英検等
-------------	-----------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ユニット1 語彙	授業内容・評価方法についての説明 ユニット1 プリント	チャプター1 単語調べ 予習 (1時間)
2	ユニット2 語彙	単語テスト1 ユニット2 プリント	チャプター2 単語調べ 予習 先週の復習 (1時間)
3	ユニット3 語彙	単語テスト2 ユニット3 プリント	チャプター3の単語調べ予習 先週の復習 (1時間)
4	ユニット4 語彙	単語テスト3 ユニット4 プリント	チャプター4の単語調べ予習 先週の復習(1時間)
5	チェックテスト第一回	チェックテスト1 問題の解答・解説	復習 テスト勉強(1時間以上)
6	ユニット5 語彙	単語テスト4 ユニット5 プリント	チャプター5の単語調べ予習 先週の復習(1時間)
7	ユニット6 語彙	単語テスト5 ユニット6 プリント	チャプター6の単語調べ予習 先週の復習(1時間)
8	ユニット7 語彙	単語テスト6 ユニット7 プリント	チャプター7の単語調べ予習 先週の復習(1時間)
9	ユニット8 語彙	単語テスト7 ユニット8 プリント	チャプター8の単語調べ予習 先週の復習(1時間)
10	チェックテスト第二回	ミニテスト第二回(単語テスト含む) 問題の解答・解説	復習 テスト勉強(1時間以上)
11	ユニット9 語彙	単語テスト8 ユニット9 プリント	チャプター9の単語調べ予習 先週の復習 (1時間)
12	ユニット10 語彙	単語テスト9 ユニット10 プリント	チャプター10の単語調べ 予習 先週の復習 (1時間)
13	ユニット11 語彙	単語テスト10 ユニット11 プリント	チャプター12の予習予習 先週の復習 (1時間)
14	ユニット12 語彙	単語テスト11 ユニット12 プリント	チャプター13の予習予習 先週の復習 (1時間)
15	チェックテスト第三回	チェックテスト第三回 問題の解答・解説	テストに向けて自学自習をすること (1時間以上)

関連科目	他の英語全科目
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Knowledge Expander</td> <td>Atsuko Uemura 他</td> <td>Asahi Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK -Revised Edition-</td> <td>Nishiya Koji</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Knowledge Expander	Atsuko Uemura 他	Asahi Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK -Revised Edition-	Nishiya Koji	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Knowledge Expander	Atsuko Uemura 他	Asahi Press														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK -Revised Edition-	Nishiya Koji	成美堂														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																
学生への メッセージ	topic 的に英語を使って「一般教養科目」を英語で読んでみるクラスです。文を読むだけでなくグラフや表、図や絵など様々な形での資料にも接します。様々な形や内容で英語と接しつつ、一般的な語彙も増やして行きます。																
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室) 木曜日午前中																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑨⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近 大志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 日本文化・観光地を題材とした平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・自己紹介 ・授業の紹介(進め方, 評価方法など) ・課題の提示	Follow orientation instructions.
2	Lesson 1. An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!	・Reading ・演習	Follow instructions as provided in class.
3	Lesson 1. An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
4	Lesson 8. Omi Province and Its Military History	・小テスト① ・Reading	Follow instructions as provided in class.
5	Lesson 8. Omi Province and Its Military History	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
6	Lesson 9. The Deer in Nara	・小テスト② ・Reading	Follow instructions as provided in class.
7	Lesson 9. The Deer in Nara	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
8	Lesson 10. Kyoto Station	・小テスト③ ・Reading	Follow assessment instructions
9	Lesson 10. Kyoto Station	・演習 ・グループワーク	Follow assessment instructions.
10	Lesson 11. Let's Explore Osaka	・小テスト④ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
11	Lesson 11. Let's Explore Osaka	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
12	Lesson 12. Port City Kobe	・小テスト⑤ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
13	Lesson 12. Port City Kobe	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
14	Lesson 1. (revisitation)	・小テスト⑥ ・グループワーク	Follow assessment instructions.
15	Lesson 1, 8-12	・グループワーク ・授業の振り返り	Follow assessment instructions.

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おもてなしの観光英語 (Hospitality English)	木戸美幸 著/ Carolyn Wright 著 / 河原俊昭 著/ 徳地慎二 著	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題(EnglishCentral) ... 20% 小テスト ... 30% 授業課題 ... 50%
----------	--

学生へのメッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	道案内	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	2	助動詞 道順を尋ねる/感謝する	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	3	プレゼン準備	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	4	不定詞 問題点を述べる/依頼する	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	5	生活費	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	6	関係詞 理由を述べる/理解を示す	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	7	語学研修	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	8	形容詞・副詞 意見を尋ねる/励ます	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	9	試験勉強	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	10	接続詞・前置詞 近況を尋ねる/確信を示す	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	11	期末試験	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	12	動名詞 賛同する/不安を示す	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
	13	長期休暇	リスニング スピーキング	指定された語彙問題、リスニング問題に解答する。音読、または暗記発表の準備
	14	分詞 相槌を打つ/予定を尋ねる	リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定されたリーディング、ライティング課題に解答する。
15	アルバイト(接客) 復習テスト	リスニング スピーキング リーディング ライティング 音読、または暗記発表	指定された語彙問題、リスニング問題、リーディング、ライティング課題に解答する。音読、または暗記発表の準備	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	音読で学ぶ基礎英語<キャンパス編> Let's Read Aloud & Learn English: On Campus	角山 照彦 / Simon Capper	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20%			

(基準)	TOEIC Bridge ...10% 授業への参加、貢献 ...30% 復習テスト...40%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: This is Me	Vocabulary focus	Listening Homework 1
3	Unit 1: This is Me	Listening focus	Writing Assignment 1
4	Unit 1: This is Me	Speaking focus	Study for Quiz 1
5	Quiz 1	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Preview unit vocabulary
6	Unit 2: What is Home?	Vocabulary focus	Listening Homework 2
7	Unit 2: What is Home?	Listening focus	Writing Assignment 2
8	Unit 2: What is Home?	Speaking focus	Study for Quiz 2
9	Quiz 2	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Preview unit vocabulary
10	Unit 3: Tracking Life	Vocabulary focus	Listening Homework 3
11	Unit 3: Tracking Life	Listening focus	Writing Assignment 3
12	Unit 3: Tracking Life	Speaking focus	Study for Quiz 3
13	Quiz 3	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Complete presentation materials
14	Mini-presentations	Students present of chosen topics in small groups	Begin Self-Reflection Assignment 2
15	Course Review and Wrap-up	Students reflect on and communicate about course contents and individual skills; submit make-up work	Complete Self-Reflection Assignment 2

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reflect: Listening & Speaking Level 1	Cengage	Blass, Bygrave, Dummett, Fettig, Sherman, Va
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Quizzes (3) 30% Listening Homework (3) 15% Writing Assignments (3) 15% Mini-presentation (1) 15% Self-reflection (2) 10% Participation 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	Attending classes regularly and participating in class discussions will yield good results.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction Getting to Know You	Lecture. Exchanging information. Pair Work Group Work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
2	1 Getting to Know You	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
3	2Clothing	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
4	Fashion	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
5	Health	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
6	Wellbeing	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
7	Directions	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
8	Places and Locations	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
9	Review	Quiz. Review.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
10	Dreams and Goals	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
11	Future Plans	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
12	Experiences.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
13	Travel	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
14	Review	Test, Lecture.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
15	Review	Test. Lecture.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, pair speaking tasks, cooperation, teamwork, and bearing. 80% Test(s) 20%.
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト Getting to Know You, Class Rules, Evaluation, etc.	Introduction exercises Getting to Know You	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises - Getting to Know You Pt 2	次回の単語テストの予習 テキスト Getting to Know You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises - Food & Drink	次回の単語テストの予習 テキスト Eating Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises - Your Neighbourhood	テキスト Living Conditions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	単語テスト Exercises - Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises - Entertainment	次回の単語テストの予習 テキスト Movies, TV, Music	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises - Friends & Dating	テキスト Relationships, Going Out	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises - Fashion & Style	次回の単語テストの予習 テキスト Dress for Success	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	単語テスト Exercises - University Life	次回の単語テストの予習 テキスト Education, Club Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises - University Life	テキスト Student Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises - Shopping	次回の単語テストの予習 テキスト Clothes, Supermarket, On-line	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises - Travel	次回の単語テストの予習 テキスト Travel Experience	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises - Summer Vacation	テキスト Summer Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review Test and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for review test

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym with Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	25% of Grade on unit assignments 25% of Grade on end-of-unit quizzes
-----------	---

	50% of Grade on Review Test (in-class Final Test)
学生へのメッセージ	<p>興味もてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。</p> <p>Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.</p> <p>単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松本 裕也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	<ul style="list-style-type: none"> 今後の授業の進め方、及び評価方法などの具体的な説明 クラスメートと打ち解けるためのアクティビティ 	事前学習： <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介の際に話したい内容を考える 事後学習： <ul style="list-style-type: none"> シラバスを熟読しておく
2	Unit 1: My interests	<ul style="list-style-type: none"> 「興味・関心のあること」をテーマに Speaking, または Activity 「現在形」をテーマに文法学習 	事前学習： <ul style="list-style-type: none"> 教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 6-9) 事後学習： <ul style="list-style-type: none"> Self-study journal に取り組む
3	Unit 1: My interests	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト 「スポーツ」をテーマに Speaking, または Activity 「現在形」をテーマに文法学習 	事前学習： <ul style="list-style-type: none"> 教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 10-13) 事後学習： <ul style="list-style-type: none"> 単語テストへの準備 Self-study journal に取り組む 単語テストの復習
4	Unit 2: Descriptions	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト 「性格」をテーマに Speaking, または Activity 「What...like?」をテーマに文法学習 	事前学習： <ul style="list-style-type: none"> 教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 16-19) 事後学習： <ul style="list-style-type: none"> 単語テストへの準備 Self-study journal に取り組む 単語テストの復習
5	Unit 2: Descriptions	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト 「見た目」をテーマに Speaking, または Activity 「What...look like?」をテーマに文法学習 	事前学習： <ul style="list-style-type: none"> 教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 20-23) 事後学習： <ul style="list-style-type: none"> 単語テストへの準備 Self-study journal に取り組む 単語テストの復習
6	Unit 3: Rain or shine	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト 「天気」をテーマに Speaking, または Activity 「強調のための副詞」をテーマに文法学習 	事前学習： <ul style="list-style-type: none"> 教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 26-29) 事後学習： <ul style="list-style-type: none"> 単語テストへの準備 Self-study journal に取り組む 単語テストの復習
7	Unit 3: Rain or shine	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト 「インドアアクティビティ」をテーマに Speaking, または Activity 「Would like to do」をテーマに文法学習 	事前学習： <ul style="list-style-type: none"> 教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 30-33) 事後学習： <ul style="list-style-type: none"> 単語テストへの準備

			<ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
8	Review of Units 1-3 & Special topic	<ul style="list-style-type: none"> ・復習テストを行い、Unit 1～3 の内容で理解できていない箇所を明確にする ・これまでの学習内容をグループで復習する 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ内容 (Unit 1～3) を復習する <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・復習テストの復習
9	Unit 4: Life at home	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「家」をテーマに Speaking, または Activity ・”How much / many～?”をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 36-39) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
10	Unit 4: Life at home	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「家事」をテーマに Speaking, または Activity ・「チャックとしての動詞」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 40-43) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
11	Unit 5: Health	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「身体」をテーマに Speaking, または Activity ・「命令文」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 46-49) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
12	Unit 5: Health	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「健康的な生活」をテーマに Speaking, または Activity ・「How を使った疑問文」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 50-53) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
13	Unit 6: What's on TV ?	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「テレビ番組」をテーマに Speaking, または Activity ・「動名詞」「不定詞」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 56-59) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
14	Review	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「春学期」をテーマに Speaking, または Activity 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ内容 (Unit 4～6) を復習する <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
15	Review of Units 4-6 & Special topic	<ul style="list-style-type: none"> ・復習テストを行い、Unit 4～6 の内容で理解できていない箇所を明確にする ・これまでの学習内容をグループで復習する 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ内容 (Unit 4～6) を復習する
関連科目			
教科書			

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Four Corners Level 2 Student's Book with Online Self-Study</td> <td>Jack C. Richards, David Bohlke</td> <td>Cambridge University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Four Corners Level 2 Student's Book with Online Self-Study	Jack C. Richards, David Bohlke	Cambridge University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Four Corners Level 2 Student's Book with Online Self-Study	Jack C. Richards, David Bohlke	Cambridge University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト：10% ・復習テスト（2回）：20%×2=40% ・授業内外での課題への取り組み：50%（教員からの質問に積極的に回答する姿勢や授業への集中度、ペア・グループワークへの参加度、ノートやメモを取っているか、課題を提出しているか等） <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする（3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席）。 ・課題の提出が1週間遅れることに、付与される点数は、半減。 																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの点数だけを基準に成績はつけません。アクティビティへの積極的な参加、講義に対する質問など、努力する姿勢が評価対象の中心です。 ・辞書（電子辞書可）を持ってきてください。 ・授業に関係のない行為（下記参照）は欠席、減点扱いの対象です。欠席や減点扱いとなった場合、成績の低下と単位取得の両方に影響します。 <p>① 私語など授業を妨害する行為は自動的に欠席とみなす。 ② 居眠り、携帯電話の使用は減点対象。 ③ 許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ④ ペアワーク、グループワークの際に、他学生に任せてアクティビティに参加していない場合は、減点対象、また忠告後に改善が見られない場合は、自動的に欠席とみなす。</p> <p>①から④が続く場合、単位を認めません。</p> <p>上記ルールは、努力して英語を習得しようとする学生に適切な学習環境を提供することが目的で、厳しい学習環境づくりがその目的ではありません。</p> <p>楽しい15週間を過ごしましょう。困ったときはいつでも遠慮なく相談してください。</p>																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室（メールにて要予約）にて対応する。																

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	バナム マシュー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	An overall look at the course, and getting to know one another.	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	2	Unit 1: Hobbies and interests	Introduce yourself and others and give personal information	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	3	Unit 1: Hobbies and interests	Introduce yourself and others and give personal information	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	4	Unit 2: Clothing	Describe clothing and talk about fashion	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	5	Unit 2: Clothing	Describe clothing and talk about fashion	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	6	Unit 1 & 2 review	Review and speaking test	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	7	Unit 3: Health	Give advice	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	8	Unit 3: Health	Give advice	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	9	Unit 4: Locations and directions	Describing places, giving directions	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	10	Unit 4: Locations and directions	Describing places, giving directions	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	11	Unit 3 & 4 review	Review and speaking test	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	12	Unit 6: Goals and dreams	Talk about future plans	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	13	Unit 6: Goals and dreams	Talk about future plans	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	14	Semester review	Review semester 1	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	15	Speaking test	Speaking and written test	Review the semester's material

関連科目	英語基礎会話 II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand (5th Edition)	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class attendance & participation 50% Speaking tests 20% Final speaking and written test 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will be learning communication skills during this course so be ready to improve your skills. I'm looking forward to meeting you all!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	To build students' four skills in English - reading, writing, speaking and listening 英語の4技能(読む、書く、話す、聞く)を身につける
到達目標	Classes are conducted 100% in English. At the end of the course, students should be able to use conversational skills, have built up their reading skills, have improved their listening skills, and have taken notes in English to improve spelling and grammar. 授業は100%英語で行われます。コース終了時には、会話力を身につけることができます。読解力とリスニング力が向上します。また、メモを取ったり、英語で文章を書いたりすることで、スペルや文法も上達します。
授業方法と留意点	Each class will include pair work, group work, practice of dialogues in English, reading and discussion. Students will work towards making a presentation towards the end of the term to give them confidence in the skills they have learned. Students should be prepared to talk a lot. 各クラスでは、ペアワーク、グループワーク、英語での対話の練習、リーディング、ディスカッションを行います。学期末にはプレゼンテーションを行い、学習したスキルに自信を持てるようにします。学生はたくさん話すことを覚悟しておく必要があります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Introductions 自己紹介	Exchanging personal information using 4 skills. クラスメートと自分の情報を交換する	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
3	Introductions 他人のことを知る	Focusing on learning about people in other countries. 他国の人々について学ぶこと	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
4	Daily Life as a student 学生の日常生活	Talking about your daily routine. 日課を語る	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
5	Daily Life as a student 学生の日常生活	Focusing on a typical morning in Canada. カナダでの生活について	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
6	Free time 自由時間	Talking about what you do in your free time, including your interests, sports, and after class. 趣味やスポーツ、授業の後など、自由な時間に何をしているかを話す	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
7	Review on vocabulary and conversation covered in Units 1-3 ユニット1~3で学習した単語や会話の復習をする	This is your chance to review vocabulary and consolidate your learning. 語彙を確認し、学習を定着させるチャンスです	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
8	Places 近所	Talking about your neighborhood and what you can do there. 自分の住んでいる地域やそこでできることについて話す	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
9	Places 他国	Focusing on neighborhoods in other countries. 海外の近隣地域に着目する	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
10	Getting Around 自宅から学校までの移動	Talking about directions and finding places 場所案内	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
11	Getting Around 他の場所との行き来	Focusing on tourist information and understanding information about places. 観光案内	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
12	Shopping ショッピング	Talking about shopping habits and preferences. 買い物習慣や嗜好	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
13	Review on vocabulary and conversation covered in Units 4-6 ユニット4~6で学習した単語や会話の復習をする	Looking at shopping in another country and examining online shopping websites. オンラインショッピングサイト	Presentation preparation プレゼン準備
14	Preparing for presentations プレゼンテーションの準備	Students will prepare a presentation on one of the topics that we have covered in first term in more depth. これまでに取り上げたトピックのうち、1つについて発表	Presentation preparation プレゼン準備
15	Final presentations 最終発表会	Students will give their presentations. 学生によるプレゼンテーションを行う	

関連科目	英語基礎会話 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition))	Miles Craven	Macmillan Education
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	B5 Notebook for writing		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Evaluation: Attitude (30%) / Note-taking (20%) / 1 Presentation (20%) / 2 Reviews (20%) / Weekly quizzes (10%) * Attitude is a weekly score that includes being on time, prepared, talking 100% in English, enthusiastic in joining pair and group activities. 評			
学生への メッセージ	Don't be afraid to make mistakes. It is through making mistakes that you learn English. Everyone's level of English is different. Ask for help and support each other. In the future, English will help you to read about your field of study in English, travel, study abroad and understand the Internet world of English. Dream big!			
担当者の 研究室等	Amanda Taura, Building 7, 5th floor office 田浦アマンド研究室 7号館 5階			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松本 裕也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方、評価の方法などの説明 簡単な自己紹介 	事前学習： ・英語で自己紹介ができるように考えてくる 事後学習： ・シラバスを熟読しておく
	2	Unit 1: Education	<ul style="list-style-type: none"> “School Subjects” をテーマに Speaking, または Activity 「現在形」「現在進行形」をテーマに文法学習 	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 4-7) 事後学習： ・Self-study journal に取り組む
	3	Unit 1: Education	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト “Feelings & Emotions” をテーマに Speaking, または Activity “Zero conditional” をテーマに文法学習 	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 8-11) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
	4	Unit 2: Personal Stories	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト “Personal Stories” をテーマに Speaking, または Activity 「過去進行形」「過去形」をテーマに文法学習 	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 14-17) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
	5	Unit 2: Personal Stories	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト “Reaction” をテーマに Speaking, または Activity 「形容詞」をテーマに文法学習 	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 18-21) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
	6	Unit 3: Style and Fashion	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト “Fashion” をテーマに Speaking, または Activity “Used to” をテーマに文法学習 	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 24-27) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
	7	Unit 3: Style and Fashion	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト 「外見」をテーマに Speaking, または Activity 「文章に詳細を加える」(関係詞) をテーマに文法学習 	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 28-31) ・単語テストへの準備 事後学習：

			<ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
8	Review of Units 1-3 & Special topic	<ul style="list-style-type: none"> ・復習テストを行い、Unit 1~3 の内容で理解できていない箇所を明確にする ・これまでの学習内容をグループで復習する 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ内容 (Unit 1~3) を復習する <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・復習テストの復習
9	Unit 4: Interesting Lives	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「経験」をテーマに Speaking, または Activity ・「現在完了」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 34-37) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
10	Unit 4: Interesting Lives	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「具体的に伝える」をテーマに Speaking, または Activity ・「現在完了」「過去形」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 38-41) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
11	Unit 5: Our World	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・“Travel”をテーマに Speaking, または Activity ・「比較」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 44-47) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
12	Unit 5: Our World	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「自然」をテーマに Speaking, または Activity ・「最上級」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 48-51) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
13	Unit 6: Organizing your time	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・“Commitments”をテーマに Speaking, または Activity ・「未来を示す現在形」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 54-57) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
14	Unit 6: Organizing your time	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「春学期」をテーマに Speaking, または Activity ・「依頼を示す助動詞」をテーマに文法学習 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 58-61) <ul style="list-style-type: none"> ・単語テストへの準備 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
15	Review of Units 4-6 & Special topic	<ul style="list-style-type: none"> ・復習テストを行い、Unit 4~6 の内容で理解できていない箇所を明確にする ・これまでの学習内容をグループで復習する 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ内容 (Unit 4-6) を復習する <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Self-study journal に取り組む

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Four Corners Level 3 Student's Book with Online Self-Study	Jack C. Richards, David Bohlke	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト：10% ・復習テスト（2回）：20%×2=40% ・授業内外での課題への取り組み：50%（教員からの質問に積極的に回答する姿勢や授業への集中度、ペア・グループワークへの参加度、ノートやメモを取っているか、課題を提出しているか等） <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする（3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席）。 ・課題の提出が1週間遅れることに、付与される点数は、半減。 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの点数だけを基準に成績はつけません。アクティビティへの積極的な参加、講義に対する質問など、努力する姿勢が評価対象の中心です。 ・辞書（電子辞書可）を持ってきてください。 ・授業に関係のない行為（下記参照）は欠席、減点扱いの対象です。欠席や減点扱いとなった場合、成績の低下と単位取得の両方に影響します。 <p>① 私語など授業を妨害する行為は自動的に欠席とみなす。 ② 居眠り、携帯電話の使用は減点対象。 ③ 許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ④ ペアワーク、グループワークの際に、他学生に任せてアクティビティに参加していない場合は、減点対象、また忠告後に改善が見られない場合は、自動的に欠席とみなす。</p> <p>①から④が続く場合、単位を認めません。</p> <p>上記ルールは、努力して英語を習得しようとする学生に適切な学習環境を提供することが目的で、厳しい学習環境づくりがその目的ではありません。</p> <p>楽しい15週間を過ごしましょう。困ったときはいつでも遠慮なく相談してください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室（メールにて要予約）にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 梨絵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	日常英会話の上達

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	趣味や娯楽 Unit 2 Talking about Hobbies and Pastimes.	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
3	故郷 Unit 3 Talking about Hometowns	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
4	家族 Unit 4 Talking about Family	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
5	場所、観光地 Unit 5 Talking about Places and Sights	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
6	交通手段、道案内 Unit 6 Talking about Transportation and Direction	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
7	レストラン、食事 Unit 8 Talking about Restaurants and Meals	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
8	映画、テレビ Unit 9 Talking about Movies and TV	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
9	音楽 Unit 10 Talking about Music	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
10	買い物 Unit 11 Talking about Shopping	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
11	スポーツ、運動 Unit 12 Talking about Sports and Exercise	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
12	旅と休暇 Unit 13 Talking about Travel and Vacations	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
13	仕事 Unit 14 Talking about Work and Jobs	クイズ (単語確認テスト) トピックに関するリスニング 会話練習 グループコミュニケーション	学習内容の予習、復習
14	これまでの授業の復習 スピーチ作成	スピーチ作成の説明	スピーチ課題の準備
15	授業のまとめ スピーチの発表	これまでの授業の復習とスピーチ発表	授業の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Complete Communication Book 1 -Basic-	James Bury, Anthony Sellick, Kaori Horiuchi	成美堂
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業 (コミュニケーション) 参加度 30% クイズ (単語確認テスト) 20% ペア (グループ) ワーク 20% スピーチ発表 30%			
学生への メッセージ	会話のクラスなので、積極的な授業への参加が求められます。授業に出てくる重要フレーズや単語を習得し、日常生活の様々な場面で使用できる基本的な英語表現ができるようになります。皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	バナム マシュー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	An overall look at the course, and getting to know one another.	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	2	Unit 1: Hobbies and interests	Introduce yourself and others and give personal information	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	3	Unit 1: Hobbies and interests	Introduce yourself and others and give personal information	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	4	Unit 2: Clothing	Describe clothing and talk about fashion	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	5	Unit 2: Clothing	Describe clothing and talk about fashion	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	6	Unit 1 & 2 review	Review and speaking test	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	7	Unit 3: Health	Give advice	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	8	Unit 3: Health	Give advice	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	9	Unit 4: Locations and directions	Describing places, giving directions	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	10	Unit 4: Locations and directions	Describing places, giving directions	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	11	Unit 3 & 4 review	Review and speaking test	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	12	Unit 6: Goals and dreams	Talk about future plans	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	13	Unit 6: Goals and dreams	Talk about future plans	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	14	Semester review	Review semester 1	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	15	Speaking test	Speaking and written test	Review the semester's material

関連科目	英語基礎会話 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand (5th Edition)	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class attendance & participation 50% Speaking tests 20% Final speaking and written test 30%
学生へのメッセージ	We will be learning communication skills during this course so be ready to improve your skills. I'm looking forward to meeting you all!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする			
到達目標	CEFR-J [A1, 3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校、仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。			
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Teacher - Student Introduction	Classroom English expressions	Review the main themes of the lesson
	2	Unit 1 Where Are You From?	Subject-Verb Agreement	Review the main themes of the lesson
	3	Unit 1 Where Are You From?	Different Nationalities	Review the main themes of the lesson
	4	Unit 2 How Are You Doing?	Be Verbs & Do Verbs	Review the main themes of the lesson
	5	Unit 3 How Many Classes Do You Have?	Countable Nouns	Review the main themes of the lesson
	6	Unit 4 How much food do you need?	Uncountable Nouns Review Units 1-3	Review the main themes of the lesson
	7	Unit 5 How many people are there in your family?	There is/There are/They are	Review the main themes of the lesson
	8	Unit 6 When is your report due?	Cardinal & Ordinal Numbers	Review the main themes of the lesson
	9	Unit 7 How was your weekend?	Past Tense Review units 4-6	Review the main themes of the lesson
	10	Unit 8 What time is your first class?	Time	Review the main themes of the lesson
	11	Unit 9 Have you ever been to Kyoto?	Present Perfect	Review the main themes of the lesson
	12	Review Units 7-9	Review Game	Review the main themes of the lesson
	13	Unit 10 Can I Ask You a Favor?	Auxillary Verbs	Review the main themes of the lesson
	14	Unit 11 I'm going to visit my grandparents.	Future Tense	Review the main themes of the lesson
	15	Unit 12 I'm On The Train	Prepositions Review Units 10-12	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Project English	Vivian Morooka	NAN' UN-DO
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	20% Attendance & Participation 50% Quizzes & Assignments 30% End of term test			
学生へのメッセージ	Let's enjoy creating new dialogues with one another and increasing our fluency in English!			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction Getting to Know You	Lecture. Exchanging information. Pair Work Group Work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
2	Getting to Know You	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
3	Clothing	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
4	Fashion	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
5	Health	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
6	Wellbeing	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
7	Directions	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
8	Places and Locations	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
9	Review	Quiz. Review.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
10	Dreams and Goals	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
11	Future Plans	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
12	Experiences.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
13	Travel	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
14	Review	Test, Lecture.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
15	Review	Test. Lecture.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, pair speaking tasks, cooperation, teamwork, and bearing. 80% Test(s) 20%.
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: This is Me	Vocabulary focus	Listening Homework 1
3	Unit 1: This is Me	Listening focus	Writing Assignment 1
4	Unit 1: This is Me	Speaking focus	Study for Quiz 1
5	Quiz 1	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Preview unit vocabulary
6	Unit 2: What is Home?	Vocabulary focus	Listening Homework 2
7	Unit 2: What is Home?	Listening focus	Writing Assignment 2
8	Unit 2: What is Home?	Speaking focus	Study for Quiz 2
9	Quiz 2	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Preview unit vocabulary
10	Unit 3: Tracking Life	Vocabulary focus	Listening Homework 3
11	Unit 3: Tracking Life	Listening focus	Writing Assignment 3
12	Unit 3: Tracking Life	Speaking focus	Study for Quiz 3
13	Quiz 3	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Complete presentation materials
14	Mini-presentations	Students present of chosen topics in small groups	Begin Self-Reflection Assignment 2
15	Course Review and Wrap-up	Students reflect on and communicate about course contents and individual skills; submit make-up work	Complete Self-Reflection Assignment 2

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reflect: Listening & Speaking Level 1	Cengage	Blass, Bygrave, Dummett, Fettig, Sherman, Va
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Quizzes (3) 30% Listening Homework (3) 15% Writing Assignments (3) 15% Mini-presentation (1) 15% Self-reflection (2) 10% Participation 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	Attending classes regularly and participating in class discussions will yield good results.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Occupations	Talking about different occupations	Preparation and review (1 hour)
3	At the dinner table	Practicing menu-related vocabulary and how to order a meal in a restaurant, Introducing a restaurant review	Preparation and review (1 hour)
4	Sports	Talking about sports, Introducing themed races	Preparation and review (1 hour)
5	Health	Discussing symptoms of illness, Talking about health threats caused by electronic devices	Preparation and review (1 hour)
6	What's on your playlist	Talking about types of music and musical performers, Talking about guitar	Preparation and review (1 hour)
7	At the movies	Discussing different kinds of movies, Talking about how horror movies attract and help us	Preparation and review (1 hour)
8	Midterm test	In-class midterm test, feedback, review	Preparation and review (1 hour)
9	Technology in daily life	Describing household appliances, Talking about yesterday's technology	Preparation and review (1 hour)
10	Social network	Describing social network terms, Talking about app stickers	Preparation and review (1 hour)
11	Looking on the bright side	Talking about the power of staying positive	Preparation and review (1 hour)
12	Love affairs	Talking about different kinds of relationships	Preparation and review (1 hour)
13	Storytelling	Introducing the origin and purpose of fables, Looking at a popular fable and learning from it	Preparation and review (1 hour)
14	The power of words	Talking about how to give compliments, Learning the wisdom of riddles	Preparation and review (1 hour)
15	In-class exam	In-class exam, feedback, review	Preparation and review (1 hour)

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	Participation 50% Assignments 10% Midterm test 20% In-class exam 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。
----	--

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
2	Past Experiences.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
3	Nature	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
4	The Environment	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
5	Abilities	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
6	Possibilities	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
7	Review.	Test, Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
8	Likes and Dislikes	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
9	Things to do.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
10	Rules	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
11	Laws	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
12	Stories.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
13	Tales	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
14	Test/ Review	Test Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
15	Test/ Review	Test/ Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, pair speaking tasks, cooperation, teamwork, and bearing. 80% Test(s) 20%.
-----------	---

学生への メッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Writing - Your Summer	How did you spend your summer?	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises - Summer Vacation	次回の単語テストの予習 テキスト Summer in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises - Family & Home	次回の単語テストの予習 テキスト Family Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises - Eating Out	次回の単語テストの予習 テキスト Restaurant Culture	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises - Work	次回の単語テストの予習 テキスト Part-time, Career	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	単語テスト Exercises - Marriage, Family Life	次回の単語テストの予習 テキスト Future Plans	Students should review the lessons in preparation of the midterm
7	Mid-term Test	Mid-term Test	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Test Review	Test Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	単語テスト Exercises - People	次回の単語テストの予習 テキスト Appearances	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	単語テスト Exercises - Sightseeing in Japan	テキスト Where to Visit in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Writing - Planning a Day Trip	次回の単語テストの予習 テキスト Travel in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	単語テスト Exercises - Holidays	次回の単語テストの予習 テキスト Japanese & North American Holidays Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises - Big Issues	テキスト Global Warming, Natural Disasters, etc.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises - Future Plans	単語テスト Exercises - Future Plans	Students should review the lessons
15	Final Test	Final Test	Students should review

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) Grading will be based on class participation (25%), weekly end of unit quizzes (25%), and term tests (50%).

学生へのメッセージ 興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	Receive course information Begin Self-Reflection Assignment 1	Review course information Purchase textbook Complete Self-Reflection Assignment 1 Preview unit vocabulary
2	Unit 4: Food Matters	Vocabulary focus	Listening Homework 1
3	Unit 4: Food Matters	Listening focus	Writing Assignment 1
4	Unit 4: Food Matters	Speaking focus	Study for Quiz 1
5	Quiz 1	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Preview unit vocabulary
6	Unit 5: More Than a Game	Vocabulary focus	Listening Homework 2
7	Unit 5: More Than a Game	Listening focus	Writing Assignment 2
8	Unit 5: More Than a Game	Speaking focus	Study for Quiz 2
9	Quiz 2	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Preview unit vocabulary
10	Unit 6: Everyday Entertainment	Vocabulary focus	Listening Homework 3
11	Unit 6: Everyday Entertainment	Listening focus	Writing Assignment 3
12	Unit 6: Everyday Entertainment	Speaking focus	Study for Quiz 3
13	Quiz 3	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Complete mini-presentation
14	Mini-presentations	Students present on chosen topics of interest in small groups	Complete Self-Reflection Assignment 2
15	Course Review and Wrap-up	Students reflect on and communicate about individual skills and course contents	Course reflection; make-up work

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reflect: Listening & Speaking Level 1	Cengage	Blass, Bygrave, Dummett, Fetting, Sherman, Va
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Quizzes (3) 30% Listening Homework (3) 15% Writing Assignments (3) 15% Mini-presentation (1) 15% Self-reflection (2) 10% Participation 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	Attending classes regularly and participating in class discussions will yield good results.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	バナム マシュー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	An overall look at the course, and review of Semester 1.	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	2	Unit 7: Past activities	Talk about a personal past experience	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	3	Unit 7: Past activities	Talk about a personal past experience	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	4	Unit 8: Nature	Talk about animals and nature	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	5	Unit 8: Nature	Talk about animals and nature	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	6	Unit 7 & 8 review	Review and speaking test	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	7	Unit 9: Abilities	Talk about abilities	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	8	Unit 9: Abilities	Talk about abilities	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	9	Unit 10: Likes and dislikes	Talk about things you like and dislike	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	10	Unit 10: Likes and dislikes	Talk about things you like and dislike	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	11	Unit 9 & 10 Review	Review and speaking test	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	12	Unit 12: Stories	Tell a story	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	13	Unit 12: Stories	Tell a story	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	14	Semester review	Review semester 1	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	15	Speaking test	Speaking and written test	Review the semester's material

関連科目	英語基礎会話 1
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand (5th Edition)	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class attendance & participation 50% Speaking tests 20% Final speaking and written test 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will be learning communication skills during this course so be ready to improve your skills. I'm looking forward to teaching you all!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	To build students' four skills in English - reading, writing, speaking and listening 英語の4技能(読む、書く、話す、聞く)を身につける
到達目標	Classes are conducted 100% in English. At the end of the course, students should be able to use conversational skills, have built up their reading skills, have improved their listening skills, and have taken notes in English to improve spelling and grammar. 授業は100%英語で行われます。コース終了時には、会話力を身につけることができます。読解力とリスニング力が向上します。また、メモを取ったり、英語で文章を書いたりすることで、スペルや文法も上達します。
授業方法と留意点	Each class will include pair work, group work, practice of dialogues in English, reading and discussion. Students will work towards making a presentation towards the end of the term to give them confidence in the skills they have learned. Students should be prepared to talk a lot. 各クラスでは、ペアワーク、グループワーク、英語での対話の練習、リーディング、ディスカッションを行います。学期末にはプレゼンテーションを行い、学習したスキルに自信を持てるようになります。学生はたくさん話すことを覚悟しておく必要があります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	What's happening in your life? ライフプラン	Talking about events in your life ライフプラン	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
3	What's Happening in your life ライフプラン	A New Zealander talking about life in New Zealand & an exchange program ニュージーランドでの生活	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
4	People 人々	Describing people you know 知っている人を描写する	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
5	People 人々	Describing people at a party パーティーでの人々の描写	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
6	Having Fun 楽しむこと	Future arrangements and plans 今後の対応と予定	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
7	Review on vocabulary and conversation covered in Units 7-9 ユニット7~9で学習した単語や会話の復習をする	This is your chance to review vocabulary and consolidate your learning. 語彙を確認し、学習を定着させるチャンスです	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
8	Vacation バケーション	Talking about a past vacation you remember 思い出のバケーションを語る	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
9	Vacation バケーション	Focusing on fun trips to do 楽しくできる旅を中心に	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
10	Life Stories ライフストーリー	Talking about your early memories 幼少期の思い出を語る	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
11	Life Stories ライフストーリー	Focusing on others' memories 他人の思い出を描写する	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
12	Hopes and Intentions 期待・意図	Talking about Hopes and Dreams for the future and what you will do after graduation 将来の希望や夢、卒業後の進路について語る	Reading & writing assignments リーディング&ライティング課題
13	Review on vocabulary and conversation covered in Units 10-12 ユニット10~12で学習した単語や会話の復習をする	Review quiz	Presentation preparation プレゼン準備
14	Preparing for Post-it presentations プレゼンテーションの準備	Students will prepare a Post-it presentation on one of the topics that we have covered in first term in more depth. これまでに取り上げたトピックのうち、1つについて発表	Presentation preparation プレゼン準備
15	Final presentations 最終発表会	Students will give their presentations. 学生によるプレゼンテーションを行う	

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	Macmillan Education
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	B5 Notebook for writing		
	2			

	3		
評価方法 (基準)	Evaluation: Attitude (30%) / Note-taking (20%) / 1 Presentation (20%) / 2 Reviews (20%) / Weekly quizzes (10%) * Attitude is a weekly score that includes being on time, prepared, talking 100% in English, enthusiastic in joining pair and group activities. 評		
学生への メッセージ	Don't be afraid to make mistakes. It is through making mistakes that you learn English. Everyone's level of English is different. Ask for help and support each other. In the future, English will help you to read about your field of study in English, travel, study abroad and understand the Internet world of English. Dream big!		
担当者の 研究室等	Amanda Taura, Building 7, 5th floor office 田浦アマダ研究室 7号館5階		
備考			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松本 裕也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	<ul style="list-style-type: none"> ・"Summer Vacation"をテーマに Speaking, または Activity ・前期に達成できたこと、できなかったことを振り返って、新しい目標を立てる。 	事前学習: ・夏休み中の出来事を英語で説明できるように準備しておく 事後学習 ・シラバスを熟読しておく
2	Unit 7: Personalities	<ul style="list-style-type: none"> ・「個性」をテーマに Speaking, または Activity ・「副詞」をテーマに文法学習 	事前学習: ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 64-67) 事後学習: ・Self-study journal に取り組む
3	Unit 7: Personalities	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・"Habits"をテーマに Speaking, または Activity ・「for」と"since"の使い分け」をテーマに文法学習 	事前学習: ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 68-71) ・単語テストへの準備 事後学習: ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
4	Unit 8: The environment	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・「環境問題」をテーマに Speaking, または Activity ・「量」をテーマに文法学習 	事前学習: ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 74-77) ・単語テストへの準備 事後学習: ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
5	Unit 8: The environment	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・"SDGs"をテーマに Speaking, または Activity ・"First conditional"をテーマに文法学習 	事前学習: ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 78-81) ・単語テストへの準備 事後学習: ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
6	Unit 9: Relationships	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・"Relationship"をテーマに Speaking, または Activity ・"to do" (不定詞)をテーマに文法学習 	事前学習: ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 84-87) ・単語テストへの準備 事後学習: ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
7	Unit 9: Relationships	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・"Friends"をテーマに Speaking, または Activity ・「推量を示す助動詞」をテーマに文法 	事前学習: ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 88-91) ・単語テストへの準備

		学習	事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
8	Review of Units 7-9 & Special topic	・復習テストを行い、Unit 7～9 の内容で理解できていない箇所を明確にする ・これまでの学習内容をグループで復習する	事前学習： ・これまで学んだ内容 (Unit 7～9) を復習する 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・復習テストの復習
9	Unit 10: Living your life	・単語テスト ・"Success"をテーマに Speaking, または Activity ・"-self"をテーマに文法学習	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 94-97) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
10	Unit 10: Living your life	・単語テスト ・"Effort"をテーマに Speaking, または Activity ・"Second conditional"をテーマに文法学習	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 98-101) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
11	Unit 11: Music	・単語テスト ・"Music"をテーマに Speaking, または Activity ・「過去形の受け身」をテーマに文法学習	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 104-107) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
12	Unit 11: Music	・単語テスト ・"Artists"をテーマに Speaking, または Activity ・"yet"&"already"をテーマに文法学習	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 108-111) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
13	Unit 12: On vacation	・単語テスト ・"Vacation"をテーマに Speaking, または Activity ・"Doing" (動名詞)をテーマに文法学習	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 114-117) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
14	Unit 12: On vacation	・単語テスト ・「秋学期」をテーマに Speaking, または Activity ・「義務を示す助動詞」をテーマに文法学習	事前学習： ・教科書内の分からない単語、文法事項は事前に調べておく、もしくは、質問できるように準備しておく (P. 118-121) ・単語テストへの準備 事後学習： ・Self-study journal に取り組む ・単語テストの復習
15	Review of Units 10-12 & Special topic	・復習テストを行い、Unit 10～12 の内容で理解できていない箇所を明確にする	事前学習： ・これまで学んだ内容 (Unit 10～12) を復習する 事後学習：

			・これまでの学習内容をグループで復習する	・Self-study journalに取り組む
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Four Corners Level 3 Student's Book with Online Self-Study	Jack C. Richards, David Bohlke	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト：10% ・復習テスト（2回）：20%×2=40% ・授業内外での課題への取り組み：50%（教員からの質問に積極的に回答する姿勢や授業への集中度、ペア・グループワークへの参加度、ノートやメモを取っているか、課題を提出しているか等） <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする（3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席）。 ・課題の提出が1週間遅れることに、付与される点数は、半減。 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの点数だけを基準に成績はつけません。アクティビティへの積極的な参加、講義に対する質問など、努力する姿勢が評価対象の中心です。 ・辞書（電子辞書可）を持ってきてください。 ・授業に関係のない行為（下記参照）は欠席、減点扱いの対象です。欠席や減点扱いとなった場合、成績の低下と単位取得の両方に影響します。 <p>① 私語など授業を妨害する行為は自動的に欠席とみなす。 ② 居眠り、携帯電話の使用は減点対象。 ③ 許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ④ ペアワーク、グループワークの際に、他学生に任せてアクティビティに参加していない場合は、減点対象、また忠告後に改善が見られない場合は、自動的に欠席とみなす。</p> <p>①から④が続く場合、単位を認めません。</p> <p>上記ルールは、努力して英語を習得しようとする学生に適切な学習環境を提供することが目的で、厳しい学習環境づくりがその目的ではありません。</p> <p>楽しい15週間を過ごしましょう。困ったときはいつでも遠慮なく相談してください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室（メールにて要予約）にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北川 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1:This is my first trip abroad.	・授業目的、進め方、成績評価方法、自己学習の方法などの説明 ・会話練習、文法学習、ListeningまたはReading 問題	事後：音読練習、練習問題
2	Unit2:Do you have anything to declare?	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
3	Unit3:How was your flight to Los Angeles?	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
4	Unit4:Are still feeling tired?	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
5	Unit5:What are we going to do in the afternoon?	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
6	Unit6:It's called Mountain Grove.	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
7	中間テスト	Unit1-6 確認テスト、解説、Listening または Reading 問題	事前：中間テストの準備
8	Unit7:How would you like your steak?	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
9	Unit8:How long have you felt this way?	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
10	Unit9:I think I'm lost.	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
11	Unit10:Do you want me to take your picture?	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
12	Unit11:I've lost my phone.	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
13	Unit12:I love roller coasters!	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
14	Unit14:I'd like to pay by credit card.	・小テスト ・会話練習、文法学習、Listening または Reading 問題	事前：小テストの準備、語彙予習 事後：音読練習、練習問題
15	まとめテスト	Unit7-14(Unit13 は除く)確認テスト、解説、Listening または Reading 問題	事前：まとめテストの準備

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English: Going Abroad	角山 照彦 / Simon Capper / 遠藤 利昌	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト：10% 中間・まとめテスト：30% 授業への取り組み(課題、投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など)：60%
-----------	--

	(3回を超える欠席は単位不可とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。)
学生への メッセージ	間違いを恐れずに積極的に発言できるクラスづくりを目指していきたいと思います。ペアワークやグループワークではみなさん一人ひとりの姿勢がパートナーに影響を与えます。誰かがやってくれるという受け身ではなく、自ら学ぶ姿勢で参加してください。テキストに出てくる会話をしっかり練習して英語を聞く・話すことに慣れてほしいです。 *紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。 *授業内容は進度によって変更する場合があります。その場合は事前に授業内でお知らせします。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	バナム マシュー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	An overall look at the course, and review of Semester 1.	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	2	Unit 7: Past activities	Talk about a personal past experience	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	3	Unit 7: Past activities	Talk about a personal past experience	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	4	Unit 8: Nature	Talk about animals and nature	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	5	Unit 8: Nature	Talk about animals and nature	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	6	Unit 7 & 8 review	Review and speaking test	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	7	Unit 9: Abilities	Talk about abilities	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	8	Unit 9: Abilities	Talk about abilities	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	9	Unit 10: Likes and dislikes	Talk about things you like and dislike	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	10	Unit 10: Likes and dislikes	Talk about things you like and dislike	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	11	Unit 9 & 10 Review	Review and speaking test	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	12	Unit 12: Stories	Tell a story	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	13	Unit 12: Stories	Tell a story	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	14	Semester review	Review semester 1	Review the previous lesson's material and prepare for the following lesson
	15	Speaking test	Speaking and written test	Review the semester's material

関連科目	英語基礎会話 1
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand (5th Edition)	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class attendance & participation 50% Speaking tests 20% Final speaking and written test 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will be learning communication skills during this course so be ready to improve your skills. I'm looking forward to teaching you all!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	Receive course information Begin Self-Reflection Assignment 1	Review course information Purchase textbook Complete Self-Reflection Assignment 1 Preview unit vocabulary
2	Unit 4: Food Matters	Vocabulary focus	Listening Homework 1
3	Unit 4: Food Matters	Listening focus	Writing Assignment 1
4	Unit 4: Food Matters	Speaking focus	Study for Quiz 1
5	Quiz 1	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Preview unit vocabulary
6	Unit 5: More Than a Game	Vocabulary focus	Listening Homework 2
7	Unit 5: More Than a Game	Listening focus	Writing Assignment 2
8	Unit 5: More Than a Game	Speaking focus	Study for Quiz 2
9	Quiz 2	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Preview unit vocabulary
10	Unit 6: Everyday Entertainment	Vocabulary focus	Listening Homework 3
11	Unit 6: Everyday Entertainment	Listening focus	Writing Assignment 3
12	Unit 6: Everyday Entertainment	Speaking focus	Study for Quiz 3
13	Quiz 3	Take a quiz on unit vocabulary, listening, speaking, and writing	Complete mini-presentation
14	Mini-presentations	Students present on chosen topics of interest in small groups	Complete Self-Reflection Assignment 2
15	Course Review and Wrap-up	Students reflect on and communicate about individual skills and course contents	Course reflection; make-up work

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reflect: Listening & Speaking Level 1	Cengage	Blass, Bygrave, Dummett, Fetting, Sherman, Va
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	Quizzes (3) 30% Listening Homework (3) 15% Writing Assignments (3) 15% Mini-presentation (1) 15% Self-reflection (2) 10% Participation 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	Attending classes regularly and participating in class discussions will yield good results.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
2	Past Experiences.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
3	Nature	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
4	The Environment	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
5	Abilities	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
6	Possibilities	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
7	Review.	Test, Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
8	Likes and Dislikes	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
9	Things to do.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
10	Rules	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
11	Laws	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
12	Stories.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
13	Tales	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
14	Test/ Review	Test Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
15	Test/ Review	Test/ Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, pair speaking tasks, cooperation, teamwork, and bearing. 80% Test(s) 20%.
-----------	---

学生への メッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Occupations	Talking about different occupations	Preparation and review (1 hour)
3	At the dinner table	Practicing menu-related vocabulary and how to order a meal in a restaurant, Introducing a restaurant review	Preparation and review (1 hour)
4	Sports	Talking about sports, Introducing themed races	Preparation and review (1 hour)
5	Health	Discussing symptoms of illness, Talking about health threats caused by electronic devices	Preparation and review (1 hour)
6	What's on your playlist	Talking about types of music and musical performers, Talking about guitar	Preparation and review (1 hour)
7	At the movies	Discussing different kinds of movies, Talking about how horror movies attract and help us	Preparation and review (1 hour)
8	Midterm test	In-class midterm test, feedback, review	Preparation and review (1 hour)
9	Technology in daily life	Describing household appliances, Talking about yesterday's technology	Preparation and review (1 hour)
10	Social network	Describing social network terms, Talking about app stickers	Preparation and review (1 hour)
11	Looking on the bright side	Talking about the power of staying positive	Preparation and review (1 hour)
12	Love affairs	Talking about different kinds of relationships	Preparation and review (1 hour)
13	Storytelling	Introducing the origin and purpose of fables, Looking at a popular fable and learning from it	Preparation and review (1 hour)
14	The power of words	Talking about how to give compliments, Learning the wisdom of riddles	Preparation and review (1 hour)
15	In-class exam	In-class exam, feedback, review	Preparation and review (1 hour)

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	Participation 50% Assignments 10% Midterm test 20% In-class exam 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。
----	--

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 教科書を用意して受講すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第1回～第3回の内容の復習を行うこと（1時間）
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	フィードバック	課題1のフィードバック	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第5回～第10回の復習を行うこと（1時間）
12	レポートの書き方	レポートの体裁や作成の注意点について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
13	フィードバック	課題2のフィードバック	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1時間）
15	レポートの講評	レポートについて講評する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼応状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートや論文などで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、適切な文章表現を学びましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。			

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入、授業の概要 教科書「第1回：文章の書き方1」	文章を書くことと日本語表現を学ぶことについて レポート・論文の基本事項 適切な文章表現	【事前学習】 教科書「はじめに：文章で伝える」を読む 【事後学習】 教科書「第1回：文章の書き方1」を読み、練習問題に取り組む
2	教科書「第2回：文章の書き方2」	わかりやすい文章の書き方 有効な文章表現	【事前学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読む 【事後学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読み、練習問題に取り組む
3	教科書「第3回：事実と意見」	事実と意見の書き分け 事実と意見の関係、事実と意見を文章として表現すること	【事前学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読む 【事後学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読み、練習問題に取り組む
4	教科書「第4回：課題① 説明文」	必要なことをわかりやすく説明する 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書第4回：「課題① 説明文」を読む 課題①のための資料を整理し理解を深める
5	課題①のフィードバック	課題①の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題①の文章を見直し、適切な文章表現について考える
6	教科書「第5回：構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ 文章構成の意味と役割	【事前学習】 教科書「第5回：構成」を読む 【事後学習】 教科書「第5回：構成」を読み、練習問題に取り組む
7	教科書「第6回：要約」	要旨の要約の作成方法を知る 要約するための考え方	【事前学習】 教科書「第6回：要約」を読む 【事後学習】 教科書「第6回：要約」を読み、練習問題に取り組む
8	教科書「第7回：文章を引用する」 教科書「第8回：図表を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ 図表を引用する方法を学ぶ 引用することの意味と役割 資料を参照することと客観性	【事前学習】 教科書「第7回：文章を引用する」および「第8回：図表を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第7回：文章を引用する」および「第8回：図表を引用する」を読み、練習問題に取り組む
9	教科書「第9回：意見を述べる」	考察に基づいて意見を述べる 考えを伝えるための文章表現	【事前学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読む 【事後学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読み、練習問題に取り組む
10	教科書「第10回：課題② 論説文」	資料を引用して意見を述べる 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書「第10回：課題② 論説文」を読む 課題②のための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
11	課題②のフィードバック	課題②の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題②の文章を見直し、適切な文章表現について考える
12	教科書「第11回：レポートの書き方1」	レポートの体裁について学ぶ 文章と体裁と形式の意味と役割	【事前学習】 教科書「第11回：レポートの書き方1」を読む
13	教科書「第12回：レポートの書き方2」	レポート作成の注意点を伝える 分析・考察の目的と方法を意識する レポート課題の提示と説明	【事前学習】 教科書「第12回：レポートの書き方2」を読む
14	レポートの作成	レポートを作成と提出	【事前学習】 レポートのための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
15	レポートのフィードバック 授業全体のまとめ	レポートの見直しと反省 これまでの授業内容の復習 適切な文章を書くための要点	【事後学習】 フィードバックを踏まえてレポートの文章を見直し、適切な文章表現について考える

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業態度(呼应状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。</p> <p>課題・レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> <p>課題・レポートは手書きとし、適切な漢字の使用、誤字の有無等も評価基準に含める。</p> <p>課題・レポートの評価が合格に満たない場合、再提出とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、日本語の文章表現を学ぶことが目的です。</p> <p>しかし、文章表現は、単に文字を連ね記すことに留まらず、自身の考えを形成し表現するものでもあります。</p> <p>普段から用いている日本語について、あらためてその文章表現への理解を深めることは、思考の幅を広げ整理する能力を身につけることにつながっています。</p> <p>大学での学術的な活動や卒業後の社会で求められる言語能力として、日常的なコミュニケーションツールである会話表現とは異なる、自身の考えを論理的に組み立て他者に説得的に伝える文章表現を学んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前事後学習の総時間の目安は15時間、授業各回につき前後の予習復習を含めた1時間程度の自習を求める。</p> <p>課題・レポートのフィードバックは個別の添削と授業中のコメントで行なう。</p> <p>教科書のほか適宜に資料等を配布する。</p> <p>授業計画は授業の進行状況によって変更する場合があります。</p>			

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 教科書を用意して受講すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第1回～第3回の内容の復習を行うこと（1時間）
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	フィードバック	課題1のフィードバック	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第5回～第10回の復習を行うこと（1時間）
12	レポートの書き方	レポートの体裁や作成の注意点について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
13	フィードバック	課題2のフィードバック	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1時間）
15	レポートの講評	レポートについて講評する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼応状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートや論文などで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、適切な文章表現を学びましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。			

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入、授業の概要 教科書「第1回：文章の書き方1」	文章を書くことと日本語表現を学ぶことについて レポート・論文の基本事項 適切な文章表現	【事前学習】 教科書「はじめに：文章で伝える」を読む 【事後学習】 教科書「第1回：文章の書き方1」を読み、練習問題に取り組む
2	教科書「第2回：文章の書き方2」	わかりやすい文章の書き方 有効な文章表現	【事前学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読む 【事後学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読み、練習問題に取り組む
3	教科書「第3回：事実と意見」	事実と意見の書き分け 事実と意見の関係、事実と意見を文章として表現すること	【事前学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読む 【事後学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読み、練習問題に取り組む
4	教科書「第4回：課題① 説明文」	必要なことをわかりやすく説明する 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書第4回：「課題① 説明文」を読む 課題①のための資料を整理し理解を深める
5	課題①のフィードバック	課題①の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題①の文章を見直し、適切な文章表現について考える
6	教科書「第5回：構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ 文章構成の意味と役割	【事前学習】 教科書「第5回：構成」を読む 【事後学習】 教科書「第5回：構成」を読み、練習問題に取り組む
7	教科書「第6回：要約」	要旨の要約の作成方法を知る 要約するための考え方	【事前学習】 教科書「第6回：要約」を読む 【事後学習】 教科書「第6回：要約」を読み、練習問題に取り組む
8	教科書「第7回：文章を引用する」 教科書「第8回：図表を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ 図表を引用する方法を学ぶ 引用することの意味と役割 資料を参照することと客観性	【事前学習】 教科書「第7回：文章を引用する」および「第8回：図表を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第7回：文章を引用する」および「第8回：図表を引用する」を読み、練習問題に取り組む
9	教科書「第9回：意見を述べる」	考察に基づいて意見を述べる 考えを伝えるための文章表現	【事前学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読む 【事後学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読み、練習問題に取り組む
10	教科書「第10回：課題② 論説文」	資料を引用して意見を述べる 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書「第10回：課題② 論説文」を読む 課題②のための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
11	課題②のフィードバック	課題②の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題②の文章を見直し、適切な文章表現について考える
12	教科書「第11回：レポートの書き方1」	レポートの体裁について学ぶ 文章と体裁と形式の意味と役割	【事前学習】 教科書「第11回：レポートの書き方1」を読む
13	教科書「第12回：レポートの書き方2」	レポート作成の注意点を教える 分析・考察の目的と方法を意識する レポート課題の提示と説明	【事前学習】 教科書「第12回：レポートの書き方2」を読む
14	レポートの作成	レポートを作成と提出	【事前学習】 レポートのための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
15	レポートのフィードバック 授業全体のまとめ	レポートの見直しと反省 これまでの授業内容の復習 適切な文章を書くための要点	【事後学習】 フィードバックを踏まえてレポートの文章を見直し、適切な文章表現について考える

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業態度(呼应状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。</p> <p>課題・レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> <p>課題・レポートは手書きとし、適切な漢字の使用、誤字の有無等も評価基準に含める。</p> <p>課題・レポートの評価が合格に満たない場合、再提出とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、日本語の文章表現を学ぶことが目的です。</p> <p>しかし、文章表現は、単に文字を連ね記すことに留まらず、自身の考えを形成し表現するものでもあります。</p> <p>普段から用いている日本語について、あらためてその文章表現への理解を深めることは、思考の幅を広げ整理する能力を身につけることにつながっています。</p> <p>大学での学術的な活動や卒業後の社会で求められる言語能力として、日常的なコミュニケーションツールである会話表現とは異なる、自身の考えを論理的に組み立て他者に説得的に伝える文章表現を学んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前事後学習の総時間の目安は15時間、授業各回につき前後の予習復習を含めた1時間程度の自習を求める。</p> <p>課題・レポートのフィードバックは個別の添削と授業中のコメントで行なう。</p> <p>教科書のほか適宜に資料等を配布する。</p> <p>授業計画は授業の進行状況によって変更する場合がある。</p>			

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Expression
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1329a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス レポートの書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポートの書き方の復習	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
2	レポートの書き方2	資料引用の復習	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	【課題1】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：これまでの内容の復習を行うこと（1時間）
4	フィードバック ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッションについての説明	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：ディスカッションにむけて下調べをしておくこと（30分）
5	ディスカッション	グループでディスカッションを行う	事前学習課題：ディスカッションにむけて下調べをしておくこと（1時間）
6	【課題2】議事録	ディスカッションの内容を文章にまとめる	事前学習課題：ディスカッションの内容を復習すること（1時間）
7	フィードバック プレゼンテーションの準備	課題2のフィードバック プレゼンテーションについての説明	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分）
8	レジュメの書き方	レジュメの書き方を学ぶ	事前学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	資料作成	プレゼンテーションの資料作成を行う	事前学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分）
10	プレゼンテーション1	グループによる発表・質疑を行う	事前学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（30分）
11	プレゼンテーション2	グループによる発表・質疑を行う	事前学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（30分）
12	【課題3】報告文	発表した内容を文章にまとめる	事前学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（1時間）
13	フィードバック	課題3のフィードバック	事前学習課題：課題3を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
14	手紙・メールの書き方	手紙やメールの書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
15	資料収集の方法	文献の探索について学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業態度(呼応状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	前期「日本語基礎」の内容を踏まえつつ、グループワークを通して日本語の表現力を深めましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。		

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Expression
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1329a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。 漢字等の日本語語彙に関する小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入、授業の概要	授業の目的・内容の説明 ディスカッションとプレゼンテーションについて	【事前・事後学習】 前期の復習として、教科書『大学生の日本語表現』や配布資料、課題、レポートを確認する
2	レポートの書き方1 (前期の復習)	引用することの意味と役割 資料を参照することと客観性	【事前・事後学習】 前期の復習として、教科書『大学生の日本語表現』や配布資料、課題、レポートを確認する
3	レポートの書き方2 (前期の復習)	考えを伝えるための文章表現 文章の訂正と形式の意味と役割	【事前・事後学習】 前期の復習として、教科書『大学生の日本語表現』や配布資料、課題、レポートを確認する
4	課題①レポートの作成	レポートの作成と提出 小テスト1	【事前学習】 レポートのための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
5	課題①のフィードバック	分析・考察の目的と方法を意識する 適切な文章を書くための要点 小テスト2	【事後学習】 フィードバックを踏まえてレポートの文章を見直し、適切な文章表現について考える
6	教科書「第14回：手紙の書き方」、および敬語表現について	手紙の約束事を知る 敬語表現の意味と用法 小テスト3	【事前学習】 教科書「第14回：手紙の書き方」を読み、理解を深める 【事後学習】 敬語表現についての練習問題に取り組む
7	ディスカッション1	グループディスカッションの説明 ディスカッション報告文の説明 設定されたテーマについての資料を整理し理解を深め考えをまとめる 小テスト4	【事後学習】 ディスカッションの事前準備として資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
8	ディスカッション2	グループを分けとディスカッションを実施 小テスト5	【事前学習】 ディスカッションの事前準備として資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
9	課題② ディスカッション報告文の作成	ディスカッション報告文の作成と提出 小テスト6	【事前学習】 ディスカッション報告文を作成するための資料・記録を整理し自身の考えをまとめる
10	課題②のフィードバック	ディスカッション報告文についての確認 議論の経過と結論 小テスト7	【事後学習】 ディスカッションとフィードバックを踏まえてプレゼンテーションのために理解を深め自身の考えをまとめる
11	プレゼンテーション準備	各人で作成したプレゼンテーション用レジュメをグループ内で照らし合わせ、グループとしてのプレゼンテーション用レジュメを作成する	【事後学習】 プレゼンテーションのためのレジュメを作成する
12	プレゼンテーション1	グループ毎にプレゼンテーションを行なう	【事前学習】 プレゼンテーションの準備を行なう
13	プレゼンテーション2	グループ毎にプレゼンテーションを行なう	【事後学習】 自グループだけではなく他のグループのプレゼンテーションも踏まえ、適切なプレゼンテーションについて考える
14	課題③ プレゼンテーション報告文の作成	プレゼンテーション報告文の作成と提出	【事前学習】 プレゼンテーション報告文を作成するための資料・記録を整理し自身の考えをまとめる
15	課題③のフィードバック 授業全体のまとめ	プレゼンテーション報告文の確認 適切な文章と報告の作成	【事後学習】 フィードバックを踏まえてプレゼンテーション報告文を見直し、適切な文章表現について考える

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼応状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題・レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 課題・レポートは手書きとし、適切な漢字の使用、誤字の有無等も評価基準に含める。 課題・レポートの評価が合格に満たない場合、再提出とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、日本語の文章表現を学ぶことが目的です。 しかし、文章表現は、単に文字を連ね記すことに留まらず、自身の考えを形成し表現するものでもあります。 普段から用いている日本語について、あらためてその文章表現への理解を深めることは、思考の幅を広げ整理する能力を身につけることにつながっています。 大学での学術的な活動や卒業後の社会で求められる言語能力として、日常的なコミュニケーションツールである会話表現とは異なる、自身の考えを論理的に組み立て他者に説得的に伝える文章表現を学んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	<p>事前事後学習の総時間の目安は 15 時間、授業各回につき前後の予習復習を含めた 1 時間程度の自習を求める。 課題・レポートのフィードバックは個別の添削と授業中のコメントで行なう。 教科書のほか適宜に資料等を配布する。 授業計画は授業の進行状況によって変更する場合があります。</p>			

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Expression
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1329a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス レポートの書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポートの書き方の復習	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
2	レポートの書き方2	資料引用の復習	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	【課題1】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：これまでの内容の復習を行うこと（1時間）
4	フィードバック ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッションについての説明	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：ディスカッションにむけて下調べをしておくこと（30分）
5	ディスカッション	グループでディスカッションを行う	事前学習課題：ディスカッションにむけて下調べをしておくこと（1時間）
6	【課題2】議事録	ディスカッションの内容を文章にまとめる	事前学習課題：ディスカッションの内容を復習すること（1時間）
7	フィードバック プレゼンテーションの準備	課題2のフィードバック プレゼンテーションについての説明	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分）
8	レジュメの書き方	レジュメの書き方を学ぶ	事前学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	資料作成	プレゼンテーションの資料作成を行う	事前学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分）
10	プレゼンテーション1	グループによる発表・質疑を行う	事前学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（30分）
11	プレゼンテーション2	グループによる発表・質疑を行う	事前学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（30分）
12	【課題3】報告文	発表した内容を文章にまとめる	事前学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（1時間）
13	フィードバック	課題3のフィードバック	事前学習課題：課題3を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
14	手紙・メールの書き方	手紙やメールの書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
15	資料収集の方法	文献の探索について学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業態度(呼応状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	前期「日本語基礎」の内容を踏まえつつ、グループワークを通して日本語の表現力を深めましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。		

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Expression
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1329a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。 漢字等の日本語語彙に関する小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入、授業の概要	授業の目的・内容の説明 ディスカッションとプレゼンテーションについて	【事前・事後学習】 前期の復習として、教科書『大学生の日本語表現』や配布資料、課題、レポートを確認する
2	レポートの書き方1 (前期の復習)	引用することの意味と役割 資料を参照することと客観性	【事前・事後学習】 前期の復習として、教科書『大学生の日本語表現』や配布資料、課題、レポートを確認する
3	レポートの書き方2 (前期の復習)	考えを伝えるための文章表現 文章の訂正と形式の意味と役割	【事前・事後学習】 前期の復習として、教科書『大学生の日本語表現』や配布資料、課題、レポートを確認する
4	課題①レポートの作成	レポートの作成と提出 小テスト1	【事前学習】 レポートのための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
5	課題①のフィードバック	分析・考察の目的と方法を意識する 適切な文章を書くための要点 小テスト2	【事後学習】 フィードバックを踏まえてレポートの文章を見直し、適切な文章表現について考える
6	教科書「第14回：手紙の書き方」、および敬語表現について	手紙の約束事を知る 敬語表現の意味と用法 小テスト3	【事前学習】 教科書「第14回：手紙の書き方」を読み、理解を深める 【事後学習】 敬語表現についての練習問題に取り組む
7	ディスカッション1	グループディスカッションの説明 ディスカッション報告文の説明 設定されたテーマについての資料を整理し理解を深め考えをまとめる 小テスト4	【事後学習】 ディスカッションの事前準備として資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
8	ディスカッション2	グループを分けとディスカッションを実施 小テスト5	【事前学習】 ディスカッションの事前準備として資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
9	課題②ディスカッション報告文の作成	ディスカッション報告文の作成と提出 小テスト6	【事前学習】 ディスカッション報告文を作成するための資料・記録を整理し自身の考えをまとめる
10	課題②のフィードバック	ディスカッション報告文についての確認 議論の経過と結論 小テスト7	【事後学習】 ディスカッションとフィードバックを踏まえてプレゼンテーションのために理解を深め自身の考えをまとめる
11	プレゼンテーション準備	各人で作成したプレゼンテーション用レジュメをグループ内で照らし合わせ、グループとしてのプレゼンテーション用レジュメを作成する	【事後学習】 プレゼンテーションのためのレジュメを作成する
12	プレゼンテーション1	グループ毎にプレゼンテーションを行なう	【事前学習】 プレゼンテーションの準備を行なう
13	プレゼンテーション2	グループ毎にプレゼンテーションを行なう	【事後学習】 自グループだけではなく他のグループのプレゼンテーションも踏まえ、適切なプレゼンテーションについて考える
14	課題③プレゼンテーション報告文の作成	プレゼンテーション報告文の作成と提出	【事前学習】 プレゼンテーション報告文を作成するための資料・記録を整理し自身の考えをまとめる
15	課題③のフィードバック 授業全体のまとめ	プレゼンテーション報告文の確認 適切な文章と報告の作成	【事後学習】 フィードバックを踏まえてプレゼンテーション報告文を見直し、適切な文章表現について考える

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼応状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。</p> <p>課題・レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> <p>課題・レポートは手書きとし、適切な漢字の使用、誤字の有無等も評価基準に含める。</p> <p>課題・レポートの評価が合格に満たない場合、再提出とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、日本語の文章表現を学ぶことが目的です。</p> <p>しかし、文章表現は、単に文字を連ね記すことに留まらず、自身の考えを形成し表現するものでもあります。</p> <p>普段から用いている日本語について、あらためてその文章表現への理解を深めることは、思考の幅を広げ整理する能力を身につけることにつながっています。</p> <p>大学での学術的な活動や卒業後の社会で求められる言語能力として、日常的なコミュニケーションツールである会話表現とは異なる、自身の考えを論理的に組み立て他者に説得的に伝える文章表現を学んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前事後学習の総時間の目安は 15 時間、授業各回につき前後の予習復習を含めた 1 時間程度の自習を求める。</p> <p>課題・レポートのフィードバックは個別の添削と授業中のコメントで行なう。</p> <p>教科書のほか適宜に資料等を配布する。</p> <p>授業計画は授業の進行状況によって変更する場合があります。</p>			

科目名	データサイエンス基礎	科目名 (英文)	Basic Data Science
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	新居 英志, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1330a1		

授業概要・目的	実世界ではさまざまな種類のデータが利用されている。これらを有効に使用することによりビジネスチャンスが生まれる。データの種類や利用される領域においてそれらの処理方法が異なることから、さまざまな事例を通して適切にデータを扱い、処理する方法を学び、データの活用およびAI技術を用いた処理の可能性を理解する。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できるとともに、基本的な扱い方が分かるようになること。
授業方法と留意点	基本的には、オンデマンドの受講が進めます。しかしながら他の講義と同様に、週ごとの視聴やレポート提出は必要ですから、計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	データの基本的な処理方法をしることにより、基本情報処理技術者の基礎のひとつとして資格を目指す。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	データサイエンスとは	データサイエンスとは データサイエンスが重要視される背景 データ活用を支援するデジタル技術のキーワード	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	2	社会で起きている変化	日本企業の国際競争力低下 市場の大きな変化 デジタル技術の発展 デジタル社会の提言	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	3	社会で活用されているデータ	統計データ 人の行動ログデータ 機械の稼働ログデータ データの分類 オープンデータ	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	4	データ・AI の活用領域	AI の定義 AI の歴史 業種別の AI 活用領域 人間に近づく AI	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	5	データ・AI 利活用のための技術	データ・AI 利活用技術の枠組み データ認識技術 AI 技術 AI の課題、AI の難問 AI が社会にもたらす影響	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	6	データ活用とは	データの定義 データ活用のモデル データ分析のアプローチ データ分析においてより大きな価値を生む領域	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	7	データ・AI 利活用の現場	製造業のデータ・AI 活用 小売業のデータ・AI 活用 サービス業のデータ・AI 活用 公共・インフラ業のデータ・AI 活用 データ・AI 活用による新しいビジネス領域	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	8	データ・AI 利活用の最新動向	データ・AI を活用した新しいビジネス データ・AI に関連した新技術 新ビジネスがなぜ小さな企業から生まれやすいのか	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	9	データを読む (1)	データの種類 データの代表値① ～計算的代表値～ 演習：相乗平均、調和平均 データの代表値② ～位置的代表値～ 演習：データの代表値 データのばらつき 演習：データのばらつき データのチェック	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	10	データを読む (2)	相関と因果 演習：相関関係、アンスコムスの例 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	11	データを説明する	グラフをつくる データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ 演習：グラフをつくる データの比較 適切なグラフ表現 優れたデータ可視化事例	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
	12	データを扱う	演習 1 「売り上げを予測する」 演習 2 「顧客層を分析する」 演習 3 「顧客満足度を把握する」 演習 4 「顧客不満の要因を探る」	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
13	データ・AI を扱う上での留意点	「ELSI」とは何か	事前： 動画視聴、確認テスト	

		意事項 (1)	データに関する不正行為 個人情報の保護 個人情報は誰が管理すべきか	事後： 課題の完成、レポートの作成																
	14	データ・AI を扱う上での留意事項 (2)	バイアスとは データ収集におけるバイアス データ・AI を扱う上でのバイアス AI の正しい活用に向けて	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成																
	15	データを守る上での留意事項とまとめ	情報セキュリティ 従業員等による内部不正 コンピュータウイルスへの感染 サイバー攻撃 情報セキュリティ脅威事例 セキュリティ技術 まとめ	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成																
関連科目	情報リテラシー																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率 (40%)、授業レポート (20%)、確認テスト (20%)、理解度テスト (20%)																			
学生へのメッセージ	計画的にオンデマンドで視聴してテストや課題をこなしてください。																			
担当者の研究室等	7号館5階																			
備考																				

科目名	データサイエンス基礎	科目名 (英文)	Basic Data Science
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	新居 英志, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1330a1		

授業概要・目的	実世界ではさまざまな種類のデータが利用されている。これらをも有効に使用することによりビジネスチャンスが生まれる。データの種類や利用される領域においてそれらの処理方法が異なることから、さまざまな事例を通して適切にデータを扱い、処理する方法を学び、データの活用およびAI技術を用いた処理の可能性を理解する。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できるとともに、基本的な扱い方が分かるようになること。
授業方法と留意点	基本的には、オンデマンドの受講が進めます。しかしながら他の講義と同様に、週ごとの視聴やレポート提出は必要ですから、計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	データの基本的な処理方法をしることにより、基本情報処理技術者の基礎のひとつとして資格を目指す。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	データサイエンスとは	データサイエンスとは データサイエンスが重要視される背景 データ活用を支援するデジタル技術のキーワード	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	2	社会で起きている変化	日本企業の国際競争力低下 市場の大きな変化 デジタル技術の発展 デジタル社会の提言	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	3	社会で活用されているデータ	統計データ 人の行動ログデータ 機械の稼働ログデータ データの分類 オープンデータ	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	4	データ・AIの活用領域	AIの定義 AIの歴史 業種別のAI活用領域 人間に近づくAI	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	5	データ・AI利活用のための技術	データ・AI利活用技術の枠組み データ認識技術 AI技術 AIの課題、AIの難問 AIが社会にもたらす影響	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	6	データ活用とは	データの定義 データ活用のモデル データ分析のアプローチ データ分析においてより大きな価値を生む領域	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	7	データ・AI利活用の現場	製造業のデータ・AI活用 小売業のデータ・AI活用 サービス業のデータ・AI活用 公共・インフラ業のデータ・AI活用 データ・AI活用による新しいビジネス領域	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	8	データ・AI利活用の最新動向	データ・AIを活用した新しいビジネス データ・AIに関連した新技術 新ビジネスがなぜ小さな企業から生まれやすいのか	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	9	データを読む (1)	データの種類 データの代表値①～計算的代表値～ 演習: 相乗平均、調和平均 データの代表値②～位置的代表値～ 演習: データの代表値 データのばらつき 演習: データのばらつき データのチェック	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	10	データを読む (2)	相関と因果 演習: 相関関係、アンスコム例 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	11	データを説明する	グラフをつくる データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ 演習: グラフをつくる データの比較 適切なグラフ表現 優れたデータ可視化事例	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
	12	データを扱う	演習1「売り上げを予測する」 演習2「顧客層を分析する」 演習3「顧客満足度を把握する」 演習4「顧客不満の要因を探る」	事前: 動画視聴、確認テスト 事後: 課題の完成、レポートの作成
13	データ・AIを扱う上での留意点	「ELSI」とは何か	事前: 動画視聴、確認テスト	

		意事項 (1)	データに関する不正行為 個人情報の保護 個人情報は誰が管理すべきか	事後： 課題の完成、レポートの作成																
	14	データ・AI を扱う上での留意事項 (2)	バイアスとは データ収集におけるバイアス データ・AI を扱う上でのバイアス AI の正しい活用に向けて	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成																
	15	データを守る上での留意事項とまとめ	情報セキュリティ 従業員等による内部不正 コンピュータウイルスへの感染 サイバー攻撃 情報セキュリティ脅威事例 セキュリティ技術 まとめ	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成																
関連科目	情報リテラシー																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率 (40%)、授業レポート (20%)、確認テスト (20%)、理解度テスト (20%)																			
学生へのメッセージ	計画的にオンデマンドで視聴してテストや課題をこなしてください。																			
担当者の研究室等	7号館5階																			
備考																				

科目名	データサイエンス基礎	科目名 (英文)	Basic Data Science
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	新居 英志, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1330a1		

授業概要・目的	実世界ではさまざまな種類のデータが利用されている。これらをも有効に使用することによりビジネスチャンスが生まれる。データの種類や利用される領域においてそれらの処理方法が異なることから、さまざまな事例を通して適切にデータを扱い、処理する方法を学び、データの活用およびAI技術を用いた処理の可能性を理解する。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できるとともに、基本的な扱い方が分かるようになること。
授業方法と留意点	基本的には、オンデマンドの受講が進めます。しかしながら他の講義と同様に、週ごとの視聴やレポート提出は必要ですから、計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	データの基本的な処理方法をしることにより、基本情報処理技術者の基礎のひとつとして資格を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスとは	データサイエンスとは データサイエンスが重要視される背景 データ活用を支援するデジタル技術のキーワード	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
2	社会で起きている変化	日本企業の国際競争力低下 市場の大きな変化 デジタル技術の発展 デジタル社会の提言	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
3	社会で活用されているデータ	統計データ 人の行動ログデータ 機械の稼働ログデータ データの分類 オープンデータ	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
4	データ・AI の活用領域	AI の定義 AI の歴史 業種別の AI 活用領域 人間に近づく AI	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
5	データ・AI 利活用のための技術	データ・AI 利活用技術の枠組み データ認識技術 AI 技術 AI の課題、AI の難問 AI が社会にもたらす影響	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
6	データ活用とは	データの定義 データ活用のモデル データ分析のアプローチ データ分析においてより大きな価値を生む領域	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
7	データ・AI 利活用の現場	製造業のデータ・AI 活用 小売業のデータ・AI 活用 サービス業のデータ・AI 活用 公共・インフラ業のデータ・AI 活用 データ・AI 活用による新しいビジネス領域	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
8	データ・AI 利活用の最新動向	データ・AI を活用した新しいビジネス データ・AI に関連した新技術 新ビジネスがなぜ小さな企業から生まれやすいのか	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
9	データを読む (1)	データの種類 データの代表値① ～計算的代表値～ 演習：相乗平均、調和平均 データの代表値② ～位置的代表値～ 演習：データの代表値 データのばらつき 演習：データのばらつき データのチェック	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
10	データを読む (2)	相関と因果 演習：相関関係、アンスコム の例 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
11	データを説明する	グラフをつくる データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ 演習：グラフをつくる データの比較 適切なグラフ表現 優れたデータ可視化事例	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
12	データを扱う	演習 1 「売り上げを予測する」 演習 2 「顧客層を分析する」 演習 3 「顧客満足度を把握する」 演習 4 「顧客不満の要因を探る」	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成
13	データ・AI を扱う上での留意点	「ELSI」とは何か	事前： 動画視聴、確認テスト

		意事項 (1)	データに関する不正行為 個人情報の保護 個人情報は誰が管理すべきか	事後： 課題の完成、レポートの作成																
	14	データ・AI を扱う上での留意事項 (2)	バイアスとは データ収集におけるバイアス データ・AI を扱う上でのバイアス AI の正しい活用に向けて	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成																
	15	データを守る上での留意事項とまとめ	情報セキュリティ 従業員等による内部不正 コンピュータウイルスへの感染 サイバー攻撃 情報セキュリティ脅威事例 セキュリティ技術 まとめ	事前： 動画視聴、確認テスト 事後： 課題の完成、レポートの作成																
関連科目	情報リテラシー																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率 (40%)、授業レポート (20%)、確認テスト (20%)、理解度テスト (20%)																			
学生へのメッセージ	計画的にオンデマンドで視聴してテストや課題をこなしてください。																			
担当者の研究室等	7号館5階																			
備考																				

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1331a1		

授業概要・目的	大学生で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」についてテキストを用いた学習と確認テストにより知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】 データベースと Excel の表	データベースとしての表の操作	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	データサイエンス基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(80%)、タイピング・プレゼン等の操作スキル(20%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	寺内准教授室(11号館10階)			
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチーム、または Teams チャットで質問してください。			

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1331a1		

授業概要・目的	大学生で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」についてテキストを用いた学習と確認テストにより知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】 データベースと Excel の表	データベースとしての表の操作	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	データサイエンス基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(80%)、タイピング・プレゼン等の操作スキル(20%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	寺内准教授室(11号館10階)			
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチーム、または Teams チャットで質問してください。			

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1331a1		

授業概要・目的	大学生で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」についてテキストを用いた学習と確認テストにより知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】 データベースと Excel の表	データベースとしての表の操作	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	データサイエンス基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂 4 版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題 (80%)、タイピング・プレゼン等の操作スキル (20%) を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	新居講師室 (7 号館 5 階)			
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチーム、または Teams チャットで質問してください。			

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 授業の流れ: ①「基本事項の解説」→②「演習問題に取り組む」→③「演習問題の解説」→④「グループワーク(他者と協働で解説を作成・ふりかえり)」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につけることで、各種採用試験(総合適性検査 SPI・公務員試験等)で出題される数的分野の問題に対応できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
2	方程式 (1)	・文章の数式化 (1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
3	方程式 (2)	・文章の数式化 (2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
4	割合と比 (1)	・割合 (1) ・損益算	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
5	割合と比 (2)	・割合 (2) ・濃度算	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
6	速さと速度 (1)	・速さ (1) ・旅人算 ・通過算	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
7	速さと速度 (2)	・速さ (2) ・流水算	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと (1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり
9	場合の数と確率 (1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
10	場合の数と確率 (2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
11	集合 (1)	・集合とベン図	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
12	集合 (2)	・集合と表	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
13	推論 (1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
14	推論 (2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: Moodle による確認テスト (45分)
15	総復習	・復習、補足 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: Moodle による小テスト (15分) 事後学習: 全15回の授業で取り組んだ問題を解き直すこと (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	「演習・グループワーク課題50%」と「中間・期末試験50%」の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習ステーション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 亜貴
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 授業の流れ: ①「基本事項の解説」→②「演習問題に取り組む」→③「演習問題の解説」→④「グループワーク(他者と協働で解説を作成・ふりかえり)」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につけることで、各種採用試験(総合適性検査 SPI・公務員試験等)で出題される数的分野の問題に対応できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
2	方程式(1)	・文章の数式化(1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
3	方程式(2)	・文章の数式化(2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
4	割合と比(1)	・割合(1) ・損益算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
5	割合と比(2)	・割合(2) ・濃度算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
6	速さと速度(1)	・速さ(1) ・旅人算 ・通過算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
7	速さと速度(2)	・速さ(2) ・流水算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり
9	場合の数と確率(1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
10	場合の数と確率(2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
11	集合(1)	・集合とベン図	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
12	集合(2)	・集合と表	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
13	推論(1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
14	推論(2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
15	総復習	・復習、補足 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: 全15回の授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	「演習・グループワーク課題50%」と「中間・期末試験50%」の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習ステーション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 授業の流れ: ①「基本事項の解説」→②「演習問題に取り組む」→③「演習問題の解説」→④「グループワーク(他者と協働で解説を作成・ふりかえり)」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につけることで、各種採用試験(総合適性検査 SPI・公務員試験等)で出題される数的分野の問題に対応できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
2	方程式(1)	・文章の数式化(1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
3	方程式(2)	・文章の数式化(2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
4	割合と比(1)	・割合(1) ・損益算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
5	割合と比(2)	・割合(2) ・濃度算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
6	速さと速度(1)	・速さ(1) ・旅人算 ・通過算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
7	速さと速度(2)	・速さ(2) ・流水算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり
9	場合の数と確率(1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
10	場合の数と確率(2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
11	集合(1)	・集合とベン図	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
12	集合(2)	・集合と表	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
13	推論(1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
14	推論(2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
15	総復習	・復習、補足 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: 全15回の授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	「演習・グループワーク課題50%」と「中間・期末試験50%」の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習ステーション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 授業の流れ: ①「基本事項の解説」→②「演習問題に取り組む」→③「演習問題の解説」→④「グループワーク(他者と協働で解説を作成・ふりかえり)」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につけることで、各種採用試験(総合適性検査 SPI・公務員試験等)で出題される数的分野の問題に対応できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
2	方程式(1)	・文章の数式化(1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
3	方程式(2)	・文章の数式化(2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
4	割合と比(1)	・割合(1) ・損益算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
5	割合と比(2)	・割合(2) ・濃度算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
6	速さと速度(1)	・速さ(1) ・旅人算 ・通過算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
7	速さと速度(2)	・速さ(2) ・流水算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり
9	場合の数と確率(1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
10	場合の数と確率(2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
11	集合(1)	・集合とベン図	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
12	集合(2)	・集合と表	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
13	推論(1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
14	推論(2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: Moodleによる確認テスト(45分)
15	総復習	・復習、補足 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: Moodleによる小テスト(15分) 事後学習: 全15回の授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	「演習・グループワーク課題50%」と「中間・期末試験50%」の合計によって評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習ステーション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	キャリア基礎	科目名 (英文)	Basic Career Planning
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 坂口 有芸, 水野 武, 横山 孝文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GCA1333a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ようこそ、摂南大学へ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (事前: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>さあ始めよう! 大学生活を</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (事前: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>摂南大学</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること (事後: 0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること (0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自己効力感を高めよう</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (事後: 2 時間) </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SDGs について考えよう グループ課題の設定</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと (事前: 0.5 時間) ・グループで課題に取り組むこと (2 時間) </td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会は君を待っている</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会の仕組み①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会の仕組み②</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分づくり①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (事前: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自分づくり②</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>スケジューリング術</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ビブリオバトル</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (事前: 1 時間) </td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (事前: 0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>・グループごとのプレゼンテーション</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のおさらい</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・期末レポートを作成すること (1.5 時間) </td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (事前: 0.5 時間) 	2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (事前: 0.5 時間) 	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること (事後: 0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること (0.5 時間) 	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (事後: 2 時間) 	5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと (事前: 0.5 時間) ・グループで課題に取り組むこと (2 時間) 	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (事後: 0.5 時間) 	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (事後: 0.5 時間) 	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (事後: 0.5 時間) 	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (事前: 0.5 時間) 	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (事後: 0.5 時間) 	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (事後: 0.5 時間) 	12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (事前: 1 時間) 	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (事前: 0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) 	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) 	15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・期末レポートを作成すること (1.5 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (事前: 0.5 時間) 																																																																
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (事前: 0.5 時間) 																																																																
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること (事後: 0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること (0.5 時間) 																																																																
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (事後: 2 時間) 																																																																
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと (事前: 0.5 時間) ・グループで課題に取り組むこと (2 時間) 																																																																
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (事後: 0.5 時間) 																																																																
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (事後: 0.5 時間) 																																																																
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (事後: 0.5 時間) 																																																																
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (事前: 0.5 時間) 																																																																
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (事後: 0.5 時間) 																																																																
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (事後: 0.5 時間) 																																																																
12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (事前: 1 時間) 																																																																
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (事前: 0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) 																																																																
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) 																																																																
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・期末レポートを作成すること (1.5 時間) 																																																																
関連科目	<p>キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ</p>																																																																		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	石井三恵 (7号館 5F) 水野武 (7号館 3F) 坂口有芸 (7号館 5F) 横山孝文 (3号館 3F)			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる (Teams、Moodle か Web フォルダー等) ので各教員の指示に従うこと。			

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑦⑧⑨⑩⑪⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹澤 健介, 小林 直生, 福本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GPH1337a1		

授業概要・目的
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法及び留意点
実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

科目学習の効果 (資格)
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分)	事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分)	事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム①	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム②	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム③	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム④	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム⑤	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム⑥	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：全授業の総括 (30分)

関連科目
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	①②③④⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹澤 健介, 小林 直生, 福本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GPH1337a1		

授業概要・目的
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点
実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

科目学習の効果 (資格)
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム①	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム②	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム③	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム④	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム⑤	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム⑥	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦⑧⑨⑩⑪⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹澤 健介, 小林 直生, 福本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GPH1338a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。(DP1)

授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
4	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
5	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・ゲーム①	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・ゲーム②	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム③	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム④	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム⑤	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム⑥	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム⑦	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム⑧ ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の実論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	--

学生への	授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
------	---

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①②③④⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹澤 健介, 小林 直生, 福本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GPH1338a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。(DP1)

授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する (30分) 事後: 本実習の理解を深める (30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく (30分) 事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
4	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
5	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
8	・ゲーム①	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
9	・ゲーム②	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム③	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム④	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム⑤	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム⑥	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム⑦	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム⑧ ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 全授業の総括 (30分)

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の実論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業: 活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)を準備する

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博・横山 孝文・岩坪 加紋・柏原 郁子・金 政芸・高間 佐知子・堀内 利一・羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	GKY1339a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習:『おとなの教養』 序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門:第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読む(1.5時間以上)
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習:第1回レポート(0.5時間以上)
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDGs とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGs とは何か、指定した資料を調べる(1.5時間以上)
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGs とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAI とは何かを調べる(1.0時間以上) 事後学習:第2回レポート(0.5時間以上)
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上)

				事後学習：第3回レポート (0.5時間以上)
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (1.5時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 15% ・プレゼン 15% ・レポート 20% ・振り返りシート 15% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 5% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	寺内睦博 (11号館10F), 石井三恵 (7号館5F), 堀内利一 (1号館5F), 柏原郁子 (7号館4F), 岩坪加紋 (11号館8F), 金政芸 (11号館8F), 高間佐知子 (11号館10F), 羅鵬飛 (1号館7F)			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博・横山 孝文・岩坪 加紋・大槻 忠史・小都 晶子・本多 康作・湯浅 恵造
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	GKY1339a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習:『おとなの教養』 序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門:第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読む(1.5時間以上)
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習:第1回レポート(0.5時間以上)
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDGs とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGs とは何か、指定した資料を調べる(1.5時間以上)
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGs とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAI とは何かを調べる(1.0時間以上) 事後学習:第2回レポート(0.5時間以上)
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上)

				事後学習：第3回レポート (0.5時間以上)
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (1.5時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 15% ・プレゼン 15% ・レポート 20% ・振り返りシート 15% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 5% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	寺内睦博 (11号館10F)、石井三恵 (7号館5F)、湯浅恵造 (1号館9F)、小都晶子 (7号館3F)、岩坪加紋 (11号館8F)、本多康作 (11号館9F)、大槻忠史 (1号館7F)、横山孝文 (3号館3F)			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評定は出ません。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目 教職課程におけるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考	Teams コード 火曜 5 限: zjj0tqu 木曜 1 限: 2ykhkk8 木曜 5 限: 9lu91y1 金曜 5 限: hiwxh3c Moodle コース名と登録キー 火曜 5 限: 2023 教育心理学 (火 5) あるいは 23 教心 (火 5) 2023EPTUE5 木曜 1 限: 2023 教育心理学 (木 1) あるいは 23 教心 (木 1) 2023EPTU1
----	--

	木曜5限：2023 教育心理学（木5）あるいは 23 教心（木5） 2023EPTHU5 金曜5限：2023 教育心理学（金5）あるいは 23 教心（金5） 2023EPPRI5
--	--

- ・期末試験は希望者に返却します。
- ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習(探求)の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習(探求)の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。 5 主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習(探求)の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グルーワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果(資格)	教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習(探求)の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量
2		特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習する(2時間)。
3		学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり ワーク:学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
4		学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グルーワーク:学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
5		生徒会活動・児童会活動	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をする(2時間)。
6		学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グルーワーク:学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
7		特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABDによる)	教科書第4章第1節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
8		特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABDによる)	教科書第4章第2節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
9		特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景との関係 個別ワーク:戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
10		外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク:特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
11		総合的な学習(探求)の時間の目標・内容・原理	総合的な学習(探求)の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グルーワーク:総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
12		総合的な学習(探求)の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 グルーワーク:総合的な学習の時間の年間計画作成 1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
13		探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び グルーワーク:総合的な学習の時間の年間計画作成 2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
14		総合的な学習(探求)の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 グルーワーク:総合的な学習の時間の年間計画について発表	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
15		補足とまとめ/最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク:総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだといえる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F 松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。</p> <p>具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキストP.3を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①：教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②：教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③：子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキストP.76～85を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④：教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキストP.69～73を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキストP.93～97を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキストP.86～90を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論：20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.29～32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①：学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.50～54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.147～151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ：今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみる大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 （基準）	<p>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。</p> <p>また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</p>			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1327c1		

<p>授業概要・目的</p>	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習 (応用) での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC (英語の場合) の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																
<p>授業方法と留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
<p>授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題</p>	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。() 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬 (9月下旬~10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬~7月下旬 (11月~2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬~9月上旬 (2月中下旬~3月下旬) ・事後授業5回 (成果報告会含む)：9月~10月中旬 (3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW (English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書 (レポート) および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
<p>関連科目</p>	<p>グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ論 (応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など</p>																
<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	

	3		
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。		
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館1階グローバル教育センターまで		
備考			